

2023年度

シラバス

経済学研究科

立教大学

作成日: 2023 年 03 月 18 日

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	佐藤 有史(SATO YUJI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	林 采成(LIM CHAISUNG)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	遠山 恭司(TOYAMA KYOJI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	首藤 若葉(SHUTO WAKANA)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	安藤 道人(ANDO MICHIIHITO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	櫻本 健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	荒川 章義(ARAKAWA AKIYOSHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	飯島 寛之(IIJIMA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	池上 岳彦(IKEGAMI TAKEHIKO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	三谷 進(MITANI SUSUMU)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	小鞠 昭彦(KOMARI AKIHIKO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	厳 成男(YAN CHENGNNAN)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	田中 光史(TANAKA KOSHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	櫻井 公人(SAKURAI KIMIHITO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	島西 智輝(SHIMANISHI TOMOKI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	田島 夏与(TAJIMA KAYO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	岡部 桂史(OKABE KEISHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	諸藤 裕美(MOROFUJI YUMI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	山縣 宏之(YAMAGATA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	山本 周吾(YAMAMOTO SHUGO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	二宮 健史郎(NINOMIYA KENSHIRO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	郭 洋春(KWAK YANGCHOON)		
学期 (Semester)	休講	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	佐々木 隆治(SASAKI RYUJI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	湊 照宏(MINATO TERUHIRO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	菊池 航(KIKUCHI WATARU)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT, ANDREW)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	関口 智(SEKIGUCHI SATOSHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	菅沼 隆(SUGANUMA TAKASHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	蓮見 雄(HASUMI YU)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	藤原 新(FUJIWARA ARATA)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	森本 壮亮(MORIMOTO SOUSUKE)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	池田 毅(IKEDA TAKESHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	山田 康裕(YAMADA YASUHIRO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	米谷 健司(KOMETANI KENJI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	石田 惣平(ISHIDA SOUHEI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	内野 一樹(UCHINO KAZUKI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	坂本 雅士(SAKAMOTO MASASHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	小澤 康裕(OZAWA MICHIIHIRO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	佐藤 有史(SATO YUJI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	林 采成(LIM CHAISUNG)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	遠山 恭司(TOYAMA KYOJI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCat などを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	首藤 若葉(SHUTO WAKANA)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	安藤 道人(ANDO MICHIIHITO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	櫻本 健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	荒川 章義(ARAKAWA AKIYOSHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	飯島 寛之(IIJIMA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	池上 岳彦(IKEGAMI TAKEHIKO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	三谷 進(MITANI SUSUMU)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	小鞠 昭彦(KOMARI AKIHIKO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6～7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	厳 成男(YAN CHENGNNAN)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後を予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	田中 光史(TANAKA KOSHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	島西 智輝(SHIMANISHI TOMOKI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	田島 夏与(TAJIMA KAYO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	岡部 桂史(OKABE KEISHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	諸藤 裕美(MOROFUJI YUMI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	山縣 宏之(YAMAGATA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	山本 周吾(YAMAMOTO SHUGO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	二宮 健史郎(NINOMIYA KENSHIRO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後を予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	郭 洋春(KWAK YANGCHOON)		
学期 (Semester)	休講	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	佐々木 隆治(SASAKI RYUJI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	湊 照宏(MINATO TERUHIRO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCat などを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	菊池 航(KIKUCHI WATARU)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT, ANDREW)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	関口 智(SEKIGUCHI SATOSHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後を予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	菅沼 隆(SUGANUMA TAKASHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	蓮見 雄(HASUMI YU)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後を予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	藤原 新(FUJIWARA ARATA)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6～7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	森本 壮亮(MORIMOTO SOUSUKE)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	池田 毅(IKEDA TAKESHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後を予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	山田 康裕(YAMADA YASUHIRO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後を予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	米谷 健司(KOMETANI KENJI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	石田 惣平(ISHIDA SOUHEI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	内野 一樹(UCHINO KAZUKI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	坂本 雅士(SAKAMOTO MASASHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	小澤 康裕(OZAWA MICHIIHIRO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマップ化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	関 智一(SEKI TOMOKAZU)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing (立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	関 智一(SEKI TOMOKAZU)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後を予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導1 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	境 勉(SAKAI TSUTOMU)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。
なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus,

WorldCatなどを目的に応じて用いる。

13. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
15. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
16. キーワードのマッピング化。すでに関心を書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
17. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
18. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
19. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
20. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
21. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
22. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
23. 修士論文構想発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
24. 修士論文構想発表会(11-12月)での報告。
25. 修士論文構想発表会における反省、コメント等をふまえ、構想を再検討、再構成。
26. スケルトンシートの再確認。
27. 論文テーマの再確認。
28. 論文の推敲と再構成。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文構想発表会等における報告(40%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／演習特別指導2 (Guidance in Preparing a Master's Thesis 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	修士論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	境 勉(SAKAI TSUTOMU)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講の準備。1 修士論文作成副指導教員届を提出し、2 初回受講の確認を経て、3 初回指導にのぞむこと。
2. ★論文テーマ(タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。スケルトンシートには、下記のうち★印のついた項目を含めるが、若干修正などしてもよい。
3. ★キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. ★問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. ★目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。その後、これを「目標規定文」にまで絞り込む。
6. ★問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. ★仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. ★アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通の基本手法である。その他のアプローチとして「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
10. 修士論文中間発表会向けのレジュメ、パワーポイント資料等の作成。
11. 修士論文中間発表会(6-7月)での報告。昼の院生は水曜午後、社会人コースは土曜午後に予定。

12. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
13. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
14. ★主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
15. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
16. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
17. キーワードのマッピング化。すでに関し書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
18. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
19. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
20. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
21. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
22. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
23. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
24. 修士論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
25. 修士論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
26. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。
27. 論文の再確認。
28. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修士論文中間発表会、草稿発表会等における報告(50%)/スケルトンシートの作成等(30%)/論文執筆準備等(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

修士論文執筆に関わる参考文献は、各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA103／流通・分配特論1 (Special Lecture on Theory of Commodities and Income Distribution 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	『資本論』からマルクスの経済学の基本を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	森本 壮亮(MORIMOTO SOUSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5120	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

K.マルクスの『資本論』を読むことで、古典派経済学およびマルクス経済学の基礎を習得する。

Students will learn basic theories of Marxian economics and classical economics by reading Marx's Capital.

授業の内容(Course Contents)

マルクスの『資本論』を実際に読んでいくことにより、古典派経済学およびマルクス経済学の基本を学んでいく。

具体的に『資本論』のどの部分を、毎回どの分量で読んでいくかは、受講者の希望も聞いて最終的に判断するが、一つのプランとしては、下記の「授業計画」欄のように読み進めていくことを考えている。このプランは第一巻部分となっているが、第一巻部分の知識がある受講者の場合は、第二巻・第三巻部分を読んでもよい。

※ 適宜、参加者の研究発表もしてもらう予定である。

Students will learn basic theories of Marxian economics and classical economics by reading Das Kapital.

Professor will listen to and discuss with students to decide which parts of Das Kapital and how much students will read every time. The following lesson plan is one of the reading recommendations. With this plan, students will read the first volume but those who know the first volume may read the second and third volumes.

Note: Some research talks will be required.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション、各自の自己紹介と研究の方向性について
2. 第一版序文、第二版後記、フランス語版序文および後記、第三版へ、英語版序文、第四版へ
3. 第1章第1節～第3節 A
4. 第1章第3節 B～第2章
5. 第3章
6. 第4章
7. 第5章～第6章
8. 第7章～第8章第3節
9. 第8章第4節～第7節
10. 第9章～第11章
11. 第12章
12. 第13章第1節～第5節
13. 第13章第6節～第10節
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回進んでいく『資本論』の該当部分を事前に読み、担当箇所のレジュメを作るほか、授業後に参考文献などを用いて復習すること。なお、毎回のレジュメ作成や復習には、「参考文献」欄に示す『資本論体系』(有斐閣)の各巻が非常に参考になるはずである。

成績評価方法・基準(Evaluation)

担当箇所のレジュメ作成(60%)/毎回の議論等への参加度(40%)

テキスト(Textbooks)

1. K.マルクス、『資本論』、新日本出版社、大月書店

『資本論』の邦訳は幾種類もあるが、本授業においては、新日本出版社のものか、大月書店(国民文庫)のものを推奨する(実際にこれまでの研究論文等々で用いられてきた用語と合わせるため)。新日本出版社の方が新しく、誤訳が修正されていたりするが、大月書店の岡崎訳の方が読みやすい日本語が用いられている。実際に授業で用いる限りでは、両訳書に大差はないので、受講者の好みの方を用いてくれて構わない。なお、新日本出版社版のものに関しては、旧来の新書版のものに加えて、若干の訳語の修正がなされた新版が近年出版されたので、これから手に入れる人は、その最新版のものが良いだろう。

参考文献(Readings)

1. 富塚良三・服部文男・本間要一郎(編)、1984～2001、『資本論体系(各巻)』、有斐閣

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA104／流通・分配特論2 (Special Lecture on Theory of Commodities and Income Distribution 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	『資本論』からマルクスの経済学の基本を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	森本 壮亮(MORIMOTO SOUSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5120	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

K.マルクスの『資本論』を読むことで、古典派経済学およびマルクス経済学の基礎を習得する。

Students will learn basic theories of Marxian economics and classical economics by reading Marx's Capital.

授業の内容 (Course Contents)

流通・分配特論1に引き続いて、『資本論』を実際に読んでいくことにより、古典派経済学およびマルクス経済学の基本を学んでいく。また何度か、受講者の研究内容に基づいた研究報告もおこなってもらう予定である。

After Special Lecture on Theory of Commodities and Income Distribution 1, students will learn basic theories of Marxian and classical economics by reading Marx's Das Kapital. In addition, participants should give some research talks on their own research topics.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション、割り振り
2. 第14章～第16章
3. 第17章～第19章
4. 第20章～第22章第1節
5. 第22章第2節～第5節
6. 第23章第1節～第3節
7. 第23章第4節～第5節 d
8. 第23章第5節 e～f
9. 第24章第1節～第3節
10. 第24章第4節～第25章
11. これまでのまとめ(1)
12. これまでのまとめ(2)
13. 各個人が興味をもったテーマについての研究報告(1)
14. 各個人が興味をもったテーマについての研究報告(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回進んでいく『資本論』の該当部分を事前に読み、担当箇所のレジュメを作るほか、授業後に参考文献などを用いて復習すること。なお、毎回のレジュメ作成や復習には、「参考文献」欄に示す『資本論体系』(有斐閣)の各巻が非常に参考になるはずである。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当箇所のレジュメ(60%)/毎回の議論への参加度(40%)

テキスト (Textbooks)

1. K.マルクス、『資本論』、新日本出版社、大月書店
『資本論』の邦訳は幾種類もあるが、本授業においては、新日本出版社のものか、大月書店(国民文庫)のものを推奨する(実際にこれまでの研究論文等々で用いられてきた用語と合わせるため)。新日本出版社の方が新しく、誤訳が修正されていたりしますが、大月書店の岡崎訳の方が読みやすい日本語が用いられている。実際に授業で用いる限りでは、両訳書に大差はないので、受講者の好みの方を用いてくれて構わない。なお、新日本出版社版に関しては、近年新訳が出版されたので、これから手に入れる人はその新版が良いだろう。

参考文献 (Readings)

1. 富塚良三・服部文男・本間要一郎(編)、1984～2001、『資本論体系(各巻)』、有斐閣

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA105／価値論特論1 (Special Lecture on Theory of Value 1)		
担当者名 (Instructor)	佐々木 隆治(SASAKI RYUJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5120	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA361 価値論特殊講義1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

『資本論』および『資本論草稿』を読解し、内容を正確に理解する。また、それをつづじて、マルクスの経済学批判体系の現代的意義についての理解を深めるとともに、関連する論争や学説についての理解も深める。

To read and understand Karl Marx's 'Capital' and related manuscripts correctly. Through this, students deepen their understanding of the contemporary significance of Marx's critique of political economy, as well as their understanding of related disputes and theories.

授業の内容 (Course Contents)

『資本論』および関連草稿を輪読する。詳細は参加院生の研究テーマを踏まえて決定する。

Participants read 'Capital' and related manuscripts. Details will be decided based on the research themes of the participants.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(1)
3. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(2)
4. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(3)
5. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(4)
6. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(5)
7. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(6)
8. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(7)
9. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(8)
10. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(9)
11. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(10)
12. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(11)
13. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(12)
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの予習。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(100%)

テキスト (Textbooks)

1. カール・マルクス、『資本論』、大月書店
2. カール・マルクス、『資本論草稿集』、大月書店

参考文献 (Readings)

適宜授業中に指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA106／価値論特論2 (Special Lecture on Theory of Value 2)		
担当者名 (Instructor)	佐々木 隆治(SASAKI RYUJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5120	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA362 価値論特殊講義2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

『資本論』および『資本論草稿』を読解し、内容を正確に理解する。また、それをつうじて、マルクスの経済学批判体系の現代的意義についての理解を深めるとともに、関連する論争や学説についての理解も深める。

To read and understand Karl Marx's 'Capital' and 'Manuscript of Capital' correctly. Through this, students deepen their understanding of the contemporary significance of Marx's critique of political economy, as well as their understanding of related disputes and theories.

授業の内容 (Course Contents)

『資本論』および関連草稿を輪読する。詳細は参加院生の研究テーマを踏まえて決定する。

Participants read 'Capital' and related drafts. Details will be decided based on the research themes of the participants.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(1)
3. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(2)
4. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(3)
5. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(4)
6. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(5)
7. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(6)
8. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(7)
9. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(8)
10. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(9)
11. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(10)
12. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(11)
13. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(12)
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの予習。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(100%)

テキスト (Textbooks)

1. カール・マルクス、『資本論』、大月書店
2. カール・マルクス、『資本論草稿集』、大月書店

参考文献 (Readings)

適宜授業中に指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA107／景気変動特論1 (Special Lecture on Business Cycles 1)		
担当者名 (Instructor)	二宮 健史郎(NINOMIYA KENSHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5120	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA303 景気変動特殊講義1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

経済の供給面を重視する(新)古典派経済学と需要面を重視するケインズ経済学の相違を理解した上で、ポスト・ケインズ派マクロ動学モデルの分析手法の基礎を修得することを本講義の目標とする。

Students will understand differences between (neo) classical economics which emphasize supply and Keynesian economics which emphasizes demand. The goal of this class is to help students to learn basic analysis methods in post-Keynesian macrodynamic model.

授業の内容 (Course Contents)

新古典派、ケインズ派の基本モデルを学習したのち、ポスト・ケインズ派マクロ動学モデルの分析手法等を学習する。さらに、その応用例としてポスト・ケインズ派マクロ動学モデルの一つであるカルドア型循環モデルと数値シミュレーションの方法を学習する。ポスト・ケインズ派のマクロ動学では、Hopf の分岐定理を適用した閉軌道の存在証明など、非線形経済動学が用いられている。

While learning basic neoclassical and Keynesian models, students will learn how to analyze post-Keynesian macrodynamic model. As its application, students will learn Kaldor cycle model, one of post-Keynesian macrodynamic model, and numeral simulation method. Post-Keynesian macrodynamics use non-linear economics such as proving existence of closed orbit with Hopf branch theorem.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 現代の経済と経済学の考え方
3. 貨幣数量説モデル(1)
4. 貨幣数量説モデル(2)
5. ケインズ派モデル(1)
6. ケインズ派モデル(2)
7. マクロ動学分析の方法(1)
8. マクロ動学分析の方法(2)
9. マクロ動学分析の方法(3)
10. 新古典派成長モデル
11. 異時点間の最適消費とラムゼイ・モデル
12. 内生的景気循環論(1)
13. 内生的景気循環論(2)
14. ポスト・ケインズ派マクロ動学の展開

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

復習に重点を置くことを勧める。経済数学(特に、微分、微分方程式、線形代数など)を予習しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

小レポート(30%) / 出席討論(70%)

授業の性質上、全回出席を前提とする。

テキスト (Textbooks)

1. 二宮健史郎、2018、『金融不安定性のマクロ動学』、大月書店

参考文献 (Readings)

1. 二宮健史郎、2006、『金融恐慌のマクロ経済学』、中央経済社
 2. A.C.チャン・K.ウエイナイト、2010、『現代経済学の数学基礎(上)(下)』、シーエーピー出版
 3. 小林幹・吉田博之、2020、『経済数学 15 講義』、新世社
- 二宮健史郎「ポスト・ケインズ派マクロ動学分析の方法と展開」『立教経済学研究』第 74 巻第 2 号、2020 年。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

- ・研究室での対面、Zoom を利用したオンラインを併用して講義を行う。
 - ・景気変動特論 2 も受講することが望ましい。マクロ経済学、ミクロ経済学の基礎は修得済みであることを前提として講義する。
- 本科目では、報告やディスカッションなどの双方向形式で行われることがある。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA108／景気変動特論2 (Special Lecture on Business Cycles 2)		
担当者名 (Instructor)	二宮 健史郎(NINOMIYA KENSHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5120	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA304 景気変動特殊講義2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

サブプライム問題に端を発した世界的な金融危機により、異端の経済学者ミンスキーの金融不安定性仮説は注目を集めた。本講義では、金融不安定性仮説を数理モデルに展開した諸研究を概観することにより金融的な景気変動を理解し、モデル分析の素養を身につけることを目標とする。

After global financial crisis triggered by sub-prime crisis, many have focused on financial instability hypothesis by unorthodox economist Minsky. In this class, students will review various researches that apply mathematical models on financial instability hypothesis. Through this, students will understand economic climate trend and acquire knowledge of model analysis.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、ミンスキーの金融不安定性仮説、金融不安定性仮説を数理モデルに展開した諸研究を概観し、関連する論文を輪読する。授業計画の「報告」と書かれている部分は、受講者による論文などの報告である。報告してもらう論文等はこちらが指定する。報告者は、レジュメ、スライド(TeX または Power Point)等を作成して報告すること。

In this class, students will review various researches that apply mathematical models on financial instability hypothesis and read relevant papers. The "report" in the lesson plan refers to the report by students such as papers. Professor will determine theses and other reports to be submitted. Students will create reports such as summaries and slides (TeX or PowerPoint).

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. マンキュー・モデル
3. 金融不安定性仮説の基本的な考え方(1) 報告
4. 負債効果
5. 金融不安定性仮説の基本的な考え方(2) 報告
6. 内生的景気循環論(3)
7. 論文輪読(1) 報告
8. 内生的景気循環論(4)
9. 論文輪読(2) 報告
10. 新古典派成長モデル
11. 論文輪読(3) 報告
12. 異時点間の最適消費
13. 金融不安定性のマクロ動学 報告
14. ラムゼイ・モデル

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

経済数学(特に、微分、微分方程式、線形代数など)を予習しておくことが望ましい。論文を報告する際には、数式の導出まで説明できるようにすること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業の報告・討論(70%) / 小レポート、授業内のテスト等(30%)
授業の性質上、全回出席を前提とする。

テキスト (Textbooks)

1. 二宮健史郎、2018、『金融不安定性のマクロ動学』、大月書店

参考文献 (Readings)

1. 二宮健史郎、2006、『金融恐慌のマクロ経済学』、中央経済社
 2. A.C.チャーン・K.ウエインライト、2010、『現代経済学の数学基礎(上)(下)』、シーエーピー出版
 3. 小林幹・吉田博之、2020、『経済数学 15 講義』、新世社
- 二宮健史郎「金融構造とポスト・ケインズ派マクロ動学: 展望」『立教経済学研究』第 73 巻第 2 号、2019 年。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

- ・研究室での対面と Zoom を利用したオンラインを併用して講義を行う。
- ・景気変動特論 1 も受講することが非常に望ましい。景気変動特論1の内容を理解できていないと、景気変動特論 2 の内容を理解することはほぼ不可能である。本科目では、全授業回数の 50%以上が論文の報告やディスカッションなどの双方向形式の授業によって運営される。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA113／財政学2特論1 (Special Lecture on Finance 2-1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	DX や GX の同時推進と持続可能なまちづくり		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA307 財政学 2 特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

政治経済学からみた現代の都市が直面する課題と DX、GX、ESG や SDGs について学習する。

授業の内容 (Course Contents)

コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。1冊にまとめた教科書はないため、DX、GX、ESG や SDGs、クリティカル・ミネラルズ、コンパクトシティ、税制改革などのテーマに応じて、関連する論文等を読んでいく。また、学生には発表や討議を通じて、現代財政や都市統治のあり方についての理解を深め、最新の情報を学ぶことも求められる。

授業計画 (Course Schedule)

1. DX、GX、ESG や SDGs と持続可能なまちづくり
2. DX と持続可能なまちづくり
3. GX と持続可能なまちづくり
4. ESG と持続可能なまちづくり
5. SDGs と持続可能なまちづくり
6. 事例：スマートシティ東京都と官民連携
7. 事例：富山市におけるコンパクトでスマートなまちづくり
8. 事例：浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム
9. 事例：国土強靱化地域計画とその背景
10. 事例：大阪モデルのスマートシティ
11. 事例：福島新エネ社会構想
12. 事例：スマートシティ会津若松
13. 事例：災害に強い地域マイクログリッド
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習については、別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/プレゼンテーション(30%)/ディスカッション(30%)

テキスト (Textbooks)

1. KPMG コンサルティング、2022、『スマートシティ 3.0 (日経ムック)』、日本経済新聞出版 (ISBN:978-4296113934)
2. 瀬藤澄彦、2022、『グローバル都市革命: コンパクトシティ 田園都市 第3の都市』、文真堂 (ISBN:978-4830951886)
3. 富国生命投資顧問、2022、『ESG 投資 持続可能な将来設計』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4478115893)

スマートシティ官民連携プラットフォーム

<https://www.mlit.go.jp/scpf/>

地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム

<https://future-city.go.jp/platform/>

GX を支える地域・くらしの脱炭素

https://www.env.go.jp/council/content/i_05/000096596.pdf

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

国土強靱化

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/

地域強靱化計画(国土強靱化地域計画)

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/tiiki.html

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA114／財政学2特論2 (Special Lecture on Finance 2-2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	DX や GX の同時推進と持続可能なまちづくり		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA308 財政学 2 特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

政治経済学からみた現代の都市が直面する課題と DX、GX、ESG、SDGs について学習する。

授業の内容 (Course Contents)

コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。1冊にまとめた教科書はないため、DX、GX、ESG や SDGs、クリティカル・ミネラルズ、コンパクトシティ、税制改革などのテーマに応じて、関連する論文等を読んでいく。また、学生には発表や討議を通じて、現代財政や都市統治のあり方についての理解を深め、最新の情報を学ぶことも求められる。

授業計画 (Course Schedule)

1. 世界における都市化と DX、GX、ESG、SDGs
2. スマートシティとエネルギー安全保障
3. 実例：日米スマートシティ協力1
4. 実例：日米スマートシティ協力2
5. 実例：日印スマートシティ協力1
6. 実例：日印スマートシティ協力2
7. 実例：日欧スマートシティ協力1
8. 実例：日欧スマートシティ協力2
9. 実例：NEC とスマートシティ
10. 実例：国際協力機構とスマートシティ
11. 実例：日立とスマートシティ
12. 実例：日建設とスマートシティ
13. 実例：新エネルギー・産業技術総合開発機構とスマートシティ
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習については、別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／プレゼンテーション(30%)／ディスカッション(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 安岡 美佳;ユリアン 森江 原 ニールセン、2022、『北欧のスマートシティ: テクノロジーを活用したウェルビーイングな都市づくり』、学芸出版社 (ISBN:978-4761528386)
 2. ジェフ・スベック、2022、『ウォーカブルシティ入門』、学芸出版社 (ISBN:978-4761528249)
- アジアの脱炭素都市の実現に向けた情報提供サイト
<https://www.env.go.jp/earth/coop/lowcarbon-asia/>
 日米グローバル地方ゼロカーボン促進イニシアティブ
<https://www.env.go.jp/press/110703.html>
 持続可能な開発目標(SDGs) - 2030 アジェンダ | 国連広報センタ
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

参考文献 (Readings)

日系企業の海外進出機会 - 資源エネルギー庁
https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/advanced_systems/smart_community/smartcity_ws/pdf/smartcity_ws2022_01r.pdf

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

全世界 スマートシティアプローチの適用性に係る

<https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/12342507.pdf>

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA115／現代金融特論1 (Special Lecture on Modern Finance 1)		
担当者名 (Instructor)	飯島 寛之(IIJIMA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本授業のひとつの目標は、拡大と複雑化の一途を辿る金融活動を分析するための能力を養うため、その理論的・歴史的な理解を深めることである。また上記の理解をもとに現代資本主義下における諸課題に対し金融を切り口として分析できるようになることがいまひとつの目標である。

There are two goals for this class. One is to deepen its theoretical and historical understanding to develop the ability to analyze financial activities that continue to expand and become more complex. The other is that based on this understanding, it will be possible to analyze financial issues from various perspectives under modern capitalism.

授業の内容 (Course Contents)

講義の目的を達するために必要な文献を輪読したあと、議論を行う。文献は、信用に関する古典、または英語文献(その際には全員が英訳)あるいはその他の必須文献であるが、いずれの場合も報告者のみならず参加者が用意する議論のための資料にもとづいて講義が行われる。また後半には受講生の研究報告をもとに、議論を行う。どちらの割合が多くなるかは、受講生の人数による。

After reading the literature necessary to achieve the objectives of this lecture, we will have a discussion. In the second half, we will discuss the research reports of the students. All students, not just the presenters, will be required to prepare resumes and materials for discussion.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 輪読と議論
3. 輪読と議論
4. 輪読と議論
5. 輪読と議論
6. 輪読と議論
7. 輪読と議論
8. 研究報告
9. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究報告
14. 研究報告

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

自分の研究テーマと関連する論文を自ら選び、報告の準備をしておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への参加度(40%) / 課題(30%) / 報告・準備内容(30%)

テキスト (Textbooks)

受講者と相談の上指定する

参考文献 (Readings)

1. 飯島・五百旗頭・佐藤・菅原、2017、『身近に感じる国際金融』、有斐閣 (ISBN:978-4641150447)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA116／現代金融特論2 (Special Lecture on Modern Finance 2)		
担当者名 (Instructor)	飯島 寛之(IIJIMA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本授業のひとつの目標は、拡大と複雑化の一途を辿る金融活動を分析するための能力を養うため、その理論的・歴史的な理解を深めることである。また上記の理解をもとに現代資本主義下における諸課題に対し金融を切り口として分析できるようになることがいまひとつの目標である。

There are two goals for this class. One is to deepen its theoretical and historical understanding to develop the ability to analyze international financial activities that continue to expand and become more complex. The other is that based on this understanding, it will be possible to analyze financial issues from various perspectives under modern capitalism.

授業の内容 (Course Contents)

講義の目的を達するために必要な文献を輪読したあと、議論を行う。文献は、信用に関する古典、または英語文献(その際には全員が英訳)あるいはその他の必須文献であるが、いずれの場合も報告者のみならず参加者が用意する議論のための資料にもとづいて講義が行われる。また後半には受講生の研究報告をもとに、議論を行う。どちらの割合が多くなるかは、受講生の人数による。

After reading the literature necessary to achieve the objectives of this lecture, we will have a discussion. In the second half, we will discuss the research reports of the students. All students, not just the presenters, will be required to prepare resumes and materials for discussion.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 輪読と議論
3. 輪読と議論
4. 輪読と議論
5. 輪読と議論
6. 輪読と議論
7. 輪読と議論
8. 輪読と議論
9. 研究報告
10. 研究報告
11. 研究報告
12. 研究報告
13. 研究報告
14. 研究報告

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

自分の研究テーマと関連する論文を自ら選び、報告の準備をしておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への参加度(40%)／報告・準備内容(30%)／課題(30%)

テキスト (Textbooks)

受講者と相談の上決定する

参考文献 (Readings)

1. 飯島・五百旗頭・佐藤・菅原、2017、『身近に感じる国際金融』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-15044-7)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA119／国際金融特論1 (Special Lecture on International Finance 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際通貨システムと国際資金循環		
担当者名 (Instructor)	山本 周吾(YAMAMOTO SHUGO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

国際金融論及び金融論に関する修士論文を執筆するための知識や思考を養うことを目的としている。
具体的には、国際通貨システムと国際資金循環の歴史と現状についての最新の理論について深く学ぶ。

This course is intended for students who want to write a Master's thesis in the field of international finance and finance

授業の内容 (Course Contents)

この講義は2部に分かれており、演習形式でおこなう。

- ・第1部: テキスト・論文の輪読・議論
- ・第2部: 学生による修士論文に関する研究報告

The course content is about history and recent trends in international currency and cross-border capital flow. Not only reading, but also we will make a discussion. Therefore, every students must prepare for the course.

授業計画 (Course Schedule)

1. 中央銀行のバランスシートと通貨供給①
2. 中央銀行のバランスシートと通貨供給②
3. リーマンショックとFRB①
4. リーマンショックとFRB②
5. 欧州危機とユーロシステム①
6. 欧州危機とユーロシステム②
7. 金融機関の破綻処理と日本銀行①
8. 金融機関の破綻処理と日本銀行②
9. ベイルアウトとベイルイン①
10. ベイルアウトとベイルイン②
11. 「異次元緩和」の論理①
12. 「異次元緩和」の論理②
13. 修士論文に関する研究報告①
14. 修士論文に関する研究報告②

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

報告者は報告のための準備を入念に行うこと。当然のことながら、報告者以外も事前に文献を読み込む等の質の高い準備が必要である。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 伊豆久、2016、『金融危機と中央銀行』、九州大学出版会 (ISBN:978-4-7985-0181-9)

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

この講義の履修の後に「国際金融特論2」を履修するのが望ましい

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA120／国際金融特論2 (Special Lecture on International Finance 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	世界金融危機と国際通貨システム		
担当者名 (Instructor)	山本 周吾(YAMAMOTO SHUGO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

国際金融論に関する修士論文を執筆するための必要な知識や思考力を養うことが目的である。そのために、最新の国際金融の論文とレポートについて深く読み込み、議論をおこなう。

This course is intended for students who want to write a Master's thesis in the field of international finance and finance.

授業の内容 (Course Contents)

この講義は演習形式でおこなう。世界金融危機以降の最新の国際金融の動向を理解するために、体系的に文献を読み込み、議論をおこなう。

The course content is about history and recent trends in international currency and cross-border capital flow. Not only reading, but also we will make a discussion. Therefore, every students must prepare for the course.

授業計画 (Course Schedule)

1. 論文の輪読とそれを基にディスカッション
2. 論文の輪読とそれを基にディスカッション
3. 論文の輪読とそれを基にディスカッション
4. 論文の輪読とそれを基にディスカッション
5. 論文の輪読とそれを基にディスカッション
6. 論文の輪読とそれを基にディスカッション
7. 論文の輪読とそれを基にディスカッション
8. 論文の輪読とそれを基にディスカッション
9. 論文の輪読とそれを基にディスカッション
10. 修士論文に関する研究報告①
11. 修士論文に関する研究報告②
12. 修士論文に関する研究報告③
13. 修士論文に関する研究報告④
14. 修士論文に関する研究報告⑤

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

報告者以外も事前に文献を読み込む等の質の高い準備が必要である。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(60%) / 議論への貢献度(30%) / 事前の準備(10%)

テキスト (Textbooks)

日本証券経済研究所の以下のレポートを中心に進めていく(著者はいずれも伊豆久先生)

- ・「ECB の量的緩和政策」1709 号、2018 年 8 月。
- ・「日本銀行の引当金について」1711 号、2018 年 12 月。
- ・「中央銀行の資本金制度と利益処分」1713 号、2019 年 4 月。
- ・「レバ・ローンは第二のサブプライムか？」1715 号、2019 年 8 月。
- ・「米国の金利急騰と FRB の負債構造」1717 号、2019 年 12 月。
- ・「FRB のコロナ危機対応策—リーマン危機との比較—」1719 号、2020 年 4 月。
- ・「日本銀行のコロナ危機対応策」1721 号、2020 年 8 月。
- ・「ECB のコロナ危機対応策」1723 号、2020 年 12 月。
- ・「FRB のコロナ危機対応策と財政資金」1725 号、2021 年 4 月。
- ・「コロナ対応策と資金フロー」1726 号、2021 年 6 月。

・「SRF 導入の背景－FRB と国債市場－」1729 号、2021 年 12 月。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

この講義を履修する前に「国際金融特論1」を受講するのが望ましい

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA121／経済統計特論1 (Special Lecture on Economic Statistics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	公的統計制度における経済統計		
担当者名 (Instructor)	櫻本 健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5320	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA309 経済統計特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

経済統計の設計を把握しながら、政府の HP や統計アプリを使用しながら統計データを分析できるようになること。

Students will be able to analyze statistical data while studying financial statistics design by focusing on System of National Accounts.

授業の内容(Course Contents)

公的統計全体のフレームと内側の国民経済計算体系のフレームの 2 つのフレームのうち、主に後者について輪読形式で授業を進める。部分的に PC による演習を行って、概念と実際の数値の利便性の両方を理解する。多くの場合、統計整備は社会問題をきっかけに進む。統計作成と社会問題との関係は授業時に随所に触れることになる。

In this class, students will study overall framework of official statistics and System of National Accounts framework within. Students will focus particularly on the later and take turns to read these in the class. Occasionally students will use PC to practice and to understand usability of both concept and numerical value. In many cases, social issues are catalysts for statistical developments. Students will come across relationship between statistical production and social issue any time during this class.

授業計画(Course Schedule)

1. 授業ガイダンス、本学における統計教育
2. 公的統計制度、統計法と統計制度フレーム
3. 公的統計の二次的利用制度、マイクロデータ分析と限界
4. 疑似マイクロデータを利用した分析
5. RESAS、OECD.Stat
6. e-Stat の機能と J-statmap、GIS 機能 2
7. 季節調整法 1
8. 季節調整法 2
9. 輪読 1、討論 1
10. 輪読 2、討論 2
11. 輪読 3、討論 3
12. 輪読 4、討論 4
13. 輪読 5、討論 5
14. 輪読 6、討論 6

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストを事前に読み、関連する著作物を調べてくること。授業に関連して学課外で社会情報教育研究センターでのセミナーへの参加やコンテンツに基づく自主学習をお願いする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

提出物(50%)/報告(40%)/討論(10%)

テキスト(Textbooks)

テキストはいくつかの候補の中から受講者と相談して決める。社会情報教育研究センター『日本の公的統計・統計調査』も利用するが、学内資料のため、教員が印刷して配布する。

参考文献(Readings)

1. 李潔、2016、『入門 GDP 統計と経済波及効果分析』、大学教育出版 (ISBN:4864293597)
2. ダイアン・コイル、高橋 璃子、2015、『GDP——〈小さくて大きな数字〉の歴史』、みすず書房 (ISBN:4622079119)

3. アンガス・マディソン、2015、『世界経済史概観 紀元 1 年～2030 年』、岩波書店 (ISBN:4000610333)

4. 宮川努、2018、『生産性とは何か』、筑摩書房 (ISBN:448007189X)

テキストは以上の 4 冊に経済財政白書を加えた 5 冊から 1 冊選んで取り組む。授業範囲と統計調査士試験の内容が重複するため、資格取得をお勧めする。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

履修者が統計学を学んできた内容に応じて授業内容を変える。社会情報教育研究センターHP が関連情報となる。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA122／経済統計特論2 (Special Lecture on Economic Statistics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	マクロ経済を取り巻く統計概念を理解する。		
担当者名 (Instructor)	櫻本 健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5320	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA310 経済統計特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

経済統計のうち、コアとなるマクロの統計について体系だった理解できるようにする。主に高度な加工統計を中心にグローバルゼーション、経済波及効果といった応用分析を学ぶ。

Students will acquire systematic understanding about macro statistics, the core of financial statistics. Students will learn how to use and analyze data, while deepening their understanding about System of National Accounts.

授業の内容(Course Contents)

国民経済計算体系(SNA)は公的統計のコア勘定として位置付けられている。SNA を中心に、国際収支統計・付加価値貿易指標、金融統計、生産性統計、開発指標等、供給使用産業連関表、政府財政統計、マクロの統計を体系的に学ぶ。統計に必要な分類として産業分類、生産物分類も扱う。授業は輪読形式のものと、演習形式も組み合わせたものと 2 種類ある。Excel を利用した演習や宿題を多く課すと同時に、テキストの報告を定期的に求める。

System of National Accounts is considered core accounting system for official statistics. Focusing on SNA, students will learn systematically international trade balance statistics, Trade in Value Added Database, financial statistics, productivity statistics, development indicator, Supply, Use and Input-Output Tables, government financial statistics, and macro statistics. Students will also study industrial and production classifications that are essential in statistics. This class will proceed in both reading and seminar formats. Students will receive high volume of Excel seminars and assignments. They will also submit written reports regularly.

授業計画(Course Schedule)

1. 授業ガイダンス
2. テキストに基づく輪読 1、討論 1
3. テキストに基づく輪読 2、討論 2
4. テキストに基づく輪読 3、討論 3
5. テキストに基づく輪読 4、討論 4
6. テキストに基づく輪読 5、討論 5
7. テキストに基づく輪読 6、討論 6
8. テキストに基づく輪読 7、討論 7
9. テキストに基づく輪読 8、討論 8
10. PC による演習 1
11. PC による演習 2
12. PC による演習 3
13. PC による演習 4
14. PC による演習 5

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストは事前に読み、テキストに関する周辺の情報も調べてくること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告(60%)／討論(20%)／提出物(20%)

テキスト(Textbooks)

授業冒頭でテキストを選ぶ。授業では経済財政白書も参考にする。教科書以外に授業に必要な資料・データは、授業時に配布する。

参考文献(Readings)

1. ダイアン・コイル、2015、『GDP——小さくて大きな数字』の歴史』、みすず書房 (ISBN:4622079119)
2. 宮川努、2018、『生産性とは何か』、ちくま新書 (ISBN:9784480071897)
3. François Lequiller,Derek Blades. 2014. *Understanding National Accounts 2014*. Oecd Publishing (ISBN:9264214623)

授業内容は統計検定統計調査士試験と重複する部分があるため、統計調査士試験を受験してついでに資格取得することもお勧めできる。その場合、本学社会情報教育研究センターが提供している統計検定の HP を参考にする。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

e-Stat HP,社会情報教育研究センターHP と各種指標も活用する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA123／近代経済学1特論1 (Special Lecture on Modern Economics1-1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	制度の経済学の基礎		
担当者名 (Instructor)	荒川 章義(ARAKAWA AKIYOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5120	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA311 近代経済学 1 特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

大学院レベルの制度の経済学の基礎を学び、今後の研究のための土台を作る。

Students will learn basics of economics of graduate school level to create foundation for their future researches.

授業の内容 (Course Contents)

大学院レベルの制度の経済学の代表的なテキストを用いてその内容を学ぶ。現在では、制度の経済学と呼ばれる学問分野は、コモンズやミッチェルなどの旧制度派経済学からコースやノースの新制度派経済学、青木昌彦の比較制度分析などの幅広い領域に及んでいる。この授業では、参加者の関心に応じて、上記のいずれかの領域における代表的なテキストを取り上げ、その内容を学んでいくことにしたい。

Students will use and study typical graduate school economics texts. Current institutional economics covers wide areas, including old institutional economics by Commons and Mitchell, new institutional economics by Coase and North, and comparative institutional analysis by Masahiko Aoki. In this class, professor will refer to students' interests and select typical textbooks from areas mentioned above for students to learn.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 参加者による発表と議論
3. 参加者による発表と議論
4. 参加者による発表と議論
5. 参加者による発表と議論
6. 参加者による発表と議論
7. 参加者による発表と議論
8. 参加者による発表と議論
9. 参加者による発表と議論
10. 参加者による発表と議論
11. 参加者による発表と議論
12. 参加者による発表と議論
13. 参加者による発表と議論
14. 参加者による発表と議論

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

学部レベルのミクロ経済学をマスターしておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度並びに授業内での報告(50%)／発表と議論(50%)

テキスト (Textbooks)

詳細は参加者と相談の上決定する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA124／近代経済学1特論2 (Special Lecture on Modern Economics1-2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	進化の経済学の基礎		
担当者名 (Instructor)	荒川 章義(ARAKAWA AKIYOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5120	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA312 近代経済学 1 特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

大学院レベルの進化の経済学の基礎を学び、今後の研究のための土台を作る。

Students will learn basics of evolutionary economics at graduate school level as foundation for their future researches.

授業の内容 (Course Contents)

大学院レベルの進化の経済学の代表的なテキストを用いてその内容を学ぶ。現在では、進化の経済学は、シュンペーターの経済学から、ネルソン・ウィンターのアプローチ、ボウルズやギンタスのアプローチなど多岐に及んでいる。また進化心理学も人間行動の非合理性の説明に大いに寄与している。この授業では、参加者の関心に応じて、進化の経済学の代表的なテキストを取り上げ、その内容を学んでいくことにしたい。

Students will use and study typical textbooks of graduate school evolutionary economics. Current evolutionary economics covers many branches, including Schumpeter economics, Nelson Winter's approach, Bowles and Gintis' approach. Evolutionary psychology has also contributed greatly to explaining irrationality of human behavior. In this class, professor will refer to students' interests and select typical evolutionary economics textbooks for students to learn.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 参加者による発表と議論
3. 参加者による発表と議論
4. 参加者による発表と議論
5. 参加者による発表と議論
6. 参加者による発表と議論
7. 参加者による発表と議論
8. 参加者による発表と議論
9. 参加者による発表と議論
10. 参加者による発表と議論
11. 参加者による発表と議論
12. 参加者による発表と議論
13. 参加者による発表と議論
14. 参加者による発表と議論

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

学部レベルのミクロ経済学をマスターしておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度並びに授業内での報告(50%)/発表と議論(50%)

テキスト (Textbooks)

詳細は参加者と相談の上決定する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA127／近代経済学3特論1 (Special Lecture on Modern Economics3-1)		
担当者名 (Instructor)	藤原 新(FUJIWARA ARATA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5120	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA315 近代経済学 3 特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

ケインズやポストケインジアンの特徴を理解する。特に方法論にまでさかのぼって議論を展開する最近のポストケインジアン文献を読み、その内容把握に努めるとともに、受講生の研究に新しい視角をもたらすことを目標とする。

Students will understand characteristics of Keynes and post-Keynesian arguments. Students will read the latest post-Keynesian literatures, tracing back to its methodology. While working to understand its contents, students will gain new perspectives for their researches.

授業の内容 (Course Contents)

ケインズやポストケインジアンを書いたいくつかの文献を輪読する。英語文献の場合にも翻訳だけにとどまらず、内容の吟味も行い、それぞれの文献の意義と限界を理解するようにする。

学期中に受講生の研究についての中間発表を複数回設定し、受講生間の相互理解を深めるとともに、研究の進展を図る。

Students will read several Keynes and post-Keynesian literatures. If the literatures are in English, students will not only translate them, but also examine their meanings, understand their significances and limits.

During the semester, students will make several interim presentations on their researches to deepen mutual understanding among students and to advance their researches.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス、扱う文献の具体的な決定
2. 文献の読解と内容についての議論(1)
3. 文献の読解と内容についての議論(2)
4. 文献の読解と内容についての議論(3)
5. 文献の読解と内容についての議論(4)
6. 文献の読解と内容についての議論(5)
7. 研究中間発表と議論(1)
8. 文献の読解と内容についての議論(6)
9. 文献の読解と内容についての議論(7)
10. 文献の読解と内容についての議論(8)
11. 文献の読解と内容についての議論(9)
12. 文献の読解と内容についての議論(10)
13. 研究中間発表と議論(2)
14. まとめ、最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

文献の該当箇所を十分に時間をかけて検討しておく。内容を吟味し、周辺の研究との関連についても検討しておく。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内での報告、議論の内容(60%)/提出物(20%)/最終テスト(Final Test)(20%)

最終テストは口頭で行う。

テキスト (Textbooks)

受講者の関心を確認したうえで、初回の授業時に複数の文献を決定する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業方法が変更される可能性がある。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA128／近代経済学3特論2 (Special Lecture on Modern Economics3-2)		
担当者名 (Instructor)	藤原 新(FUJIWARA ARATA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5120	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA316 近代経済学 3 特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

ケインズやポストケインジアンの特徴を理解する。特に方法論にまでさかのぼって議論を展開する最近のポストケインジアン文献を読み、その内容把握に努めるとともに、受講生の研究に新しい視角をもたらすことを目標とする。

Students will understand characteristics of Keynes and post-Keynesian arguments. Students will read the latest post-Keynesian literatures, tracing back to its methodology. While working to understand its contents, students will gain new perspectives for their researches.

授業の内容 (Course Contents)

特論1に引き続き、ケインズやポストケインジアンを書いたいくつかの文献を輪読する。内容の吟味を十分に行い、それぞれの文献の意義と限界を理解するようにする。

学期中に受講生の研究についての中間発表を複数回設定し、受講生間の相互理解を深めるとともに、研究の進展を図る。

Following Special Lecture 1, students will read several Keynes and post-Keynesian literatures. Students will examine literatures' meanings, understand their significances and limits.

During the semester, students will make several interim presentations on their researches to deepen mutual understanding among students and to advance their researches.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス、扱う文献の具体的な決定
2. 文献の読解と内容についての議論(1)
3. 文献の読解と内容についての議論(2)
4. 文献の読解と内容についての議論(3)
5. 文献の読解と内容についての議論(4)
6. 文献の読解と内容についての議論(5)
7. 研究中間発表と議論(1)
8. 文献の読解と内容についての議論(6)
9. 文献の読解と内容についての議論(7)
10. 文献の読解と内容についての議論(8)
11. 文献の読解と内容についての議論(9)
12. 文献の読解と内容についての議論(10)
13. 研究中間発表と議論(2)
14. まとめ、最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

文献の該当箇所を十分に時間をかけて検討しておく。その内容を吟味し、周辺の研究との関連についても検討しておく。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内での報告、議論の内容(60%) / 提出物(20%) / 最終テスト(Final Test)(20%)
最終テストは口頭で行う。

テキスト (Textbooks)

受講者の関心を確認したうえで、初回の授業時に複数の文献を決定する。

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業方法が変更される可能性がある。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA129／財政学3特論1 (Special Lecture on Finance 3-1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	財政・租税政策の国際比較		
担当者名 (Instructor)	関口 智(SEKIGUCHI SATOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA317 財政学 3 特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

各国の財政・租税制度及び社会保障制度等の動向を理解する。

Students will understand trends of finance, tax, and social security systems in various countries.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、財政・租税論や社会保障論等を念頭に置きつつ、各国の財政・租税制度及び社会保障制度等の国際比較を行う。

講義は担当者による簡単な解説の後、受講者によるレジュメ報告、全体での議論、担当者による論点整理により進めることを想定している。

講義開始時に具体的な題材を例示するが、前半は最新の日本語文献を、後半は最新の外国語文献を取り上げる。

In this class, students will compare financial, tax, and social security systems in various countries while paying attention to theories about finance, tax, and social security.

Professor will make brief explanations. After that, students will make summary reports and participate in discussions. Selected students will then organize these arguments.

Professor will show students specific subjects at the beginning of class. In the first half, students will use the latest Japanese literatures and in the second half the latest foreign language literatures.

授業計画 (Course Schedule)

1. 財政学 3 特論1のガイダンスとテキスト選定
2. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
3. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
4. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
5. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
6. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
7. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
8. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
9. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
10. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
11. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
12. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
13. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
14. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

財政学に隣接する多様な領域に関心のある学生の参加も歓迎する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業中の発言, 課題, 出席の総合評価(80%)/最終レポート(Final Report)(20%)

テキスト (Textbooks)

特定・単一のテキストは用いない。受講者と相談しながら決定する。

参考文献 (Readings)

1. 関口 智、2015 年、『現代アメリカ連邦税制-付加価値税なき国家の租税構造』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130461146)
その他は、輪読の際に適宜指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA130／財政学3特論2 (Special Lecture on Finance 3-2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	財政・金融政策と公会計制度の国際比較		
担当者名 (Instructor)	関口 智(SEKIGUCHI SATOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA318 財政学 3 特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

財政学や金融論等の視点から、公会計制度論の動向と予算・決算論との関連を理解する。

Students will understand connections among trend of public accounting theory and budget/settlement theory, through perspective of public finance and financial theory.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、現代日本における財政・金融政策上の諸問題を念頭に置きつつ、近年盛んに議論されている公会計制度について、国際比較の観点からその意義と問題点について議論する。

講義は担当者による簡単な解説の後、受講者によるレジュメ報告、全体での議論、担当者による論点整理を行うことを想定している。

講義開始時に具体的な題材を例示するが、前半は最新の日本語文献を、後半は最新の外国語文献を取り上げる。

In this class, students will discuss significance and issue of financial budget/settlement theory and public accounting system debated actively in recent years while paying attention to various issues in modern Japan's public finance. Students will make comparisons internationally when doing so.

Professor will make brief explanations. After that, students will make summary reports and participate in discussions. Selected students will then organize these arguments.

Professor will show students specific subjects at the beginning of class. In the first half, students will use the latest Japanese literatures and in the second half the latest foreign language literatures.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス: 財政学3特論2の内容とテキスト選定
2. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
3. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
4. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
5. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
6. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
7. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
8. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
9. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
10. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
11. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
12. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
13. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
14. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

財政学に隣接する多様な領域に関心のある学生も歓迎する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業中の発言, 課題, 出席の総合評価(80%)/最終レポート(Final Report)(20%)

テキスト (Textbooks)

特定・単一のテキストは用いない。受講者と相談しながら決定する。

参考文献 (Readings)

1. 関口 智、2017 年、『イギリス及びスウェーデンの国家財政における予算・公会計制度と会計検査院—マイクロ予算編成とマクロ予算編成の視点から—』、会計検査院
 2. 関口 智編、2016 年、『地方財政・公会計制度の国際比較』、日本経済評論社
- その他は、輪読の際に適宜指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA137／財政学A特論1 (Special Lecture on Public Finance A-1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	財政制度、租税制度の概観、具体例による考察		
担当者名 (Instructor)	小鞠 昭彦(KOMARI AKIHIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

財政制度、租税制度の概観、具体例による考察を通じて、わが国財政、税制の目指すべき方向性等への視点を獲得。

Students will analyze overall finance and tax, and specific cases of finance and tax system to obtain perspective on finance and tax implementation.

授業の内容 (Course Contents)

- (1) 公共部門、財政について、概観、基本的事項の確認
機能、制度、現状、財政収支、持続可能性等
- (2) 租税制度について、概観、基本的事項の確認
租税制度、租税原則、租税理論等の概観、基本的事項の確認と具体的事例の考察
- (注) 授業においては、以下の計画を目安として、具体的な流れ等は都度連絡する。

(1) Students will go over basics and overview of public sector, finance; Function, system, current state, financial income and expense, sustainability, etc.

(2) Students will go over basics and overview of tax system;

Students will analyze overall framework, basics, and specific cases of tax system, principle, and theory.

(Note) This class will proceed based on the following plan. Professor will notify students about specific plan afterwards.

授業計画 (Course Schedule)

- 講義の流れの説明
財政の現状と課題
機能、制度、現状、財政収支、持続可能性等
- 財政の現状と課題
- 財政の現状と課題
- 財政の現状と課題
- 公共財の理論
- 公共財の理論
- 租税の理論
- 租税の理論
- 租税の理論
- 財政政策
- 財政政策
- 財政政策
- 地方財政
- 地方財政
まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

必要に応じ別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加(100%)

テキスト (Textbooks)

授業の都度レジュメ等を用意するので、履修者が準備するテキストは特にない。
参考文献はその都度指示する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA138／財政学A特論2 (Special Lecture on Public Finance A-2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	財政制度、租税制度の概観、具体例による考察		
担当者名 (Instructor)	小鞠 昭彦(KOMARI AKIHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

財政制度、租税制度の概観、具体例による考察を通じて、わが国財政、税制の目指すべき方向性等への視点を得る。

Students will analyze overall finance and tax, and specific cases of finance and tax system to obtain perspective on finance and tax implementation.

授業の内容(Course Contents)

- (1) 公共部門、財政について、概観、基本的事項の確認
機能、制度、現状、財政収支、持続可能性等
- (2) 租税制度について、概観、基本的事項の確認
租税制度、租税原則、租税理論等の概観、基本的事項の確認と具体的事例の考察
- (注) 授業においては、以下の計画を目安として、具体的な流れ等は都度連絡する。

(1) Students will go over basics and overview of public sector, finance; Function, system, current state, financial income and expense, sustainability, etc.

(2) Students will go over basics and overview of tax system;

Students will analyze overall framework, basics, and specific cases of tax system, principle, and theory.

(Note) This class will proceed based on the following plan. Professor will notify students about specific plan afterwards.

授業計画(Course Schedule)

- 講義の流れの説明
租税法序説
- 租税法序説
- 租税実体法
- 租税実体法
- 租税実体法
- 租税実体法
- 租税実体法
- 租税実体法
- 租税実体法
- 租税実体法
- 租税手続法
- 租税手続法
- 租税手続法
- 租税手続法
まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じ別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加(100%)

テキスト(Textbooks)

授業の都度レジュメ等を用意するので、履修者が準備するテキストは特にはない。
参考文献はその都度指示する。

参考文献(Readings)

1. 金子宏、2021、『租税法(第 24 版)』、弘文堂 (ISBN:9784335315558)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA201／アメリカ経済史特論1 (Special Lecture on American Economic History 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アメリカ国内経済の発展		
担当者名 (Instructor)	水野 里香(MIZUNO RIKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

アメリカ経済史をテーマにした論文の輪読によって、報告の方法や、論点の抽出、討論の展開等について学ぶ。
アメリカにおける過去の事象と、現代の問題とを比較検討できるような視点を形成する。

Students will learn how to report, extract arguments, and participate in discussion by reading papers on American economic history.

Students will form their perspective so that they can compare and discuss historical and modern issues in US.

授業の内容 (Course Contents)

19世紀までのアメリカ経済史をテーマにした論文を取り上げ、論文ごとに報告者と進行役を決めて、報告・輪読ののち、討論を行う。

Papers on American economic history up to 19th century will be selected. Reporter and moderator will be selected for each paper. Students will then participate in discussion in addition to reporting and reading.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. アメリカ資本主義の確立(1)
3. アメリカ資本主義の確立(2)
4. アメリカ資本主義の確立(3)
5. アメリカ資本主義の確立(4)
6. 産業発展期のアメリカと諸問題(1)
7. 産業発展期のアメリカと諸問題(2)
8. 産業発展期のアメリカと諸問題(3)
9. 産業発展期のアメリカと諸問題(4)
10. 独占の形成と政府の対応(1)
11. 独占の形成と政府の対応(2)
12. 独占の形成と政府の対応(3)
13. 独占の形成と政府の対応(4)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業で取り上げる論文については、事前に指示または配布するので、授業前までに精読してくること。
また、授業時には、報告・進行役でなくとも討論への積極的な参加が望まれます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(30%)／進行(30%)／討論への参加(40%)

テキスト (Textbooks)

とくに指定しません。

参考文献 (Readings)

1. 鈴木圭介編、1972、『アメリカ経済史』、東京大学出版会
2. 鈴木圭介編、1988、『アメリカ経済史Ⅱ』、東京大学出版会
3. 有賀 貞、大下 尚一、志邨 晃佑、平野 孝、1994、『アメリカ史(1)』、山川出版社
4. 有賀 貞、大下 尚一、志邨 晃佑、平野 孝、1993、『アメリカ史(2)』、山川出版社
5. Stanley L. Engerman, Robert E. Gallman. 1996～2000. *The Cambridge economic history of the United States 1-3*. Cambridge

University Press

6. 谷口明文・須藤功 編、2017、『現代アメリカ経済史』、有斐閣

授業で取り上げる論文については、履修者と相談のうえ、参考文献などから適宜選択し、事前に指示または配布します。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

授業は原則として対面で実施し、オンラインで行う必要が生じた場合には、履修者と相談のうえ決定します。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA202／アメリカ経済史特論2 (Special Lecture on American Economic History 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済大国への道		
担当者名 (Instructor)	水野 里香(MIZUNO RIKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

アメリカ経済史をテーマにした論文の輪読によって、報告の方法や、論点の抽出、討論の展開等について学ぶ。
アメリカにおける過去の事象と、現代の問題とを比較検討できるような視点を形成する。

Students will learn how to report, extract arguments, and participate in discussion by reading papers on American economic history.

Students will form their perspective so that they can compare and discuss historical and modern issues in US.

授業の内容 (Course Contents)

20 世紀から現代までのアメリカ経済史をテーマにした論文を取り上げ、論文ごとに報告者と進行役を決めて、報告・輪読ののち、討論を行う。

Papers on American economic history from 20th century until now will be selected. Reporter and moderator will be selected for each paper. Students will then participate in discussion in addition to reporting and reading.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 第1次世界大戦とアメリカの役割(1)
3. 第1次世界大戦とアメリカの役割(2)
4. 第1次世界大戦とアメリカの役割(3)
5. 第1次世界大戦とアメリカの役割(4)
6. 金融構造とアメリカ経済(1)
7. 金融構造とアメリカ経済(2)
8. 金融構造とアメリカ経済(3)
9. 金融構造とアメリカ経済(4)
10. 第2次世界大戦から現代のアメリカ(1)
11. 第2次世界大戦から現代のアメリカ(2)
12. 第2次世界大戦から現代のアメリカ(3)
13. 第2次世界大戦から現代のアメリカ(4)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業で取り上げる論文については、事前に指示または配布するので、授業前までに精読してくること。
また、授業時には、報告・進行役でなくとも討論への積極的な参加が望まれます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(30%)/進行(30%)/討論への参加(40%)

テキスト (Textbooks)

とくに指定しません。

参考文献 (Readings)

1. 鈴木圭介編、1988、『アメリカ経済史 II』、東京大学出版会
2. 有賀 貞、大下 尚一、志邨 晃佑、平野 孝、1994、『アメリカ史(1)』、山川出版社
3. 有賀 貞、大下 尚一、志邨 晃佑、平野 孝、1993、『アメリカ史(2)』、山川出版社
4. Stanley L. Engerman, Robert E. Gallman. 1996～2000. *The Cambridge economic history of the United States 1-3*. Cambridge University Press

5. 谷口明文・須藤功 編、2017、『現代アメリカ経済史』、有斐閣

授業で取り上げる論文については、履修者と相談のうえ、参考文献などから適宜選択し、事前に指示または配布します。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

授業は原則として対面で実施し、オンラインで行う必要が生じた場合には、履修者と相談のうえ決定します。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA207／アジア経済史特論1 (Special Lecture on Asian Economic History 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アジアの経済史		
担当者名 (Instructor)	湊 照宏(MINATO TERUHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA319 アジア経済史特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

アジア経済史に関する基礎的な文献を読んで理解し、自身の研究課題および問題意識を明確化していく。また、研究報告における受講者同士の議論を通じて、論理的思考を修得することを目標にする。

Students will read and understand basic Asia economic history literatures. They will then clarify their research subjects and issue awareness. Furthermore, students will discuss among themselves about their research reports to acquire theoretical thinking skill.

授業の内容 (Course Contents)

近代アジア経済史についての基本的な文献・論文を輪読する。輪読する文献・論文については、英語文献も含めて受講生と相談して決定する。その他、随時に受講者の研究報告を実施する。

Students will read basic literatures and papers on modern Asia economic history. Professor will discuss with students to decide literatures and papers to be read, including English literatures. Other than that, students may be asked to report their researches at any time.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. アジア経済史に関する文献輪読(1)
3. アジア経済史に関する文献輪読(2)
4. アジア経済史に関する文献輪読(3)
5. アジア経済史に関する文献輪読(4)
6. アジア経済史に関する文献輪読(5)
7. アジア経済史に関する文献輪読(6)
8. アジア経済史に関する文献輪読(7)
9. アジア経済史に関する文献輪読(8)
10. アジア経済史に関する文献輪読(9)
11. アジア経済史に関する文献輪読(10)
12. アジア経済史に関する文献輪読(11)
13. アジア経済史に関する文献輪読(12)
14. アジア経済史に関する文献輪読(13)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

課題文献を精読し、論点をまとめる。
難解な論点については教員に質問し、理解するように努める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(50%)/研究報告(50%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

授業計画に変更がある場合は授業中にお知らせします。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA208／アジア経済史特論2 (Special Lecture on Asian Economic History 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アジアの経済史		
担当者名 (Instructor)	湊 照宏(MINATO TERUHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA320 アジア経済史特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

アジア経済史の基礎的な文献を読んで理解し、自身の研究課題および問題意識を明確化していく。また、研究報告における受講者同士の議論を通じて、論理的思考を修得することを目標にする。

Students will read and understand basic Asia economic history literatures. They will then clarify their research subjects and issue awareness. Furthermore, students will discuss among themselves about their research reports to acquire theoretical thinking skill.

授業の内容 (Course Contents)

近代アジア経済史についての基本的な文献・論文を輪読する。輪読する文献・論文については、英語文献も含めて受講生と相談して決定する。その他、随時に受講者の研究報告を実施する。

Students will read basic literatures and papers on modern Asia economic history. Professor will discuss with students to decide literatures and papers to be read, including English literatures. Other than that, students may be asked to report their researches at any time.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. アジア経済史に関する文献輪読(1)
3. アジア経済史に関する文献輪読(2)
4. アジア経済史に関する文献輪読(3)
5. アジア経済史に関する文献輪読(4)
6. アジア経済史に関する文献輪読(5)
7. アジア経済史に関する文献輪読(6)
8. アジア経済史に関する文献輪読(7)
9. アジア経済史に関する文献輪読(8)
10. アジア経済史に関する文献輪読(9)
11. アジア経済史に関する文献輪読(10)
12. アジア経済史に関する文献輪読(11)
13. アジア経済史に関する文献輪読(12)
14. アジア経済史に関する文献輪読(13)

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

課題文献を精読し、論点をまとめる。
難解な論点については教員に質問し、理解するように努める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(50%)/研究報告(50%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

授業計画に変更がある場合は授業中にお知らせします。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA211／日本経済史特論1 (Special Lecture on Japanese Economic History 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近現代日本の経済と経営		
担当者名 (Instructor)	岡部 桂史(OKABE KEISHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA321 日本経済史特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「一般的ならびに専門的教養の上に、経済、経済政策、会計、経営を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、次の3点を目標とします。

1. 日本経済史・経営史の基礎的な文献を理解する。
2. 日本経済史・経営史の研究方法を獲得する。
3. 日本経済史・経営史に基づくプレゼンテーション能力を獲得する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies as well as economics, accountancy, and train one’s personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will aim to achieve the following three points.

1. Students will understand basic literatures on Japan economic and management history.
2. Students will acquire research methods on Japan economic and management history.
3. Students will acquire ability to make presentations based on Japanese economic and management history.

授業の内容 (Course Contents)

近現代日本経済史の基本文献である沢井実・谷本雅之編『日本経済史』有斐閣(2016年)を輪読(音読)します。授業では、輪読している内容について、随時、担当教員と受講者でディスカッションを行い、理解を深めていきます。その他、随時に受講者の研究報告を実施する場合があります。

Students will read Japan Economic History by Minoru Sawai and Masayuki Tanimoto (Yuhikaku publishing, 2016), a basic literature on modern Japan economic history. In class, advisors will discuss with graduate students about what they are reading in a circle to deepen their understanding. In addition, graduate students may also carry out research reports.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(1)
3. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(2)
4. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(3)
5. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(4)
6. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(5)
7. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(6)
8. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(7)
9. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(8)
10. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(9)
11. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(10)
12. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(11)
13. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(12)
14. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(13)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

課題文献を精読し、論点をまとめる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(90%)/研究報告(10%)

テキスト (Textbooks)

1. 沢井実・谷本雅之、2016、『日本経済史』、有斐閣 (ISBN:9784641164888)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA212／日本経済史特論2 (Special Lecture on Japanese Economic History 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近現代日本の経済と経営		
担当者名 (Instructor)	岡部 桂史(OKABE KEISHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA322 日本経済史特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「一般的ならびに専門的教養の上に、経済、経済政策、会計、経営を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、次の3点を目標とします。

1. 日本経済史・経営史の基礎的な文献を理解する。
2. 日本経済史・経営史の研究方法を獲得する。
3. 日本経済史・経営史に基づくプレゼンテーション能力を獲得する。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies as well as economics, accountancy, and train one’s personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will aim to achieve the following three points.

1. Students will understand basic literatures on Japan economic and management history.
2. Students will acquire research methods on Japan economic and management history.
3. Students will acquire ability to make presentations based on Japanese economic and management history.

授業の内容 (Course Contents)

近現代日本経済史の基本文献である沢井実・谷本雅之編『日本経済史』有斐閣(2016年)を輪読(音読)します。授業では、輪読している内容について、随時、担当教員と受講者でディスカッションを行い、理解を深めていきます。その他、随時に受講者の研究報告を実施する場合があります。

Students will read Japan Economic History by Minoru Sawai and Masayuki Tanimoto (Yuhikaku publishing, 2016), a basic literature on modern Japan economic history. In class, advisors will discuss with graduate students about what they are reading in a circle to deepen their understanding. In addition, graduate students may also carry out research reports.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(1)
3. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(2)
4. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(3)
5. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(4)
6. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(5)
7. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(6)
8. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(7)
9. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(8)
10. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(9)
11. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(10)
12. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(11)
13. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(12)
14. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(13)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

課題文献を精読し、論点をまとめる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(90%)/研究報告(10%)

テキスト (Textbooks)

1. 沢井実・谷本雅之、2016、『日本経済史』、有斐閣 (ISBN:9784641164888)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA217／経営史特論1 (Special Lecture on Business History 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近現代日本経営史の探究		
担当者名 (Instructor)	島西 智輝(SHIMANISHI TOMOKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA323 経営史特殊講義1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

近現代日本経営史研究の方法と研究の現状を理解し、論評と討論ができる。

Students should become able to understand, critique and discuss methods of researching the business history of modern Japan and the current state of research in this field.

授業の内容 (Course Contents)

近現代日本経営史の研究文献・論文を検討し、専門的知識と文章作成能力を身につける。

We will study literature and academic papers containing research on the business history of modern Japan, and students will develop specialized knowledge and writing skills.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (1)
3. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (2)
4. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (3)
5. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (4)
6. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (5)
7. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (6)
8. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (7)
9. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (8)
10. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (総括と討論)
11. 文献検索の方法
12. 資料検索の方法
13. 文献・資料整理の実践
14. 講義のまとめと夏期休暇に向けた研究指導

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

輪読の際は、事前に文献・論文を精読し、報告資料を準備する必要がある。
授業外の時間を利用して、先行研究を踏まえて文献・論文を検討する必要がある。
平均して毎日 60 分以上を事前・事後学習時間とすることを目安とする。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(50%)/研究報告(50%)

テキスト (Textbooks)

履修者と相談の上、決定する。

参考文献 (Readings)

授業中に適宜提示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA218／経営史特論2 (Special Lecture on Business History 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近現代日本経営史の探究		
担当者名 (Instructor)	島西 智輝(SHIMANISHI TOMOKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA324 経営史特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

近現代日本経営史研究の方法と研究の現状を理解し、論評と討論ができる。

Students should become able to understand, critique and discuss methods of researching the business history of modern Japan and the current state of research in this field.

授業の内容 (Course Contents)

近現代日本経営史の研究文献・論文を検討し、専門的知識と文章作成能力を身につける。

We will study literature and academic papers containing research on the business history of modern Japan, and students will develop specialized knowledge and writing skills.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (1)
3. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (2)
4. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (3)
5. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (4)
6. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (5)
7. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (6)
8. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (7)
9. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (8)
10. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (総括と討論)
11. 文献検索の方法
12. 資料検索の方法
13. 文献・資料整理の実践
14. 講義のまとめと春期休暇に向けた研究指導

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

輪読の際は、事前に文献・論文を精読し、報告資料を準備する必要がある。
授業外の時間を利用して、先行研究を踏まえて文献・論文を検討する必要がある。
平均して毎日 60 分以上を事前・事後学習時間とすることを目安とする。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(50%)/研究報告(50%)

テキスト (Textbooks)

履修者と相談の上、決定する。

参考文献 (Readings)

授業中に適宜提示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA221／東洋史特論1 (Oriental History1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	陶磁器を研究資料とした歴史研究・考古学研究・美術史研究		
担当者名 (Instructor)	四日市 康博(YOKKAICHI YASUHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

陶磁器を研究資料とした歴史研究、考古学研究、貿易史研究、美術史研究の方法論を習得し、実際の研究を実施する能力を身につける。

Students will acquire methodologies for historical research, archaeological research, trade history research, and art history research using ceramics as research materials, and acquire the ability to carry out actual research.

授業の内容(Course Contents)

中国陶磁の生産、流通、消費などについてのこれまでの研究を検証し、陶磁器を研究資料とした学術研究について学ぶ。授業はゼミ形式で実施。学生による発表と討論、教員による講評と指導を組み合わせる。

Students will examine previous research on the production, distribution, and consumption of Chinese ceramics, and learn about academic research using ceramics as research materials. This class is conducted in a seminar format. Students' presentations and discussions, and faculty reviews and guidance are combined to promote this course.

授業計画(Course Schedule)

1. 陶磁器の概念と研究方法
2. 陶磁器を研究資料とした歴史研究
3. 陶磁器を研究資料とした考古学研究
4. 陶磁器を研究資料とした貿易史研究
5. 陶磁器を研究資料とした美術史研究
6. 資料閲覧・購読①
7. 資料閲覧・購読②
8. 資料閲覧・購読③
9. 資料閲覧・購読④
10. 資料閲覧・購読⑤
11. 調査・研究結果の発表①
12. 調査・研究結果の発表②
13. 調査・研究結果の発表③
14. 授業総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

履修者は与えられたテーマに沿いながら予習として発表準備を行い、発表後には復習として発表内容の再検証を行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加態度(授業内での発表の内容、方法、準備状況、授業内での意見の提示状況など)(100%)
履修者は必ず1回以上の発表を行わなくてはならない。授業はオンラインで実施する。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 森達也、2015、『中国青瓷の研究』、汲古書院 (ISBN:978-4762965456)
2. アジア考古学四学会編、2013、『陶磁器流通の考古学』、高志書院 (ISBN:978-4862151278)
3. 佐藤信編、2018、『水中遺跡の歴史学』、山川出版社 (ISBN:978-4634523661)
4. 藪 敏裕、森 達也、徳留大輔編、2019、『貿易陶磁器と東アジアの物流』、高志書院 (ISBN:978-4862151889)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA222／東洋史特論2 (Oriental History2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ユーラシア史・海域アジア史研究：陶磁器をめぐる諸問題		
担当者名 (Instructor)	森 達也(MORI TATSUYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

宋元明代のユーラシアおよび海域アジア交流史にかかわる陶磁器の流通が各地の社会に与えた影響がどのようなものであったのか理解することを目指します。

This course aims to understand the historical impacts of "ceramic distribution" in Maritime Asia including China, Japan, Southeast Asia, and the Indian Ocean world.

授業の内容(Course Contents)

本授業は宋元明代の陶磁器資料を考察し、関連資料や関連文献も参照しつつ、ユーラシアおよび海域アジアの多様な社会とその交流について検討をおこないます。また、必要に応じて学外に資料を見学に行くことがあります。

In this course, we look at Chinese porcelain and ceramics of the Song-Yuan-Ming period and consider the social influence on China and the neighbouring regions.

授業計画(Course Schedule)

1. 導論1：宋元明代の交流史における陶磁資料1
2. 導論2：宋元明代の交流史における陶磁資料2
3. 資料解説1：日中間の貿易陶磁1
4. 資料解説2：日中間の貿易陶磁2
5. ディスカッション：貿易陶磁
6. 資料解説3：唐物と伝世品1
7. 資料解説4：唐物と伝世品2
8. ディスカッション：唐物と伝世品
9. 資料解説5：陶磁器の意匠1
10. 資料解説6：陶磁器の意匠2
11. ディスカッション：陶磁器の意匠
12. 資料解説7：インド洋海域世界の陶磁貿易1
13. 資料解説8：インド洋海域世界の陶磁貿易2
14. ディスカッション：インド洋海域世界の陶磁貿易

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

取り上げた陶磁資料に関してデータをまとめて、資料として研究に活用できるようにしておいてください。また、積極的に美術館や博物館で関連資料の観察をおこなってみてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

史料読解(50%)／考察・研究(50%)

テキスト(Textbooks)

テキストや参考資料に関しては、授業内で指示します。

参考文献(Readings)

1. 三上次男、2000(初版 1969)、『陶磁の道：東西文明の接点をたずねて』、中央公論美術出版 (ISBN:4805503858)
2. 森達也、2015、『中国青瓷の研究 編年と流通』、汲古書院 (ISBN:9784762965456)
3. 四日市康博、2008、『モノから見た海域アジア史』、九州大学出版会 (ISBN:9784873789668)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA223／西洋史特論1 (Occidental History1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	イタリア・ルネサンス関連の文献講読		
担当者名 (Instructor)	佐藤 清子(SATO SEIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

イタリア・ルネサンス関連文献を講読し、ルネサンス文化に対する全般的理解を深め、学位論文執筆等に備えて語学力を鍛錬する。

By reading articles related to the Italian Renaissance, students will deepen their general understanding of Renaissance culture and further improve their language skills necessary for writing theses or dissertations.

授業の内容 (Course Contents)

履修生の研究・関心テーマに近い文献を選び、各回の担当者が和訳及び関連事項について発表します。履修生の皆さんが和訳に慣れてきたら、分量を増やし、教室では担当分要旨と関連テーマの発表に絞ることも考えていますが、最初から無理に分量を増やすことはありません。確実に文章を読み取れるようになること、論文執筆等の妨げにならないことを優先し、授業内容を適宜調節します。

The student in charge of each lecture will present Japanese translations and related topics of articles that are close to their research and interest. As students become accustomed to Japanese translation, it is possible to increase the amount of work assigned and limit classroom presentations to abstracts and related topics, but there is no need to increase the amount of work from the beginning. Priority will be given to ensuring that students are able to read the texts and that the classes do not interfere with the writing of theses or dissertations.

授業計画 (Course Schedule)

1. 研究・関心テーマについての簡単な紹介、テキストの選定、発表分担の割り振り
2. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
3. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
4. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
5. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
6. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
7. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
8. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
9. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
10. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
11. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
12. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
13. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
14. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

イタリア語のテキストが主になる予定ですので、イタリア語の基礎文法等で不安な点がある場合は、事前によく勉強しておいてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

履修生の研究・関心テーマに合わせたテキストの講読です。

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA224／西洋史特論2 (Occidental History2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	イタリア・ルネサンス関連の文献講読		
担当者名 (Instructor)	佐藤 清子(SATO SEIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

イタリア・ルネサンス関連文献を講読し、ルネサンス文化に対する全般的理解を深め、学位論文執筆等に備えて語学力を鍛錬する。

By reading articles related to the Italian Renaissance, students will deepen their general understanding of Renaissance culture and further improve their language skills necessary for writing theses or dissertations.

授業の内容 (Course Contents)

履修生の研究・関心テーマに近い文献を選び、各回の担当者が和訳及び関連事項について発表します。履修生の皆さんが和訳に慣れてきたら、分量を増やし、教室では担当分要旨と関連テーマの発表に絞ることも考えていますが、最初から無理に分量を増やすことはありません。確実に文章を読み取れるようになること、論文執筆等の妨げにならないことを優先し、授業内容を適宜調節します。

The student in charge of each lecture will present Japanese translations and related topics of articles that are close to their research and interest. As students become accustomed to Japanese translation, it is possible to increase the amount of work assigned and limit classroom presentations to abstracts and related topics, but there is no need to increase the amount of work from the beginning. Priority will be given to ensuring that students are able to read the texts and that the classes do not interfere with the writing of theses or dissertations.

授業計画 (Course Schedule)

1. 研究・関心テーマについての簡単な紹介、テキストの選定、発表分担の割り振り
2. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
3. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
4. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
5. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
6. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
7. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
8. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
9. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
10. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
11. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
12. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
13. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)
14. 文献講読(担当箇所和訳、関連事項の発表)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

イタリア語のテキストが主になる予定ですので、イタリア語の基礎文法等で不安な点がある場合は、事前によく勉強しておいてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

履修生の研究・関心テーマに合わせたテキストの講読です。

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA301／経済政策特論1 (Special Lecture on Economic Policies 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル資本主義の持続可能性と反グローバリズムに関する研究 On sustainability of global capitalism and anti-globalism		
担当者名 (Instructor)	櫻井 公人(SAKURAI KIMIHITO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5520	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA325 経済政策特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

転機にある 21 世紀に資本主義が生き延びるために必要な政策課題は何か。定義、歴史、多様性、グローバル資本主義とその危機について理解する。

Can global capitalism survive? What policy issues does it need to cope with?

To understand multi dimensions of globalization such as its definition, history and diversity.

授業の内容 (Course Contents)

21 世紀の資本主義は転機にある。グローバル金融危機、情報技術革新、さらには資源・エネルギーにおける持続可能性が、今後のゆくえを左右するだろう。

金融化とカジノ資本主義化、マッド・マネー化のもたらした危機に、非伝統的な政策とグローバル金融規制で対処できるのか。「インダストリアル・インターネット」や「IoT」などのデジタル技術や AI が産業と雇用の構造を変え、失業・格差・貧困の構図をどう変えるのか。人口増加と水・食糧の需要など、資源・エネルギー面は持続可能か。今日のグローバル資本主義の抱える多くの政策課題を、その起源にさかのぼって検討する(秋学期内容とどちらを先に行うか受講者と相談する)。

21 century capitalism is now at the turning point. Global financial crisis, IT, sustainability of resource and energy will be at stake.

Can we cope with crises caused by financialization, casino capitalism, and 'mad money'? How do digital technologies such as industrial internet and IoT transform the structure of industry and labor? Can we deal with population, water and food issues? Explanations will be given from the historical view with the origin of globalization to correspond to the global capitalism today.

授業計画 (Course Schedule)

1. はじめに
2. What is capitalism?
3. 資本主義とは何か
4. Where did capitalism come from?
5. 資本主義はどこで発生したか
6. How did we get here?
7. 資本主義、ここに至る道のり
8. Is capitalism everywhere the same?
9. 資本主義の多様性?
10. Has capitalism gone global?
11. グローバル資本主義の形成か
12. Crisis? What crisis?
13. 何が資本主義の危機なのか
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義前の事前準備は必須である。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

講義内での発表(50%)/講義への貢献(30%)/最終レポート(Final Report)(20%)

テキスト (Textbooks)

1. James Fulcher. 2015. *Capitalism 2nd ed.: A very Short Introduction*. Oxford U.P. (ISBN:9780198726074)

参考文献 (Readings)

1. 斎藤修・古川純子編、2020 年、『分水嶺にたつ市場と社会』、文眞堂 (ISBN:9784830950766)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA302／経済政策特論2 (Special Lecture on Economic Policies 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル資本主義の持続可能性と反グローバリズム政策の背景を探る		
担当者名 (Instructor)	櫻井 公人(SAKURAI KIMIHITO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5520	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA326 経済政策特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

転機にあるグローバル資本主義は生き延びることができるのか。そのために必要な政策課題は何か。定義、歴史、多様性など、グローバリゼーションについて多角的に理解する。また、反グローバリズムの政策背景を理解する。

Can global capitalism survive? What policy issues does it need to cope with?

To understand multi dimensions of globalization such as its definition, history and diversity.

To understand the background of anti-globalist economic policies.

授業の内容 (Course Contents)

21 世紀の資本主義は転機にある。グローバル金融危機、情報技術革新、さらには資源・エネルギーにおける持続可能性が、反グローバリズムとポピュリズムのゆくえを左右するだろう。

金融化とカジノ資本主義化、マッド・マネー化のもたらした危機に、非伝統的な政策とグローバル金融規制で対処できるのか。「インダストリアル・インターネット」や「IoT」などのデジタル技術や AI が産業と雇用の構造を変え、失業・格差・貧困の構図をどう変えるのか。人口増加と水・食糧の需要など、資源・エネルギー面は持続可能か。今日の資本主義が抱えるグローバルな政策課題への対処のため、グローバリゼーションの起源にさかのぼって検討する。なお、テキストは 2020 年刊行の 5th edition を用いる。

21 century capitalism is now at the turning point. Global financial crisis, IT, sustainability of resource and energy will be at stake. We have also antiglobalism and populism. Can we cope with crises caused by financialization, casino capitalism, and 'mad money'? How do digital technologies such as industrial internet and IoT transform the structure of industry and labor? Can we deal with population, water and food issues? Explanations will be given from historical view with the origin of globalization to correspond to the global capitalism today.

授業計画 (Course Schedule)

- はじめに
Introduction
- グローバリゼーションー論争と定義
Globalization: a contested concept and its definition
- 歴史の中のグローバリゼーション
Globalization in history
- グローバリゼーションの経済的次元ーリベラル国際秩序、金融危機、多国籍企業
The economic dimension of globalization
- グローバリゼーションの政治的次元ー国民国家のゆくえ、移民、EU
The political dimension of globalization
- グローバリゼーションの文化的次元ーマクドナルド化、メディア、言語
The cultural dimension of globalization
- グローバリゼーションのエコロジー的次元
The ecological dimension of globalization
- グローバリゼーションをめぐるイデオロギー対立
Ideological confrontations over globalization
- ー市場派グローバリズム
market globalism
- ー正義派グローバリズム
justice globalism
- ー宗教派グローバリズム
religious globalism
- 反グローバリズム、ポピュリズム、ドナルド・トランプ
antiglobalist populism and D. Trump
- グローバリゼーションの未来

- The future of globalization
14. グローバリゼーションと政策対応
globalization and policy response

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義前の事前準備は必須である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

毎回の講義での報告(50%)/講義への貢献度(30%)/最終レポート(Final Report)(20%)

テキスト(Textbooks)

1. Manfred B. Steger. 2020. *Globalization 5th ed.: A Very Short Introduction*. Oxford U. P. (ISBN:9780198849452)

参考文献(Readings)

1. S. ストレンジ、2011、『国家の退場』、岩波書店 (ISBN:9784000285155)
2. 斎藤修・古川純子編、2020、『分水嶺にたつ市場と社会』、文真堂 (ISBN:9784830950766)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA303／工業経済特論1 (Special Lecture on Industrial Economics 1)		
担当者名 (Instructor)	菊池 航(KIKUCHI WATARU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5420	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA365 工業経済特殊講義1と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「一般的ならびに専門的教養の上に、経済、経済政策、会計、経営を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」を実現できるように、産業の理論・歴史・実態を学びます。

産業を分析対象とした研究は、重厚な蓄積を有しています。産業とは、個別企業と経済全体の間位置する広い概念であるため、積み重ねられた研究は多様です。工業経済特論1では、膨大であり多様な蓄積を有する産業研究のなかでも、主に、日本企業が高い国際競争力を有する自動車産業を対象とした実証研究を輪読します。

工業経済特論1では、次の2点を目標とします。

1. 工業経済に関する基礎的な知識を獲得する。
2. 工業経済の研究方法に関する基礎的な知識を獲得する。

Students will study the theory, history, and actual conditions of industry in order to realize the Graduate School of Economics' curricular policy: "On the basis of general and specialized education, study the economy, economic policy, accounting, and management, and pursue their depths, while cultivating character and contributing to the advancement of culture on the basis of Christianity.

There is wealth of cumulative researches that analyze industries. Industry refers to broad concept placed amidst individual company and overall economy. Because of that, there have been many cumulative researches. In Special Lecture on Industrial Economics 1, from large store of industrial researches, students select and read about empirical researches targeting Japanese automotive industry with large global competitive edge.

授業の内容(Course Contents)

輪読する論文の意義を理解するため、まず、Academy of Management Journal, Academy of Management Review などに掲載された定性的研究方法に関する論文を輪読します。その後、Enterprise & Society, Industrial and Corporate Change などに掲載された自動車産業を分析対象とした論文を輪読します。

Students will read articles on qualitative research methods published in the Academy of Management Journal, Academy of Management Review and other journals. In addition, we will also read papers on the automobile industry published in Enterprise & Society and other journals.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション: 工業経済特論1の課題
2. 輪読: 産業や企業を対象とした定性的研究の方法(1)
: Building Theories from Case Study Research
3. 輪読: 産業や企業を対象とした定性的研究の方法(2)
: Building Theories from Case Study Research
4. 輪読: 産業や企業を対象とした定性的研究の方法(3)
: Eisenhardt Method
5. 輪読: 産業や企業を対象とした定性的研究の方法(4)
: Eisenhardt Method
6. 輪読: 産業や企業を対象とした定性的研究の方法(5)
: Oral History and Business History
7. 輪読: 産業や企業を対象とした定性的研究の方法(6)
: Oral History and Business History
8. 輪読: 自動車産業研究(1)
: Chinese government and automobile industry
9. 輪読: 自動車産業研究(2)
: Chinese government and automobile industry
10. 輪読: 自動車産業研究(3)
: Hierarchical Clusters
11. 輪読: 自動車産業研究(4)

- : Hierarchical Clusters
12. 輪読: 自動車産業研究(5)
: Mirroring in production
13. 輪読: 自動車産業研究(6)
: Mirroring in production
14. まとめ: 現代自動車産業の競争力とは

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義は、主に、英語論文の内容に関するディスカッションです。ディスカッションは日本語で行います。
十分な予習をしてから講義に臨んでください。
そのほか、授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

輪読の報告(40%)/ディスカッションへの貢献(60%)

テキスト(Textbooks)

初回講義に文献リストを配布します。

参考文献 (Readings)

適宜、講義中に提示します。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

全授業回のうち6回はオンラインでの実施を予定しています。実施回については「Canvas LMS」で指示する予定です。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA304／工業経済特論2 (Special Lecture on Industrial Economics 2)		
担当者名 (Instructor)	菊池 航(KIKUCHI WATARU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5420	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA366 工業経済特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「一般的ならびに専門的教養の上に、経済、経済政策、会計、経営を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」を実現できるように、産業の理論・歴史・実態を学びます。

産業を分析対象とした研究は、重厚な蓄積を有しています。産業とは、個別企業と経済全体の間位置する広い概念であるため、積み重ねられた研究は多様です。工業経済特論2では、膨大であり多様な蓄積を有する産業研究のなかでも、デザインやブランドに着目した実証研究を輪読します。

工業経済特論2では、次の2点を目標とします。

1. 工業経済に関する基礎的な知識を獲得する。
2. 工業経済の研究方法に関する基礎的な知識を獲得する。

Students will study the theory, history, and actual conditions of industry in order to realize the Graduate School of Economics' curricular policy: "On the basis of general and specialized education, study the economy, economic policy, accounting, and management, and pursue their depths, while cultivating character and contributing to the advancement of culture on the basis of Christianity.

There is wealth of cumulative researches that analyze industries. Industry refers to broad concept placed amidst individual company and overall economy. Because of that, there have been many cumulative researches. In Industrial Economics 2, students will read through empirical studies focusing on design and brands.

授業の内容 (Course Contents)

輪読する論文の意義を理解するため、まず、Research Policy, Journal of Business Research などに掲載されたデザインマネジメントやブランドマネジメントに関する論文を輪読します。その後、Business History, Business Horizons などに掲載された特定の産業を分析対象とした論文を輪読します。

Students will first read articles on design management and brand management published in Research Policy, Journal of Business Research, and other journals. After that, we will read papers on specific industries published in Business History, Business Horizons, etc. in order to understand the significance of the papers.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション：工業経済特論2の課題
2. 輪読：デザインマネジメント(1)
: Design, innovation, boundaries of the firm
3. 輪読：デザインマネジメント(2)
: Design, innovation, boundaries of the firm
4. 輪読：ブランドマネジメント(3)
: What is a luxury brand?
5. 輪読：ブランドマネジメント(4)
: What is a luxury brand?
6. 輪読：産業研究(1)
: European luxury big business
7. 輪読：産業研究(2)
: European luxury big business
8. 輪読：産業研究(3)
: Transformation of global luxury brands
9. 輪読：産業研究(4)
: Transformation of global luxury brands
10. 輪読：産業研究(5)
: Role of history in corporate brand strategy
11. 輪読：産業研究(6)
: Role of history in corporate brand strategy

12. 輪読:産業研究(7)
: Governance of Global Value Chains
13. 輪読:産業研究(8)
: Governance of Global Value Chains
14. まとめ:産業の競争力とは

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義は、主に、英語論文の内容に関するディスカッションです。ディスカッションは日本語で行います。
十分な予習をしてから講義に臨んでください。
そのほか、授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

輪読の報告(40%)/ディスカッションへの貢献(60%)

テキスト(Textbooks)

初回講義に文献リストを配布します。

参考文献(Readings)

適宜、講義中に提示します。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

全授業回のうち6回はオンラインでの実施を予定しています。実施回については「Canvas LMS」で指示する予定です。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA309／中国経済特論1 (Special Lecture on Chinese Economy 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	中国の経済発展と制度変化 (Economic Development and Institutional Changes in China)		
担当者名 (Instructor)	厳 成男(YAN CHENGNNAN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5520	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA329 中国経済特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

中国における経済発展と制度変化の間の相互関係を考察し、激変する中国の社会経済システムのさまざまな側面を把握することによって、中国経済に対する正しい理解ができる。

Students will analyze mutual relationship between economic development and institutional change in China. Students will acquire accurate understanding about Chinese economy by grasping various aspects of drastically changing Chinese socioeconomic system.

授業の内容 (Course Contents)

主に、テキストの輪読とその内容に関する議論を通じて、高度経済成長から中成長へ転換しつつある中国経済が直面しているさまざまな課題—市場競争、成長、分配、格差、環境、就労等—の発生メカニズム、実態、変容、および政策的対応について考え、中国経済発展の本質を把握する。

By reading texts and discussing their contents, students will think about various issues facing Chinese economy when transitioning from high to moderate economic growth – market competition, growth, distribution, disparity, environment, and employment. Students will think about their mechanism, current state, transformation, and political implementation to understand the nature of Chinese economic development accurately.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス—中国経済は如何に調整されているか？（テキスト1 概括）
2. 中国の経済発展戦略（テキスト1 の第1章）
3. 中国の雇用制度と低賃金労働（テキスト1 の第2章）
4. 中国の輸出主導型成長体制（テキスト1 の第3章、第4章）
5. 中国の産業発展と輸出主導型成長のインパクト①（テキスト1 の第5章）
6. 中国の産業発展と輸出主導型成長のインパクト②（テキスト1 の第6章、第7章）
7. 中国の労働市場制度改革（テキスト1 の第8章）
8. 中国経済の成長体制転換と調整様式（テキスト1 の第9章、終章）
9. 中国における経済制度の特質とその形成（テキスト2 の第1章、第2章）
10. 中国における経済制度の進化（テキスト2 の第3章、第4章）
11. 中国における企業経営と技術革新（テキスト2 の第5章、第6章）
12. 中国経済の対外拡張（テキスト2 の第7章）
13. 中国における腐敗と格差（テキスト2 の第8章、第9章）
14. 総括—「中国経済学」の誕生？（テキスト2 概括）

授業時間外（予習・復習等）の学習 (Study Required Outside of Class)

日頃より、日本経済新聞における中国経済関連記事をチェックすることが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レジュメの発表(70%)/全体議論への参加度合い(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 厳成男、2011、『中国の経済発展と制度変化』、京都大学学術出版会
2. 加藤弘之、2016、『中国経済学入門』、名古屋大学出版会

参考文献 (Readings)

1. 加藤弘之、2013、『「曖昧な制度」としての中国型資本主義』、NTT 出版
2. 丸川知雄・梶谷懐、2015、『超大国・中国のゆくえ』、東京大学出版会

3. 大西広、2016、『中成長を模索する中国』、慶応義塾大学出版会
4. 丸川和雄、2021、『現代中国経済』(新版)、有斐閣

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA310／中国経済特論2 (Special Lecture on Chinese Economy 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	中国の経済発展と制度変化 (Economic Development and Institutional Changes in China)		
担当者名 (Instructor)	厳 成男(YAN CHENG NAN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5520	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA330 中国経済特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

中国における経済発展と制度変化の間の相互関係を考察し、激変する中国の社会経済システムのさまざまな側面を把握することにより、中国経済に対する正しい理解ができる。

Students will analyze mutual relationship between economic development and institutional change in China. Students will acquire accurate understanding about Chinese economy by grasping various aspects of drastically changing Chinese socioeconomic system.

授業の内容 (Course Contents)

主に、テキストの輪読とその内容に関する議論を通じて、高度経済成長から中成長へ転換しつつある中国経済が直面しているさまざまな課題—市場競争、成長、分配、格差、環境、就労等—の発生メカニズム、実態、変容、および政策的対応について考え、中国経済発展の本質を把握する。

By reading texts and discussing their contents, students will think about various issues facing Chinese economy when transitioning from high to moderate economic growth – market competition, growth, distribution, disparity, environment, and employment. Students will think about their mechanism, current state, transformation, and political implementation to understand the nature of Chinese economic development accurately.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション—中国経済が直面する二つの罫（テキストの序章）
2. 中国の戸籍制度と農民工（テキストの第1章）
3. 中国の農村、都市化（テキストの第2章）
4. 中国の地方政府間競争（テキストの第3章）
5. 中国の産業構造の高度化（テキストの第4章）
6. 中国の産業集積（テキストの第5章）
7. 中国の技術開発（テキストの第6章）
8. 中国の民営化、市場化（テキストの第7章）
9. 中国の労働分配（テキストの第8章）
10. 中国の国有企業制度改革（テキストの第9章）
11. 中国の企業間競争（テキストの第10章）
12. 中国企業の海外進出（テキストの第11章）
13. 中国における格差（テキストの第12章、第13章）
14. 中国国家資本主義のゆくえ（テキストの終章）

授業時間外（予習・復習等）の学習 (Study Required Outside of Class)

日頃より、日本経済新聞における中国経済関連記事をチェックすることが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レジュメ発表(70%)/全体議論への参加度合い(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 加藤弘之・梶谷懐、2016、『二重の罫を超えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房

参考文献 (Readings)

1. 厳成男、2011、『中国の経済発展と制度変化』、京都大学学術出版会
2. 加藤弘之、2016、『中国経済学入門』、名古屋大学出版会
3. 丸川知雄・梶谷懐、2015、『超大国・中国のゆくえ』、東京大学出版会

4. 大西広、2016、『中成長を模索する中国』、慶応義塾大学出版会
5. 丸川和雄、2021、『現代中国経済』(新版)、有斐閣

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA311／外国貿易特論1 (Special Lecture on Foreign Trade 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	貿易の基礎と現代貿易の課題		
担当者名 (Instructor)	田中 綾一(TANAKA RYOICHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5420	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

1. 貿易の基礎的な事項について説明できる。
2. 戦後貿易の展開を説明できる。
3. 現代貿易の課題について説明できる。

1. Basics of trade will be explained.
2. Post-war development of trade will be explained.
3. Modern trade will be explained.

授業の内容 (Course Contents)

1. 貿易の歴史を説明する。
2. 貿易政策と実務について説明する。
3. 戦後の貿易体制について説明する。
4. 貿易と開発、所得格差との関係について説明する。
5. 地域主義等の諸問題について説明する。
6. 資源のグローバル化が産み出す問題について説明する。

1. Trade history will be explained.
2. Trade policy and practice will be explained.
3. Post-war trade system will be explained.
4. Connections among trade, development, and income gap will be explained.
5. Various issues such as regionalism will be explained.
6. Issues caused by globalization of resources will be explained.

授業計画 (Course Schedule)

1. 貿易の歴史: 大航海時代から現代まで
2. 貿易の考え方: 自由貿易の利益とは
3. 貿易の政策: 貿易のルールとは
4. 貿易の実務: 貿易はどのように行われているのか
5. 国際収支と外国為替: 貿易決済のしくみ
6. 戦後貿易の制度(1): IMF と GATT
7. 戦後貿易の制度(2): WTO
8. 貿易と開発(南北問題): 貧困解決に必要なものとは
9. 多国籍企業と直接投資: 企業の海外展開
10. 地域主義・地域貿易協定
11. 世界と日本の貿易: 21 世紀の日本の貿易
12. 農業と資源の貿易: 資源と貿易の関係
13. 貿易の新たな課題
14. 講義のまとめと総復習

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの内容をまとめてレジュメを作成すること。
復習については講義中に指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(20%)/出席及び授業参加度(80%)

テキスト (Textbooks)

1. 小林尚朗・篠原敏彦・所康弘（編）、2023、『貿易入門：世界と日本が見えてくる』、大月書店（ISBN:9784272150472）

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA312／外国貿易特論2 (Special Lecture on Foreign Trade 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	外国為替と国際決済、為替需給の分析		
担当者名 (Instructor)	田中 綾一(TANAKA RYOICHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5420	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

1. 国際貿易と一体不可分である決済の機能および実態を説明できる。
 2. 輸出取引を中心とした外国為替の機能を説明できる。
 3. 国際収支から為替需給を分析できる。
 4. 「グローバル・インバランス」を為替需給の観点から説明できる。
 5. 近年の為替相場の変動が日本の貿易に与えた影響を説明できる。
1. Students will be able to explain settlement function, which is inseparable from international trade.
 2. Students will be able to explain foreign exchange function particularly in export trade.
 3. Students will be able to analyze supply and demand of foreign exchange based on balance of international payments.
 4. Students will be able to explain global imbalance from perspective of foreign exchange supply and demand.
 5. Students will be able to explain impact of recent foreign exchange market fluctuation on Japan's trade.

授業の内容 (Course Contents)

1. 国際貿易の決済方法について説明する。
 2. 外国為替取引の原理と基本的なしくみについて説明する。
 3. 国際決済における、SWIFT、CLS などの技術革新について説明する。
 4. 為替相場の変動要因について説明する。
 5. 為替相場の変動が貿易に与える影響について説明する。
1. Settlement method in international trade will be explained.
 2. Principle and basic mechanism of foreign exchange will be explained.
 3. Technological innovation such as SWIFT and CLS in international settlement will be explained.
 4. Cause of fluctuation in FX market will be explained.
 5. Impact of fluctuation of FX market on trade will be explained.

授業計画 (Course Schedule)

1. 国際貿易と国際決済
2. 外国為替の原理と国際決済の基本形態
3. 外国為替の種類(1)
4. 外国為替の種類(2)
5. 外国為替における技術革新
6. 外国為替市場の構造と現状(1)
7. 外国為替市場の構造と現状(2)
8. 為替調整取引と為替媒介通貨(1)
9. 為替調整取引と為替媒介通貨(2)
10. 国際通貨と基軸通貨
11. 種々の為替相場
12. 国際収支の通貨区分の意義
13. 国際収支と為替需給
14. 講義のまとめと総復習

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの第1～4章を中心に学習する。
復習については講義中に指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(20%)/出席および授業参加度(80%)

テキスト(Textbooks)

1. 奥田宏司・代田純・櫻井公人（編）、2020、『深く学べる国際金融 持続可能性と未来像を問う』、法律文化社（978-4-589-04067-1 C1033）

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA313／社会政策特論1 (Special Lecture on Social Policies 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	イノベティブ福祉国家としてのデンマークの社会経済構造分析 (Analysis on socio-economic structure of Denmark as an innovative welfare state)		
担当者名 (Instructor)	菅沼 隆(SUGANUMA TAKASHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5520	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA331 社会政策特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

イノベティブ福祉国家としてのデンマークの社会経済構造を分析し、福祉国家の持続可能性の条件を考察する能力を身につける。

By analysing socio-economic structure of Denmark as an innovative welfare state, this course aims at getting ability to study conditions of sustainability of the welfare states.

授業の内容 (Course Contents)

イノベティブ福祉国家とは「イノベティブ福祉国家とは、福祉国家の諸制度・諸価値によりイノベティブな人材や組織が促進され、イノベーションが誘発されやすい国家」と定義できる。今年度は、デンマークのイノベーション・システムを概観した後、公共部門のイノベーションと労働者主導のイノベーションに関する研究論文を読む。

An innovative welfare state can be defined as "a state in which innovative human resources and organizations are promoted by the various institutions and values of the welfare state and innovation is easily induced". This year, after an overview of the Danish innovation system, we will read research papers on public sector innovation and labor-driven innovation.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. デンマークのナショナル・イノベーション・システム概観
3. デンマークのナショナル・イノベーション・システム概観
4. デンマークのナショナル・イノベーション・システム概観
5. デンマークのナショナル・イノベーション・システム概観
6. 公共部門のイノベーション
7. 公共部門のイノベーション
8. 公共部門のイノベーション
9. 公共部門のイノベーション
10. 公共部門のイノベーション
11. 労働者主導のイノベーション
12. 労働者主導のイノベーション
13. 労働者主導のイノベーション
14. まとめ

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

指定した論文を予め読み、関係情報を収集した上で、授業に参加していただく。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

1. Bengt-Aake Lundvall. 2002. *Innovation, Growth and Social Cohesion*. Elger (ISBN:1840647434)
2. Steen Hoeyrup. 2012. *Employee-Driven Innovation*. Palgrave Macmillan (ISBN:9781349326457)
3. Peter R.A. Oeji et al.. 2017. *Workplace Innovation*. Springer (ISBN:9783319858876)
4. Cristina Chaminade et al.. 2018. *National Innovation Systems*. Elger (ISBN:9781785362019)
5. Lars Mjoeste et al.. 2011. *The Nordic Varieties of Capitalism*. Emerald (ISBN:9780857247773)

上記はテキストの例である。日本語の論文を取り上げることもある。受講者の問題意識に基づいて選定する。

参考文献 (Readings)

1. クラウス・ペーター・セン他、2017、『北欧福祉国家は持続可能か』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623075355)

2. 齊藤弥生、石黒暢、2019、『北欧』、旬報社 (ISBN:9784845115976)
3. 佐野利男、2017、『女神フライアが愛した国』、東海大学出版社 (ISBN:9784486021629)
4. Torben M.Andersen.et.al.. 2017. *The Danish Economy in a Global Context*. Djoef Publishing (ISBN:9788757436358)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA314／社会政策特論2 (Special Lecture on Social Policies 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	イノベティブ福祉国家としてのデンマークの社会経済構造分析 (Analysis on socio-economic structure of Denmark as an innovative welfare state)		
担当者名 (Instructor)	菅沼 隆(SUGANUMA TAKASHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5520	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA332 社会政策特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

イノベティブ福祉国家としてのデンマークの社会経済構造を分析し、福祉国家の持続可能性の条件を考察する能力を身につける。

By analysing socio-economic structure of Denmark as an innovative welfare state, this course aims at getting ability to study conditions of sustainability of the welfare states.

授業の内容 (Course Contents)

デンマークのイノベーションシステムの最先端の研究動向を扱う。政府の政策に着目し、イノベーション全般、デジタル政策、グリーン政策について研究する。

The project deals with cutting-edge research trends in the Danish innovation system. Focusing on government policies, the research will study innovation in general, digital policies, and green policies.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. イノベーション政策
3. イノベーション政策
4. イノベーション政策
5. イノベーション政策
6. デジタル政策
7. デジタル政策
8. デジタル政策
9. デジタル政策
10. グリーン政策
11. グリーン政策
12. グリーン政策
13. グリーン政策
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

指定した論文を予め読み、関係情報を収集した上で、授業に参加していただく。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

1. C.H.Joergensen. 2018. *Vocational Education in the Nordic Countries*. Routledge (ISBN:9781138219809)
2. J.L.Christensen et.al.. 2021. *Globalisation, New and Emerging Technologies, and Sustainable Development—the Danish Innovation System in Transision*. Routledge (ISBN:9780367480479)
3. Cecilia Rikap et.al.. 2021. *The Digital Innovation Race*. Palgrave (978303089442)
4. Cristina Chaminade et.al.. 2018. *National Innovation Systems*. Elger (ISBN:9781785362019)
5. Linda L.Andersen et.al.. 2016. *Social Entrepreneurship and Social Enterprises— Nordic Perspectives*. Routledge (ISBN:9781138656260)

上記はテキストの例である。日本語の論文を取り上げることもある。受講者の問題意識に基づいて選定する。

参考文献 (Readings)

1. Bent Greve. 2015. *Den sociale og innovative velfaerdsstat*. Hans Reitzel (ISBN:9788741261065)

2. Mazzucato. 2013. *The entrepreneurial state : debunking public vs. private sector myths*. Anthem (ISBN:9780857282521)
3. Augustin K. Fosu. 2013. *Development success : historical accounts from more advanced countries*. Oxford Univ. (ISBN:9780199660704)
4. 豊泉周治、2021、『幸福のための社会学ー日本とデンマークの間』、星雲社 (ISBN:9784434292644)
5. Francis Fukuyama. 2014. *Political order and political decay : from the industrial revolution to the globalization of democracy*. Farrar, Straus and Giroux (ISBN:9780374227357)
6. Ove Kaj Pedersen. 2011. *Konkurrencestaten*. Hans Reitzel (ISBN:9788741251561)
7. The Observatory of Public Sector Innovation in OECD Directorate for Public Governance. 2021. *Public Sector Innovation Scan of Denmark*. OECD

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA315／労働経済特論1 (Special Lecture on Labor Economics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本の労使関係・雇用慣行		
担当者名 (Instructor)	首藤 若葉(SHUTO WAKANA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5420	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA333 労働経済特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

日本の労使関係・雇用慣行について、その特質、形成過程を理解したうえで、今日の変化を議論する。

Students will understand characteristics and formation process of labor-employment relationship and employment practice in Japan. They will also discuss current changes.

授業の内容 (Course Contents)

かつて日本の国際競争力を牽引してきたとされる日本型雇用慣行は、今日、大きく揺らいでいる。有期雇用者や短時間労働者の増加、職務給や成果・業績給制度の導入がすすむなか、長期に安定した雇用や年功型の賃金体系は、過去の産物として語られることが多い。本講義では、まず日本の雇用システムとは何であったのかについて、その形成過程から論じ、そこに内包されてきた問題を検討する。同時に、賃金制度、技能育成のあり方、労使関係について、先進諸外国の実態と比較することで、日本の特質を明らかにする。そのうえで、今日、日本型雇用慣行が質的にどう変わりつつあるのかを議論し、今後の労使関係、雇用慣行を展望する。

Previously Japanese employment practice has contributed greatly to Japan's international competitiveness, but its balance is being upset. Due to increase of fixed-term and short-term employees, companies introduce performance-based or evaluation/result-based pays. Many people state that stable long-term employment and seniority system are legacy of the past. In this class, students will discuss previous Japanese employment system's essence, formation, and issues it brought. At the same time, students will compare Japan with other developed nations in terms of salary system, skill cultivation, and labor-employment relationship to clarify characteristics found in Japan. Furthermore, students will discuss gradual qualitative changes in Japanese employment practice and forecast future labor-employment relationship and employment practice.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 参加者による報告、議論(1)
3. 参加者による報告、議論(2)
4. 参加者による報告、議論(3)
5. 参加者による報告、議論(4)
6. 参加者による報告、議論(5)
7. 参加者による報告、議論(6)
8. 参加者による報告、議論(7)
9. 参加者による報告、議論(8)
10. 参加者による報告、議論(9)
11. 参加者による報告、議論(10)
12. 参加者による報告、議論(11)
13. 参加者による報告、議論(12)
14. 全体総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義のなかで適宜指示する

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告および発言を総合的に評価する(100%)

テキスト (Textbooks)

テキストは参加者と相談して決める。

参考文献 (Readings)

講義のなかで適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA316／労働経済特論2 (Special Lecture on Labor Economics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル化と労使関係の変化		
担当者名 (Instructor)	首藤 若葉(SHUTO WAKANA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5420	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA334 労働経済特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

グローバル化に対応した労使関係の枠組みについて議論し、理解を深める。

Students will deepen their understanding by discussing globalized labor-employment relationship framework.

授業の内容 (Course Contents)

経営のグローバル化が進展する一方で、労働組合による国際連帯の強化が叫ばれて久しいが、日本の多くの労働組合は、未だ一国的な活動にとどまっている。本講義では、企業のグローバル化と労働組合の一国的運動という労使間のズレが何をもたらすのか、議論する。そのうえで、欧州を中心に、多国籍企業に対する社会的規制や労働組合のネットワークの拡大のケースを考察し、グローバル化に対応した労使関係のあり方を検討したい。

As globalization of management is progressing, labor unions are called to fortify their international solidarity. Nevertheless, many Japanese labor unions are still active only in Japan. In this class, students will discuss countrywide labor-employment gap between globalization of corporations and stagnated globalization of labor unions. In addition, students will focus on Europe when analyzing social regulations on multi-national corporations and labor unions' expanding network. Students will discuss about how the labor-employment relationship in response to globalization should be.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 参加者による報告、議論(1)
3. 参加者による報告、議論(2)
4. 参加者による報告、議論(3)
5. 参加者による報告、議論(4)
6. 参加者による報告、議論(5)
7. 参加者による報告、議論(6)
8. 参加者による報告、議論(7)
9. 参加者による報告、議論(8)
10. 参加者による報告、議論(9)
11. 参加者による報告、議論(10)
12. 参加者による報告、議論(11)
13. 参加者による報告、議論(12)
14. 全体総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業のなかで適宜指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告および発言を総合的に評価する(100%)

テキスト (Textbooks)

テキストは参加者と相談して決める。

参考文献 (Readings)

授業のなかで適宜指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA317／中小企業特論1 (Special Lecture on Small Business Problems and Studies 1)		
担当者名 (Instructor)	遠山 恭司(TOYAMA KYOJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA335 中小企業特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

日本経済におけるものづくり中小企業の理論・実態を踏まえて、グローバル化する経済構造と分業体制、研究開発や知財連携、市場創造など、産業競争力基盤を体系的に理解し、政策的含意を抽出する能力を身につける。

Students will consider theories and current states of SMEs and Monozukuri corporations in Japanese economy. Students will understand systematically foundation of industrial competitive edge and be able to extract its political significance. These subjects include globalized economic structure, system of division of labor, R&D, intellectual collaboration, and market creation.

授業の内容 (Course Contents)

日本産業の国際競争力が問われて久しい。全国の企業数、事業所数は減少傾向にあるが、付加価値を増大させ、あるいは海外とのネットワーク形成で雇用を維持している分野や地域も存在する。本講では、港徹雄著『日本のものづくり 競争力基盤の変遷』日本経済新聞出版社を取り上げ、各章ごとに輪読形式で日本のものづくり産業の競争力基盤を考察していく。受講者は、各章を読むだけでなく、そこで示されている参考文献や関連する複数の論文をあわせて読み込んで、毎回、レジメ形式にて報告と討論を行う。ものづくりの思想と方法に日本企業の競争力を見いだす議論が多いが、ここでは分業の効率化からR&D型プロダクトイノベーションへの競争要因シフトを提示している。こうした論理を複眼的で多角的に検討し、中小企業・ベンチャー企業の存立基盤と役割、政策課題を考察する。

Since long ago, many people have been questioning international competitiveness of Japanese industries. Nationwide corporations and businesses are decreasing. Some sectors and regions sustain their employment by increasing their added value or forming network with foreign countries. Students will study Japanese Monozukuri: Changing Competitive Edge (Nikkei Publishing) by Tetsuo Minato. Students will read each chapter and analyze foundation of competitive edge Japanese Monozukuri industry.

Students will read not only each chapter, but also reference literatures and several related papers shown. Each time, students will submit summary report and participate in discussion. Many people sought Japanese corporation competitive edge in Monozukuri thinking and method. Here, students will see shifting competition factor from more efficient labor division to R&D product innovation. Students will discuss these theories from multiple perspectives and angles. In addition to political issues, students will consider existential foundation of SMEs, Business Ventures and their roles.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 競争力基盤と国際分業
3. 分業システム転換と国際競争力
4. 分業システム転換と世界不況
5. 日本産業の競争力要因
6. 国際競争環境の変化と海外投資
7. 競争力基盤と国際移転性
8. 研究開発投資と知的生産性
9. 起業選択とベンチャーのリスク耐性
10. 大企業と中小企業との知的連携
11. 中小企業の共同技術開発
12. 21世紀の知的競争力基盤
13. 下請システムの源流と進化
14. パワーと信頼形成による分業システム進化

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は、履修登録完了後に Blackboard 上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告と討論の参加・貢献度(60%) / 授業参加度(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 港徹雄、2011、『日本のものづくり 競争力基盤の変遷』、日本経済新聞出版社 (ISBN:9784532134082)

参考文献(Readings)

1. 藤本隆宏、2004、『日本のもの造り哲学』、日本経済新聞出版社 (ISBN:9784532311391)

その他(HP 等) (Others(e.g HP))

授業に関する連絡は、立教 G メールを利用します。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA318／中小企業特論2 (Special Lecture on Small Business Problems and Studies 2)		
担当者名 (Instructor)	遠山 恭司(TOYAMA KYOJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA336 中小企業特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

日本の中小企業とグローバル経済を有機的に考察し、「東アジア」における現代的諸問題を切り口に複眼的な思考をもった研究推進能力の形成を目指す。

Students will analyze Japanese SMEs and global economy organically. Students will acquire research skills to think about various modern issues in East Asia from multiple perspectives.

授業の内容 (Course Contents)

本授業では、中小企業の事業活動範囲・ビジネスモデル・存立構造を東アジア大の経済社会構造の中でとらえ、主体的な姿勢で考察することが肝要である。経済大国の中国・日本、韓国・台湾、東南アジアの間には、産業、企業、技術、生産、組織、分業といった複雑な「競争と協調」、「成長・発展」のメカニズムが存在する。これらを俯瞰的かつ複眼的に検討し、日本中小企業の諸問題と可能性を考察する。授業は受講生によるテキストの輪読と報告、それに対するディスカッションによって進められる。

In this class, students will think about activities of SMEs, models, and structures in terms of East Asian economic and social structures. It is crucial for students to conduct self-directed analyses. Competition and cooperation, growth and development – These complicated mechanisms exist among economic giants such as China-Japan, South Korea-Taiwan, and among Southeast Asian countries. These mechanisms cover industry, corporation, technology, production, organization, and labor division. Students will discuss these from bird-eye view and multiple perspectives to explore various issues and potential in Japanese SMEs. In the class, students will report, read textbooks, and participate in discussion.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 新興アジア経済論の視角
3. 歴史の中のアジア・世界の中のアジア
4. アジア化するアジア
5. キャッチアップ型工業論再考
6. 「鼎構造」論
7. 中所得国の罟
8. 社会大変動の時代
9. 社会発展なき成長
10. 経済と社会のバランス 日本の役割
11. 東アジアと中小企業1
12. 東アジアと中小企業2
13. 東アジアと中小企業3
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は、初回授業時(ガイダンス)にて、履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告とディスカッション(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 末廣 昭、2014、『新興アジア経済論』、岩波書店 (978-4-00-028742-5 C0333)
- そのほか、必要に応じて指示する。

参考文献 (Readings)

1. 遠藤 環他、2018、『現代アジア経済論』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-18442-8)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

授業に関する連絡は、立教 G メールを利用します。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA319／アジア経済特論1 (Special Lecture on Structure of Asian Economy 1)		
担当者名 (Instructor)	郭 洋春(KWAK YANGCHOON)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5520	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA337 アジア経済特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

アジア各国の経済構造の分析を通し、アジア地域が抱えている諸問題の解明とその解決方法について考察する。

Through the analysis of the economic structure of Asian countries, we will consider the elucidation of various problems in the Asian region and their solutions.

授業の内容 (Course Contents)

テキストの輪読を通して、アジア地域が抱えている諸問題－所得格差、環境破壊、ジェンダー問題、地域紛争等－の発生の背景、課題などを考える。

授業の進め方は、履修者による報告と議論を通して上記問題を履修者自らの頭で考える力を養う。

Through reading the textbook, we will consider the background and issues of various problems (income disparity, environmental destruction, gender problems, regional conflicts, etc.) that the Asian region has.

As for how to proceed with the lessons, students will develop the ability to think about the above problems by themselves through reports and discussions by the students.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 経済開発の今日的課題
3. 萌芽期の経済開発 1
4. 萌芽期の経済開発 2
5. 分岐する経済開発 1
6. 分岐する経済開発 2
7. 今日の経済開発のメインストリーム
8. 量から質へと転換する経済開発 1
9. 量から質へと転換する経済開発 2
10. 持続可能な経済開発 1
11. 持続可能な経済開発 2
12. 平和のための経済開発
13. 21 世紀の経済開発
14. まとめ

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストは事前に読んでくること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業中での発表(50%)/授業での発言(30%)/授業への貢献(20%)

テキスト (Textbooks)

最初の授業で案内する

参考文献 (Readings)

1. 郭洋春編著、2013、『開発リスクの政治経済学』、文眞堂 (ISBN:483094806X)
2. 郭洋春著、2016、『国家戦略特区の正体』、集英社
3. 郭洋春、2022、『100 均資本主義～脱成長社会「幸せな暮らし」のつかみ方』、プレジデント社 (ISBN:978-4-8334-2465-3)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA320／アジア経済特論2 (Special Lecture on Structure of Asian Economy 2)		
担当者名 (Instructor)	郭 洋春(KWAK YANGCHOON)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5520	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA338 アジア経済特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

アジアで起きている諸問題を学ぶことで、21世紀のアジア、日本とアジアとの関係などを理解する。アジアのダイナミズムの理解を通して、日本経済の抱えている課題を振り返る。最終的には世界経済の中で、アジア経済の占める位置・意義について理解する。

By studying various problems occurring in Asia, we will understand Asia in the 21st century and the relationship between Japan and Asia. Through understanding the dynamism of Asia, we will look back on the challenges facing the Japanese economy. Finally, understand the position and significance of the Asian economy in the world economy.

授業の内容 (Course Contents)

アジアで起きている諸問題を解説しながら、その発生要因、解決方法等を理解する。また、アジアの一員である日本が、今後アジア諸国とどのように付き合っていくのかを解説することで、アジアの中の日本の果たすべき役割について考える契機とする。授業の後半にはバズセッション(グループディスカッション)を行い、受講生自らが上記問題について考える力を養えるようにする。

While explaining various problems that are currently occurring in Asia, understand the causes and solutions. In addition, by explaining how Japan, which is a member of Asia, will deal with Asian countries in the future, it will be an opportunity to think about the role that Japan should play in Asia. Buzz sessions (group discussions) will be held in the latter half of the class so that students can develop their own ability to think about the above problems.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 世界が注目するアジア
3. なぜアジアは経済成長したのか 1
4. なぜアジアは経済成長したのか 2
5. 巨大サプライチェーンの拠点・アジア
6. 本物を凌駕する？アジアのコピー商品
7. アジアのコピー商品とどう向き合うべきか
8. 成長戦略と化したアジアのエンタメ 1
9. 成長戦略と化したアジアのエンタメ 2
10. 新たな成長戦略としてのインバウンド
11. 日本のインバウンド戦略
12. 増える人口・減る食糧
13. アジアの領土問題
14. アジアの環境問題

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストは事前に読んできて、持参すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業での報告(50%)/授業中の発言(30%)/授業への貢献(20%)

テキスト (Textbooks)

第1回授業で提示

参考文献 (Readings)

1. 郭洋春、2013、『TPP すぐそこに迫る亡国の罟』、三交社 (ISBN:4879197122)
2. 郭洋春、2022、『100 均資本主義～脱成長社会「幸せな暮らし」のつかみ方』、プレジデント社 (ISBN:978-4-8334-2465-3)
3. 郭洋春、2016、『国家戦略特区の正体』、集英新書

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA321／証券経済特論1 (Special Lecture on Economic Theory of Securities 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代の資本主義システムを「金融化(ファイナンシャリゼーション)」という観点から分析し、金融システムや金融市場の歴史的な発展を理論的・実証的に解明していく。		
担当者名 (Instructor)	三谷 進(MITANI SUSUMU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA339 証券経済特殊講義1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

現代の資本主義システムを「金融化(ファイナンシャリゼーション)」という観点から分析し、金融システムや金融市場の歴史的な発展を理論的・実証的に解明していく。

Students will analyze modern capitalism system from financialization perspective. Students will clarify theoretically and empirically historical development of financial system and market.

授業の内容 (Course Contents)

この授業では、コスタス・ラパヴィツァスの『金融化資本主義』(2018年、日本経済評論社)をテキストにしながら、現代の金融市場の基本的な仕組みや、金融機関における証券投資や資産運用のあり方について学んでいく。また、授業の進め方としては、テキストを輪読しながら、報告者による発表とその内容に関する討論を行っていく。

In this class, students will use Financialised Capitalism by Costas Lapavistas (2018, published by Nihon Keizai Hyoronsha) as textbook. Students will learn about basic framework of modern financial market, securities investment, and asset management in financial institutions. This class will proceed with textbook reading, reporters' presentations, and discussion about these contents.

授業計画 (Course Schedule)

1. 授業のガイダンス
2. 金融化の分析視角について
3. 金融化の文献および理論
4. 金融化についてのアプローチ
5. 金融の優位の第一波動
6. 資本主義の変化についてのヒルファディングの分析
7. 株式市場と金融資本
8. 金融化資本主義の貨幣的基礎
9. 現代貨幣に関する理論
10. 金融化資本主義における新たな形態の貨幣
11. 金融化の流動領域：金融と資本主義経済
12. 資本主義的な社会的条件が要求する金融システム
13. 資本市場、投資銀行、機関投資家および金融システムのデザイン
14. 授業の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの事前学習と、発表時のレジュメ等の準備が必要となる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(50%)/報告および討論(25%)/レポート(25%)

テキスト (Textbooks)

1. コスタス・ラパヴィツァス、2018、『金融化資本主義』、日本経済評論社 (ISBN:9784818825000)

参考文献 (Readings)

参考文献については、授業の際に、適宜、指示する。

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA322／証券経済特論2 (Special Lecture on Economic Theory of Securities 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代の資本主義システムを「金融化(ファイナンシャリゼーション)」という観点から分析し、金融システムや金融市場の歴史的な発展を理論的・実証的に解明していく。		
担当者名 (Instructor)	三谷 進(MITANI SUSUMU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA340 証券経済特殊講義2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

現代の資本主義システムを「金融化(ファイナンシャリゼーション)」という観点から分析し、金融システムや金融市場の歴史的な発展を理論的・実証的に解明していく。

Students will analyze modern capitalism system from financialization perspective. Students will clarify theoretically and empirically historical development of financial system and market.

授業の内容 (Course Contents)

この授業では、コスタス・ラパヴィツァスの『金融化資本主義』(2018年、日本経済評論社)をテキストにしながら、現代の金融市場の基本的な仕組みや、金融機関における証券投資や資産運用のあり方について学んでいく。また、授業の進め方としては、テキストを輪読しながら、報告者による発表とその内容に関する討論を行っていく。

In this class, students will use Financialised Capitalism by Costas Lapavistas (2018, published by Nihon Keizai Hyoronsha) as textbook. Students will learn about basic framework of modern financial market, securities investment, and asset management in financial institutions. This class will proceed with textbook reading, reporters' presentations, and discussion about these contents.

授業計画 (Course Schedule)

1. 授業のガイダンス
2. 金融利潤の難問
3. 株式保有から生じる金融利潤
4. 金融化的蓄積の背景
5. 国家が形作る金融化的蓄積の「チャネル」
6. 成熟した金融化と従属的金融化
7. 実物的蓄積と金融的蓄積の間の区分
8. バブルの崩壊と金融危機の発生
9. 国家の介入と危機の財政化
10. 金融のコントロール
11. 第二次世界大戦後の金融規制の軌跡
12. 金融化の条件下における規制
13. 金融化への対抗:いくつかの結論
14. 授業の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの事前学習と、発表時のレジュメ等の準備が必要となる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(50%)／報告および討論(25%)／レポート(25%)

テキスト (Textbooks)

1. コスタス・ラパヴィツァス、2018、『金融化資本主義』、日本経済評論社 (ISBN:9784818825000)

参考文献 (Readings)

参考文献については、授業の際に、適宜、指示する。

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA325／日本経済特論1 (Special Lecture on Japanese Economic 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本と東アジアの経済成長史研究 1		
担当者名 (Instructor)	林 采成(LIM CHAISUNG)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA341 日本経済特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

戦後東アジア経済は冷戦の傍ら長期間にわたる「高度成長」あるいは「圧縮成長」を経験した。経済史的観点から見れば、日本、台湾、韓国、中国の隣接する4つの地域あるいは国が時間差を置きながら、このような高成長を工業化に基づいて成し遂げたのは人類史上、東アジアに限られる現象である。その中で日本経済がいわゆる投資循環型高度成長メカニズムを構築し、1955年から石油危機が起こる1973年にかけて年平均10%前後の成長率を記録している。日本は外資の導入と高い貿易依存度を前提として全く別の国となってしまうが、高度成長の原型ともいえる。こうした比較の視点から、なぜ日本と東アジアでは高成長メカニズムが作動して展開し、最後には終息に向かえざるを得なかったのかを明らかにする。

Post-war East Asian economy has experienced long period of high or compressed growth parallel to the cold war. From perspective of economic history, Japan, Taiwan, South Korea, China and their surrounding 4 regions and countries have achieved great economic growth based on industrialization despite lag in their progress. In human history this phenomenon is only observed in East Asia. Amidst this, Japan has constructed high-growth mechanism through the so-called investment cycle model. Through these, Japan has recorded roughly 10% annual growth from 1955 to crude oil crisis 1973. Although Japan seems like different country if we look at foreign capital inflow and high dependency on trade, it is still the prototype for high growth. Through comparative perspective, professor will clarify how these high-growth mechanisms work in Japan and East Asia, and why they had inevitably end.

授業の内容 (Course Contents)

武田晴人・林采成(2019)『歴史としての高成長：東アジアの経験』京都大学学術出版会、堀和生編著(2016)『東アジア高度成長の歴史的展開』京都大学学術出版会、武田晴人編(2011)『高度成長期の日本経済』有斐閣、関連論文などを順番に読んでいく。そしてそれを基に高度経済成長メカニズムを探る。院生との相談の上、テキストなどを決定する。

Students will read The Historical Origins of The High Economic Growth in East Asia by Kazuo Hori (2016, Kyoto University Press), The high-growth Economy in Japan by Takeda Haruhito (2011, Yuhikaku publishing), and related papers. Students will explore mechanisms of high economic growth based on these.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 『歴史としての高成長』
3. 『歴史としての高成長』
4. 『歴史としての高成長』
5. 『歴史としての高成長』
6. 『歴史としての高成長』
7. 関連論文および資料分析
8. 関連論文および資料分析
9. 関連論文および資料分析
10. 関連論文および資料分析
11. 関連論文および資料分析
12. 関連論文および資料分析
13. 関連論文および資料分析
14. 中間まとめ—「高度成長」の歴史的条件

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

参加者は交代でレポーターとなる。レポーターはもちろん、その他の参加者も熟読の上、必ず討論点を提出する。また、適宜討論内容を記録し、中間まとめレポートの材料とする。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / ディスカッション技術など(60%)

テキスト(Textbooks)

1. 武田晴人・林采成、2019、『歴史としての高成長:東アジアの経験』、京都大学出版会 (ISBN:9784814002474)
2. 堀和生、2016、『東アジア高度成長の歴史的展開』、京都大学出版会 (ISBN:9784814000548)

参考文献(Readings)

授業時に提示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA326／日本経済特論2 (Special Lecture on Japanese Economic 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本と東アジアの経済成長史研究2		
担当者名 (Instructor)	林 采成(LIM CHAISUNG)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA342 日本経済特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

戦後東アジア経済は冷戦の傍ら長期間にわたる「高度成長」あるいは「圧縮成長」を経験した。経済史的観点から見れば、日本、台湾、韓国、中国の隣接する4つの地域あるいは国が時間差を置きながら、このような高成長を工業化に基づいて成し遂げたのは人類史上、東アジアに限られる現象である。その中で日本経済がいわゆる投資循環型高度成長メカニズムを構築し、1955年から石油危機が起こる1973年にかけて年平均10%前後の成長率を記録している。日本は外資の導入と高い貿易依存度を前提として全く別の国となってしまうが、高度成長の原型ともいえる。こうした比較の視点から、なぜ日本と東アジアでは高成長メカニズムが作動して展開し、最後には終息に向かえざるを得なかったのかを明らかにする。

Post-war East Asian economy has experienced long period of high or compressed growth parallel to the cold war. From perspective of economic history, Japan, Taiwan, South Korea, China and their surrounding 4 regions and countries have achieved great economic growth based on industrialization despite lag in their progress. In human history this phenomenon is only observed in East Asia. Amidst this, Japan has constructed high-growth mechanism through the so-called investment cycle model. Through these, Japan has recorded roughly 10% annual growth from 1955 to crude oil crisis 1973. Although Japan seems like different country if we look at foreign capital inflow and high dependency on trade, it is still the prototype for high growth. Through comparative perspective, professor will clarify how these high-growth mechanisms work in Japan and East Asia, and why they had inevitably end.

授業の内容 (Course Contents)

武田晴人・林采成編(2019)『歴史としての高成長』京都大学出版会、堀和生・萩原充編(2019)『世界工場への道』京都大学学術出版会、堀和生編著(2016)『東アジア高度成長の歴史的展開』京都大学学術出版会、武田晴人編(2011)『高度成長期の日本経済』有斐閣、関連論文などを順番に読んでいく。そしてそれを基に高度経済成長メカニズムを探る。

Students will read The Historical Origins of The High Economic Growth in East Asia by Kazuo Hori (2016, Kyoto University Press), The high-growth Economy in Japan by Takeda Haruhito (2011, Yuhikaku publishing), and related papers. Students will explore mechanisms of high economic growth based on these.

授業計画 (Course Schedule)

1. 高度成長期の日本経済に関する経済史的分析
2. 関連論文および資料分析
3. 関連論文および資料分析
4. 関連論文および資料分析
5. 関連論文および資料分析
6. 関連論文および資料分析
7. 関連論文および資料分析
8. 関連論文および資料分析
9. 関連論文および資料分析
10. 関連論文および資料分析
11. 関連論文および資料分析
12. 関連論文および資料分析
13. 関連論文および資料分析
14. まとめ—経済成長史の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

輪読については日本経済特論1に同じ。資料分析については担当した資料群の分析経過を報告し、分析上の隘路については打開方法を協議するので、それらを明確にしておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / ディスカッション技術など(60%)

テキスト(Textbooks)

1. 武田晴人、2011、『高度成長期の日本経済』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-16368-3)
2. 堀和生・萩原充、2019、『世界工場への道』、京都大学出版会 (ISBN:978-4814002184)
3. 武田晴人・林采成、2019、『歴史としての高成長』、京都大学出版会 (ISBN:9784814002474)
4. 林采成・武田晴人、2022、『企業類型と産業育成』、京都大学出版会 (ISBN:9784814004485)

授業時、院生との相談の上、決定する。

参考文献(Readings)

授業時に提示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA327／都市政策特論1 (Special Lecture on Urban Policy Studies 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	都市と地域の経済学		
担当者名 (Instructor)	香川 涼亮(KAGAWA RYOSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5420	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA343 都市政策特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

- ・経済学の理論的枠組みに沿って、都市と地域に関する諸問題を分析できるようになる。
- ・都市と地域の経済学に関する考え方を、論理的に説明できるようになる。

To be able to analyze various problems related to cities and regions in accordance with the theoretical framework of economics.
To be able to logically explain the concept of economics of cities and regions.

授業の内容 (Course Contents)

都市経済学の基本概念と理論的枠組みをカバーしたテキストを演習形式で学ぶ。導入として経済活動の分布は空間的に不均一であることを確認する。前半では都市経済学の枠組みにおいて、都市内構造および複数都市間の規模の関係を考察する。後半では空間経済学を用いて、経済活動の分布(集積が起きる理由)をヒト・モノの流れを内生化して説明できることを理解する。授業においては、受講者によるプレゼンテーションおよび、活発な議論を重視する。使用するテキストや授業の内容は、受講者の理解度や関心領域によって変更することがある。

This course is a seminar-style study of texts dealing with the basic concepts and theoretical framework of urban economics. As an introduction, we will confirm that the distribution of economic activities is spatially heterogeneous. In the first half of the course, we will examine the relationship between intra-city structure and scale among multiple cities in the framework of urban economics. In the second half, we will use spatial economics to understand that the distribution of economic activity (the reason why agglomeration occurs) can be explained by endogenizing the flow of people and goods.

In class we emphasize presentations by students and active discussions. The textbook used and the content of the class may be changed depending on the level of understanding of the students and their areas of interest.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: A Spiky World
2. Geo-Human Interaction (1)
3. Geo-Human Interaction (2)
4. Space Within Cities (1)
5. Space Within Cities (2)
6. Space Within Cities (3)
7. City Systems (1)
8. City Systems (2)
9. The Core Model (1)
10. The Core Model (2)
11. The Core Model (3)
12. Extensions of the Core Model (1)
13. Extensions of the Core Model (2)
14. Extensions of the Core Model (3)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・予習として毎回テキストを精読し、授業内での議論に備えること。
- ・復習として授業内で課す練習問題を解き、説明できるようにすること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内での報告や議論への貢献(70%) / 最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト (Textbooks)

1. Steven Brakman, Harry Garretsen and Charles van Marrewijk. 2019. *An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World* 3rd. edition. Cambridge University Press (ISBN:9781108407366)

英文のテキストを利用するが、適宜和文の資料を紹介して受講者の理解に資する。
初回授業時までに用意する必要はない。

参考文献 (Readings)

1. 門川和男、2020、『例題で学ぶ 地域経済学入門』、学術研究出版 (ISBN:9784865844436)
2. 神取道宏、2014、『ミクロ経済学の力』、日本評論社 (ISBN:9784535557567)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

・履修の前提として、学部レベルのミクロ経済学を習得していることが望ましい。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA328／都市政策特論2 (Special Lecture on Urban Policy Studies 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	都市・地域の実証経済分析		
担当者名 (Instructor)	香川 涼亮(KAGAWA RYOSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5420	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA344 都市政策特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

- ・経済学の理論的枠組みに沿って、都市と地域に関する諸問題を分析できるようになる。
- ・計量経済学の手法を用いた実証分析や政策評価の方法を理解し、研究能力を身につける。

To be able to analyze various problems related to cities and regions in accordance with the theoretical framework of economics. Understand the methods of empirical analysis and policy evaluation using econometric methods, and acquire research skills.

授業の内容 (Course Contents)

都市・地域の実証経済分析をカバーしたテキストを演習形式で学ぶ。導入として空間固有の指標である不平等指標および経済集積指標に触れるとともに、因果推論や自然実験の手法について確認する。前半では都市経済学のうち、集積の経済の実証分析を扱う。後半では経済地理学の実証分析を扱い、自国市場効果、空間的賃金構造、交易費用といったトピックの実証分析を理解する。

また分析手法にとどまらず実際の分析事例を取り上げて検討し、受講者自身の研究ができるように統計ソフトや GIS の活用についての演習を行う。

授業においては、受講者によるプレゼンテーションおよび、活発な議論を重視する。使用するテキストや授業の内容は、受講者の理解度や関心領域によって変更することがある。

This course is a seminar-style study of a textbook that covers empirical economic analysis of cities and regions. As an introduction, we will touch on inequality indices and economic agglomeration indices, which are space-specific indices, and confirm methods of causal inference and natural experiments. The first half of the course deals with the empirical analysis of the economy of agglomeration in urban economics. The second half of the course deals with the empirical analysis of economic geography, covering topics such as home market effects, spatial wage structure, and trade costs.

We will also discuss not only analytical methods but also actual cases of analysis, and practice using statistical software and GIS to enable students to conduct their own research.

Emphasis will be placed on presentations by the students and active discussions in the class. The textbook used and the content of the class may be changed depending on the level of understanding and interest of the students.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: Empirical Methods
2. Inequality and Economic Concentration Measures
3. Spatial Concentration and Productivity
4. The Empirics of Agglomeration (1)
5. The Empirics of Agglomeration (2)
6. The Empirics of Agglomeration (3)
7. Exercises in The Empirics of Agglomeration
8. Empirics of Economic Geography (1)
9. Empirics of Economic Geography (2)
10. Empirics of Economic Geography (3)
11. Empirics of Economic Geography (4)
12. Exercises in Empirics of Economic Geography
13. Policy Implications (1)
14. Policy Implications (2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・予習として毎回テキストを精読し、授業内での議論に備えること。
- ・復習として授業内で課す練習問題を解き、説明できるようにすること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内での報告や議論への貢献(70%)/最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト(Textbooks)

1. Steven Brakman, Harry Garretsen and Charles van Marrewijk. 2019. *An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World* 3rd. edition. Cambridge University Press (ISBN:9781108407366)

英文のテキストを利用するが、適宜和文の資料を紹介して受講者の理解に資する。

参考文献(Readings)

1. 鹿野繁樹、2015、『新しい計量経済学 データで因果関係に迫る』、日本評論社 (ISBN:9784535557710)

2. 加藤久和、2019、『やさしい計量経済学: プログラミングなしで身につける実証分析』、オーム社 (ISBN:9784274224539)

3. 河端瑞貴、2022、『事例で学ぶ経済・政策分析のための GIS 入門: QGIS,R,GeoDa 対応』、古今書院 (ISBN:9784772242301)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

履修の前提として、学部レベルのミクロ経済学・計量経済学を習得していることが望ましい。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA329／アメリカ経済特論1 (Special Study on American Economy1)		
担当者名 (Instructor)	山縣 宏之(YAMAGATA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5520	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA345 アメリカ経済特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

アメリカ経済に関連する内外の研究論文を講読する。あわせて参加者の研究テーマ設定の一助となるよう研究指導を行う。

Students will read US economy research papers from Japan and overseas. At the same time, professor will guide students in their researches so students can establish their research subjects.

授業の内容(Course Contents)

アメリカ経済に関連する論文や文献を講読する。2023 年度は河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康編著(2021)『現代アメリカ政治経済入門』ミネルヴァ書房などを検討対象として想定している。

希望があれば受講者の研究報告を行う。研究テーマの設定に際して重要となるのは当該分野のすぐれた研究者を特定し、その著作や論文を熟読理解し未だ説明されていない論点を見出すことである。受講者には早期にこの課題に取り組むことを推奨している。

Students will read US economy research papers and literatures. In 2021, students will study "Introduction to Contemporary US Political Economy" by Nobuki Kawasaki, Takuro Kawane and Takeyasu Fujiki, Minerva Shobo.

If students desire, they may present their research reports. When selecting research subjects, it is important to specify outstanding researchers in these areas, read their works and papers, and find out unclear arguments. Students are recommended to work on this early.

授業計画(Course Schedule)

1. 開講ガイダンス
2. テキスト検討(1)
3. テキスト検討(2)
4. テキスト検討(3)
5. 受講者の研究報告およびディスカッション(1)
6. テキスト検討(4)
7. テキスト検討(5)
8. テキスト検討(6)
9. 受講者の研究報告およびディスカッション(2)
10. 大学院生に必要なアカデミックスキル(学術論文読解法および先行研究評価法)教授
(英語論文読解を含む)(1)
11. 大学院生に必要なアカデミックスキル(学術論文読解法および先行研究評価法)教授
(英語論文読解を含む)(2)
12. 大学院生に必要なアカデミックスキル(学術論文読解法および先行研究評価法)教授
(英語論文読解を含む)(3)
13. 受講者の研究報告およびディスカッション(3)
14. 総括 受講者の研究成果報告およびディスカッション, 今後の研究計画作成のアドバイス

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。大学院生は自立した研究者を目指し、指定文献や自らの研究報告に関する十分な予習を行うこと。講義内容やテキスト読解に関する復習も継続することが望まれる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告, ディスカッション, その他研究に関わる成果(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 藤木剛康編、2012、『アメリカ政治経済論』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623062102)
 2. 河音琢郎・藤木剛康編、2016、『オバマ政権の経済政策』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623077939)
 3. 河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康(編著)、2021、『現代アメリカ政治経済入門』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623092673)
- 「授業の内容」に記載した文献を含め受講生と相談して決定する。

参考文献 (Readings)
講義中に適宜指示する。
その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))
注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA330／アメリカ経済特論2 (Special Study on American Economy2)		
担当者名 (Instructor)	山縣 宏之(YAMAGATA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5520	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA346 アメリカ経済特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

最新の政策資料や政策論争に関する研究文献の読み込みを進め、アメリカ経済政策の最新の展開を理解する。あわせて参加者に研究指導を行う。

Students will read the latest research literatures on policy documents and debates to understand latest trend of US economic policy. At the same time, professor will guide students in their researches.

授業の内容(Course Contents)

アメリカ経済特論1に続き、「現代アメリカ政治・経済の新展開」を検討テーマとする。この講義ではアメリカ経済政策の基本線を巡る最新の政策論争を検討する。参加者の希望があれば、種々の文献の輪読を行うことも可能である。多様なジャンルに対応している。

希望があれば受講者の研究報告を行う。研究テーマの設定に際して重要となるのは当該分野のすぐれた研究者を特定し、その著作や論文を熟読理解し未だ説明されていない論点を見出すことである。受講者には早期にこの課題に取り組むことを願いたい。

Following Special Study on American Economy 1, students will discuss new modern US political and economic trend. In this class, students will discuss the latest policy issue over baseline of US economic policy. If students desire, they may read various literatures. Professor will accommodate various genres.

If students desire, they may present their research reports. When selecting research subjects, it is important to specify outstanding researchers in these areas, read their works and papers, and find out unclear arguments. Students should work on this assignment early.

授業計画(Course Schedule)

1. 開講ガイダンス
2. テキスト検討(1)
3. テキスト検討(2)
4. テキスト検討(3)
5. テキスト検討(4)
6. 受講者の研究報告およびディスカッション(1)
7. 政策資料・政策論争に関する論文・資料読解(1)
8. 政策資料・政策論争に関する論文・資料読解(2)
9. 政策資料・政策論争に関する論文・資料読解(3)
10. 政策資料・政策論争に関する論文・資料読解(4)
11. 受講者の研究報告およびディスカッション(2)
12. 政策資料・政策論争に関する論文・資料読解(5)
13. 政策資料・政策論争に関する論文・資料読解(6)
14. 総括 受講者の研究成果のまとめとディスカッション 修士論文執筆に向けた研究アドバイス等

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。大学院生は自立した研究者を目指し、指定文献や自らの研究報告に関する十分な予習を行うこと。講義内容やテキスト読解に関する復習も継続することが望まれる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容、ディスカッション内容、その他研究に関わる成果(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 河音琢郎・藤木剛康(編著)、2008、『G・W・ブッシュ政権の経済政策』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623052295)
 2. 河音琢郎・藤木剛康(編著)、2016、『オバマ政権の経済政策』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623077939)
 3. 河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康(編著)、2021、『現代アメリカ政治経済入門』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623092673)
- 受講生と相談して決定する。

参考文献 (Readings)

講義中に適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA331／国際経済特論1 (Special Lecture on International Economics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代国際経済の成立と展開		
担当者名 (Instructor)	宮崎 礼二(MIYAZAKI REIJI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5420	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

戦後国際経済秩序の形成・展開を政治経済学的に把握する。

Students will understand formation and development of post-war international economic order from political economics perspective.

授業の内容(Course Contents)

本講義は今日の国際経済を理解するために、第二次世界大戦前後から今日に至る世界経済の展開と変遷を、国際的な経済関係からグローバルな経済への移行とその構造変化に焦点を当てながら、政治経済学的に考察をおこなう。さらに、この変遷過程に、現実経済と経済思想との関係性を見出し、政策面からも国際経済を捉える。講義では、個々の具体的な政治経済事象や政策展開を時系列的に取り上げ、それらの政治経済的な意味とそれらが現実の世界経済にどのような影響をもたらしたか、またどのような意義をもったのかを論じたい。したがって、本講義は理論を中心とする「学」ではなく、事実を踏まえて解釈する「論」に重きをおく。つまり、定量的ではなく定性的分析が主たるアプローチである。

講義では、個々の具体的な国際経済事象や政策展開を時系列的に取り上げながら、それらの相互連関性、政治経済学的な意義、そしてそれらが現実の世界経済にどのような意味をもっていたのか、またどのような影響をもたらしたのかを考察する。日々流れる膨大な個別情報を統合して、今日の国際経済の状況を把握できるようにすることを目標とする。

In this class, students will understand current international economy. To do that, students will study global economic development and transitions around WWII until today from political economics perspective, focusing on transition from international relationship to global economy, and its structural change. Furthermore, students will explore relation between actual economy and economic thinking during this transition. Students will also study international economy from policy perspective. In this class, specific political economic phenomena and policy development will be addressed sequentially and their political economic meanings, their impacts on actual economy worldwide, and their significances will be discussed. Therefore, this class tilts towards theories interpret based on the fact, instead of knowledge that focus on theories. In other words, students will focus on qualitative instead of quantitative analysis.

In this class, specific international economic phenomena and policy development will be picked up sequentially to discuss about their mutual relationships, political economic meanings, their impacts and significances in actual economy worldwide. Students will be able to grasp current global economic states by integrating individual information available in large volume daily.

授業計画(Course Schedule)

- ガイダンス
- イントロダクション: 現代国際経済をどのように把握するのか?
- 戦後自由貿易体制の形成と背景: なぜアメリカは自由貿易を希求したのか?
- 戦後構想と現実の乖離: 復興援助政策の意味1
- 戦後構想と現実の乖離: 復興援助政策の意味2
- Pax Americana への統合: 政治経済資源としての石油1
- Pax Americana への統合: 政治経済資源としての石油2
- 国民国家を超越する資本: 多国籍資本の台頭
- 国民国家を超越する資本: 国民国家と金からの「呪縛」からの解放
- 石油を巡る政治経済1
- 石油を巡る政治経済2
- アメリカの金融政策の波及効果と累積債務危機
- ブラザ合意とルーブル合意
協調為替介入の時代: ブラザ合意とルーブル合意
ブラザ合意とルーブル合意
- 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参考文献と講義ノートによる毎講義ごとの復習。
対話形式の講義の準備。
オンデマンド動画による反転学習。

成績評価方法・基準 (Evaluation)
毎回のレポート(50%)/毎回の発表(50%)
テキスト (Textbooks)
なし
参考文献 (Readings)
その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))
注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA332／国際経済特論2 (Special Lecture on International Economics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバリゼーションの全面開花と動揺		
担当者名 (Instructor)	宮崎 礼二(MIYAZAKI REIJI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5420	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

グローバリゼーションを政治経済学的に把握する。

Students will understand globalization through political economics perspective.

授業の内容 (Course Contents)

21 世紀に入ってから、BRICS に象徴される新興国の台頭は、19 世紀・20 世紀の帝国主義列強諸国・先進工業国中心の世界経済地図を大きく書き換えつつある。とりわけ、中国の台頭は覇権国アメリカとの対抗関係を強めてもいる。また、イギリスの EU 離脱やアメリカでのトランプ政権成立に象徴されるように、先進国の多くで「グローバル化恐怖症」(globaphobia) がそれまでのグローバリズムの興隆を凌駕しようとしている。不確定かつ不確実性の高まる時代を予兆させる。

本講義は今日の国際経済を理解するために、第二次世界大戦前後から今日に至る世界経済の展開と変遷を、国際的な経済関係からグローバルな経済への移行とその構造変化に焦点を当てながら、政治経済学的に考察をおこなう。さらに、この変遷過程に、現実経済と経済思想との関係性を見出し、政策面からも国際経済を捉える。講義では、個々の具体的な政治経済事象や政策展開を時系列的に取り上げ、それらの政治経済的な意味とそれらが現実の世界経済にどのような影響をもたらしたか、またどのような意義をもったのかを論じたい。したがって、本講義は理論を中心とする「学」ではなく、事実を踏まえて解釈する「論」に重きをおく。つまり、定量的ではなく定性的分析が主たるアプローチである。

講義では、個々の具体的な国際経済事象や政策展開を時系列的に取り上げながら、それらの相互連関性、政治経済学的な意義、そしてそれらが現実の世界経済にどのような意味をもっていたのか、またどのような影響をもたらしたのかを考察する。日々流れる膨大な個別情報を統合して、今日の国際経済の状況を把握できるようにすることを目標とする。

After entering 21st century, emerging countries, particularly BRICS, have changed drastically global economic map, which had been dominated by 19th and 20th century imperialism countries and developed industrial countries. Particularly, the rise of China has challenged reigning country US more and more. In many developed nations, globaphobia is trying to outdo emerging globalism, evidenced by Brexit and Trump administration in US. This seems to be a sign of arriving era with higher uncertainty and instability.

In this class, students will examine development and transition of world economy from around WWII until today while focusing on the transition from international economic relationship to global economy and changes in its structure to understand current international economy. Students will also try to understand the international economy from political policy perspective by finding out the relationship between actual economic and the conceptual economic within the transition process. Furthermore, the class will look into specific political economic phenomena and policy development sequentially to discuss their political economic meanings, their impacts and significances in actual economy worldwide. Therefore, this class tilts towards “theories” that is to be used for interpretation based on the fact, instead of “knowledge” that focus on theories. In other words, the approaches focus on qualitative instead of quantitative analysis.

In this class, specific international economic phenomena and policy development will be picked up sequentially, while considering their mutual relationships and political economic meanings as well as their impacts and significances in actual economy worldwide. Students will be able to grasp current global economic states by integrating individual information available in large volume daily.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. イントロダクション: グローバリゼーション、グローバリズム
3. ポスト冷戦時代の幕開け: Pax Americana の再生とグローバリズムの始動1
4. ポスト冷戦時代の幕開け: Pax Americana の再生とグローバリズムの始動2
5. バブル連鎖: サブプライムローンと世界同時不況1
6. バブル連鎖: サブプライムローンと世界同時不況2
7. グローバリゼーションと国民主権1
8. グローバリゼーションと国民主権2

9. 国際経済秩序を巡る米中対抗1
10. 国際経済秩序を巡る米中対抗2
11. 国際経済秩序を巡る米中対抗3
12. 輪読
13. 輪読
14. 輪読

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

参考文献と講義ノートでの毎講義の復習。
オンデマンド動画による反転学習。
輪読の課題。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

毎回のレポート(50%)/毎回の発表(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA333／国際企業法務特論1 (Special Lecture on International Justice and Corporate Governance 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	コーポレート・ガバナンスを中心に、ビジネスエシックス(企業倫理)、コンプライアンス、CSR(企業の社会的責任)、ESG(環境・社会・ガバナンス)、SDGs(持続可能な開発目標)を理解する		
担当者名 (Instructor)	白坂 亨(SHIRASAKA TORU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

近年、会社経営においてその重要性を増している(1)コーポレート・ガバナンス(2)企業倫理(ビジネス・エシックス)・コンプライアンス(3)CSR(企業の社会的責任)、ESG(環境・社会・ガバナンス)とSDGs(持続可能な開発目標)などをとりあげ、国際企業法務の視点から、考察・解明する(本講義では(1)が中心となる。(2)および(3)は国際企業法務特論2にて講義する)。

Students will study increasingly important issues in corporate management in recent years: (1) corporate governance, (2) business ethics, compliance, (3) corporate social responsibility (CSR), environment, society, and governance (ESG), and sustainable development goals (SDGs). Students will analyze and clarify these subjects from international corporate legal perspective. (This class will focus on (1). (2) and (3) will be lectured in Special Lecture on International Justice and Corporate Governance 2.)

授業の内容 (Course Contents)

授業は受講生の関心のニーズを確認したうえで、配布するスライド、資料、論文とともに、視聴覚教材等を活用し、適宜質疑応答や小レポートの発表、質疑応答を組み入れながら受講生参画型で行う。まずはコーポレート・ガバナンスについて、その議論と進展、国際的な環境変化、経営システムの制度改革、内部統制システムの構築義務、多発しているグローバル企業の不祥事例などを取り上げる。次に、企業倫理、企業の社会的責任(CSR)のあり方を理解し、さらにはESG(環境・社会・ガバナンス)の重要性とSDGs(持続可能な開発目標)のあり方を理解する。近年、企業を見る社会の眼が一段と厳しくなる中、企業として従来の財務業績向上に加えて、誠実な企業行動をとり、社会的責任を果たすことがビジネス成功の鍵であることを理論と事例研究で考察する。

In this class, professor will consider students' interests and use distributed PowerPoint slides, documents, papers, and audio-visual materials. Students will participate actively in class through Q&A and mini report presentation. First, students will study corporate governance, including its discussion, development, international environmental change, management system revolution, obligation when constructing internal control system, and frequent unfavorable cases among global corporations. Next, students will understand corporate ethics and social responsibilities (CSR). They will understand importance of environment, society, and governance (ESG) and current state of sustainable development goals (SDGs). In recent years, society are judging corporations with harsher eyes. In addition to existing financial performance improvement, corporations must be honest in their actions and fulfill their social responsibilities. These are the key to business success. Students will analyze these through theories and case researches.

授業計画 (Course Schedule)

- ガイダンス/会社の仕組み、株式会社とは何か、講義の進め方、小レポート、質疑応答などについて。
- 1-1 コーポレートガバナンスの概要
- 1-2 コーポレート・ガバナンスと社外取締役①在任期間／受講生の小レポート報告・質疑応答
- 1-3 コーポレート・ガバナンスと社外取締役②報酬と兼任／受講生の小レポート報告・質疑応答
- 1-4 コーポレート・ガバナンスと社外取締役③取締役会への出席／受講生の小レポート報告・質疑応答
- 1-5 コーポレート・ガバナンスと相談役・顧問①その意義と実態／受講生の小レポート報告・質疑応答
- 1-6 コーポレート・ガバナンスと相談役・顧問②問題点／受講生の小レポート報告・質疑応答
- 1-7 コーポレート・ガバナンスと取締役①報酬／受講生の小レポート報告・質疑応答
- 1-8 コーポレート・ガバナンスと取締役②国際比較／受講生の小レポート報告・質疑応答
- 1-9 コーポレート・ガバナンスと中期経営計画／受講生の小レポート報告・質疑応答
- 1-10 コーポレート・ガバナンスと自己株式取得／受講生の小レポート報告・質疑応答
- 1-11 コーポレート・ガバナンスと政策保有株式／受講生の小レポート報告・質疑応答
- 1-12 コーポレート・ガバナンスとは何か-総括へ向けて-/受講生の小レポート報告・質疑応答
- 1-13 受講生のレポート報告・総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

必要に応じて、授業内で都度指示する(予習の必要はない)。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/最終レポートの発表(20%)/授業内で指示した課題(小レポート)の提出状況(30%)/出席の状況・参画意欲等(20%)

最終レポート、最終レポートの発表および主要課題へのレポート提出のほか、リアクションペーパー、意見交換、ディスカッションなどを総合的に勘案して評価する。

テキスト(Textbooks)

レジュメおよび資料を配布する。

参考文献 (Readings)

講義の中で、課題に合わせて適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

無し。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA334／国際企業法務特論2 (Special Lecture on International Justice and Corporate Governance 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ESG(環境・社会・ガバナンス)及びSDGs(持続可能な開発目標)を理解する		
担当者名 (Instructor)	白坂 亨(SHIRASAKA TORU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

近年、会社経営においてその重要性を増している(1)コーポレート・ガバナンス(2)企業倫理(ビジネス・エシックス)・コンプライアンス(3)CSR(企業の社会的責任)、ESG(環境・社会・ガバナンス)とSDGs(持続可能な開発目標)などをとりあげ、国際企業法務の視点から、考察・解明する(本講義では(2)および(3)を講義する)。

This class will cover increasing important issues in corporate management in recent years: (1) corporate governance, (2) business ethics and compliance, (3) corporate social responsibility (CSR), environment, society, and governance (ESG), and sustainable development goals (SDGs). Students will analyze and clarify these subjects from international corporate law perspective. (This class will focus on (2) and (3)).

授業の内容(Course Contents)

授業は受講生の関心のニーズを確認したうえで、配布するスライド、資料、論文とともに、視聴覚教材等を活用し、適宜質疑応答や小レポートの発表を組み入れながら受講生参加型で行う。まずはコーポレート・ガバナンスについて、その議論と進展、国際的な環境変化、経営システムの制度改革、内部統制システムの構築義務、多発しているグローバル企業の不祥事例などを取り上げる。次に、企業倫理、企業の社会的責任(CSR)のあり方を理解し、さらにはESG(環境・社会・ガバナンス)の重要性とSDGs(持続可能な開発目標)のあり方を理解する。近年、企業を見る社会の眼が一段と厳しくなる中、企業として従来の財務業績向上に加えて、誠実な企業行動をとり、社会的責任を果たすことがビジネス成功の鍵であることを理論と事例研究で考察する。

In this class, professor will consider students' interests and use distributed PowerPoint slides, documents, papers, and audio-visual materials. Students will participate actively in class through Q&A and mini report presentation. First, students will study corporate governance, including its discussion, development, international environmental change, management system revolution, obligation when constructing internal control system, and frequent unfavorable cases among global corporations. Next, students will understand corporate ethics and social responsibilities (CSR). They will understand importance of environment, society, and governance (ESG) and current state of sustainable development goals (SDGs). In recent years, society are judging corporations with harsher eyes. In addition to existing financial performance improvement, corporations must be honest in their actions and fulfill their social responsibilities. These are the key to business success. Students will analyze these through theories and case researches.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス/講義の概要、講義の進め方、小レポート、質疑応答などについて
2. 2-1 ESGの概要
3. 2-2 ESGと国連/受講生の小レポート報告・質疑応答
4. 2-3 ESGと投資家/受講生の小レポート報告・質疑応答
5. 2-4 ESGと企業(1)日立・エーザイ①環境/受講生の小レポート報告・質疑応答
6. 2-5 ESGと企業(2)日立・エーザイ②社会/受講生の小レポート報告・質疑応答
7. 2-6 ESGと企業(3)日立・エーザイ③ガバナンス/受講生の小レポート報告・質疑応答
8. 3-1 SDGsの概要/受講生の小レポート報告・質疑応答
9. 3-2 SDGsと国連/受講生の小レポート報告・質疑応答
10. 3-3 SDGsと企業(1)ソニーの対応/受講生の小レポート報告・質疑応答
11. 3-4 SDGsと企業(2)丸井の対応/受講生の小レポート報告・質疑応答
12. 3-5 SDGsと企業(3)イギリス企業のSDGsへの対応/受講生の小レポート報告・質疑応答
13. 3-6 SDGsと企業(4)アメリカ企業のSDGsへの対応/受講生の小レポート報告・質疑応答
14. 受講生のレポート報告・総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて、授業内で都度指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/小レポートの発表(20%)/授業内で指示した課題(小レポート)の提出状況(30%)/出席の状況・参画意欲等(20%)

テキスト(Textbooks)

レジュメおよび資料を配布する。

参考文献(Readings)

講義の中で、課題に合わせて適宜紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

無し。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA339／企業環境C特論1 (Special Lecture on Economics and Environment C-1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	事業戦略概論と定性分析の技法		
担当者名 (Instructor)	玉木 昭宏(TAMAKI AKIHIRO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

学生が企業における事業戦略の目的や意味合いを理解し、その前提となる事業環境の洞察に必要な分析フレームワークの理解と活用を通じて、経営目線から企業の抱える課題を的確に抽出するスキル習得を目標とする。

Students will understand purpose and implication of business strategies in corporations. They will also understand and use analysis frameworks, which are prerequisites for business-environment analysis. By doing this, students will acquire skill to accurately extract corporate issues from management perspective.

授業の内容(Course Contents)

冒頭の講義で、企業における事業戦略策定の枠組みを理解する。その後は分析の基礎となる思考力についての理解を踏まえ、SWOT や 3C, 5Forces など定性面からの経営分析ツールを活用事例とともに学ぶ。仕上げとして、上場企業を題材としたケーススタディに取り組むことで、それらツールの実践的な活用イメージを習得する。

In early lectures, students will understand frameworks used to determine business strategies in corporations. After that, with the understandings of analysis basics, students will learn about qualitative management analysis tool such as SWOT, 3C and 5Forces while studying about application examples. To finish, students will work on case studies using listed companies as materials to acquire the image for practical application.

授業計画(Course Schedule)

1. 戦略構築のアプローチと留意点について
2. 思考のベースロジック：論理的思考(概論)
3. 思考のベースロジック 論理的思考と仮説構築の技法
4. 思考のベースロジック 論理的思考と仮説構築の技法
5. 定性面からの経営分析の枠組みと技法(1)
6. 定性面からの経営分析の枠組みと技法(1)
7. 定性面からの経営分析の枠組みと技法(2)
8. 定性面からの経営分析の枠組みと技法(2)
9. ソリューション思考とビジネスモデル
10. ソリューション思考とビジネスモデル
11. 定性分析ケーススタディ
12. 定性分析ケーススタディ
13. ストーリー構築の技法
14. 戦略立案のプロセスにおける財務の活用場面

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

論理思考や戦略の基礎知識について、自身で選んだ書籍等で確認しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)／授業への出席およびクラス貢献度(発言、質問、事前準備、グループワーク参加など)(70%)

テキスト(Textbooks)

講義の都度、資料を配布する。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

各回のテキスト等は授業実施 5 日程度前に立教時間にアップロードされるので、各自でダウンロードして授業当日に持参する

(PC やタブレット、紙など形式は自由)。
授業では学生からの積極的な発言や質問などを期待する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA340／企業環境C特論2 (Special Lecture on Economics and Environment C-2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	財務分析の技法と課題抽出アプローチ		
担当者名 (Instructor)	玉木 昭宏(TAMAKI AKIHIRO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

学生が企業の経営課題を財務面からも見極めることができるよう、財務分析に必要な知識を企業活動や事業戦略と関連付けて理解し、それを分析に実践できるスキル習得を目標とする。

Students will acquire essential knowledge in financial analyses in relationships with corporate activities and business strategies to understand thoroughly corporate management subjects also from financial perspective. Students will aim to acquire skills applicable in these analyses.

授業の内容 (Course Contents)

財務数字を入口に、企業経営の状況を分析・評価する技法を学ぶ。損益計算書、貸借対照表各々の体系と主要項目について、経営や事業活動の側から見た意味合いを理解するとともに、上場企業を題材とした財務分析ケースに取り組むことで、財務指標の読み解き方や企業活動との関連を肌感覚として養う。

Students will learn techniques to analyze and evaluate corporate managements by approaching them through financial numbers. Students will understand implications of systems and major subjects such as profit-and-loss statements and balance sheets from perspective of managements and business activities. At the same time, students will work on the case study about listed companies for financial analyses. They will learn hands-on how to read financial indicators and their relationships with corporate activities.

授業計画 (Course Schedule)

1. 損益計算書の体系と分析・評価の視点(1)
2. 損益計算書の体系と分析・評価の視点(1)
3. 損益計算書の体系と分析・評価の視点(2)
4. 損益計算書の体系と分析・評価の視点(2)
5. 貸借対照表(バランスシート)の体系と分析・評価の視点
6. 貸借対照表(バランスシート)の体系と分析・評価の視点
7. キャッシュフローのロジック
8. ビジネスモデルと財務構造
9. 企業価値、株主価値創造の枠組み
10. 企業価値、株主価値創造の枠組み
11. 財務分析ケーススタディ
12. 財務分析ケーススタディ
13. 振り返りとまとめ
14. 振り返りとまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

会計分野の基礎知識について、自身で選んだ書籍等で確認しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/授業への出席およびクラス貢献度(発言、質問、事前準備、グループワーク参加など)(70%)

テキスト (Textbooks)

講義の都度、資料を配布する。

参考文献 (Readings)

1. 玉木昭宏、2022/9/8、『計数感覚スキル入門』、中央経済グループパブリッシング (ISBN:4502443018)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

各回のテキスト等は授業実施 5 日程度前に立教時間にアップロードされるので、各自でダウンロードして授業当日に持参する（PC やタブレット、紙など形式は自由）。

授業では学生からの積極的な発言や質問などを期待する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA343／現代企業特論1 (Special Lecture on the Contemporary Firm 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	イノベーションと経済的価値		
担当者名 (Instructor)	坂本 義和(SAKAMOTO YOSHIKAZU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA347 現代企業特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

本講義の目標は、現代社会、特に市場経済の観点において重要な概念となっているイノベーションについて理解することにあります。特にイノベーションとは何かを理解する目的から、イノベーションの概念に論者によって違いはあるのか、イノベーションが経済状況や経済体制に対してどのような影響を与えるのか、イノベーションはどのように実現されるのか、といった問題を検討することにあります。

This lecture aims to understand the concept of 'Innovation'. We will primarily focus on such points as whether there are any differences in definitions among scholars, how innovations affect the situation or regime of the economy, and how players succeed in innovations.

授業の内容 (Course Contents)

様々なトピックを通じてイノベーションの概観を理解する目的から、指定のテキスト『イノベーション』の各章を読解することから始めます。読解した内容をベースに関連する諸問題について議論を行います。ただし参加者の関心に応じて取り上げるトピックを柔軟に変更したいと思います。

This lecture asks participants to read the text to understand various topics of the concept of 'Innovation'. And we will discuss related problems on every topic. However, we will change the issue flexibly depending on the interests of the participants.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. イノベーションとは何か
3. イノベーションの測定
4. イノベーションのパターン
5. イノベーションを持続的に生み出す要因
6. 国によるイノベーションの違い
7. 産業によるイノベーションの違い
8. 企業によるイノベーションの違い
9. イノベーションと企業: 企業特性
10. イノベーションと企業: 企業の戦略
11. イノベーションと企業: 企業間関係
12. イノベーションと政策
13. イノベーションと社会
14. まとめ

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

予習、復習等の指示は毎回の講義内において行います。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業貢献度(60%) / 報告(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 清水洋、2022、『イノベーション』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-16602-8)

参考文献 (Readings)

1. J. A. シュムペーター、1977、『経済発展の理論 上・下』、岩波書店 (978-4003414712・978-4003414729)
2. ブノワ ゴダン、2021、『イノベーション概念の現代史』、名古屋大学出版会 (ISBN:978-4815810467)
3. フィリップ アギヨン・セリーヌ アントニン・サイモン ブネル、2022、『創造的破壊の力』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492396711)

4. ウィリアム J. ボーモル、2010、『自由市場とイノベーション』、勁草書房（ISBN:978-4326503421）
5. 岡田羊祐、2019、『イノベーションと技術変化の経済学』、日本評論社（ISBN:978-4535559141）
6. 鈴木潤・安田聡子・後藤晃（編）、2021、『変貌する日本のイノベーション・システム』、有斐閣（ISBN:978-4641165786）
7. 一橋大学イノベーション研究センター（編）、2001、『イノベーション・マネジメント入門』、日本経済新聞出版社（ISBN:978-4532134747）

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

オンラインにて講義を行う回を設定する予定です。初回の講義の際にスケジュールを提示します。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA344／現代企業特論2 (Special Lecture on the Contemporary Firm 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	イノベーションとアントレプレナーシップ		
担当者名 (Instructor)	坂本 義和(SAKAMOTO YOSHIKAZU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA348 現代企業特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

本講義の目標は、現代社会、特に市場経済の観点において重要な概念となっているイノベーションについて理解することにあります。特にイノベーションの担い手とされるアントレプレナー（企業家）とそのあり方としてのアントレプレナーシップ（企業家精神）について理解することにあります。

This lecture aims to understand the concept of 'Innovation'. We will primarily focus on 'Entrepreneur' and 'Entrepreneurship', which are thought of as the leader of 'Innovation'.

授業の内容 (Course Contents)

様々なトピックを通じてイノベーションの概観を理解する目的から、指定のテキスト『アントレプレナーシップ』の各章を読解することから始めます。読解した内容をベースに関連する諸問題について議論を行います。ただし参加者の関心に応じて取り上げるトピックを柔軟に変更したいと思います。

This lecture asks participants to read the text to understand various topics of the concept of 'Innovation'. And we will discuss related problems on every topic. However, we will change the issue flexibly depending on the interests of the participants.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. アントレプレナーシップとは何か
3. 新しいビジネスの機会
4. アントレプレナーシップの測定
5. 起業の方法
6. 資金調達の方法
7. 生存率を上げる方法
8. 撤退の決定
9. 組織とアントレプレナーシップ
10. アントレプレナーの特性
11. アントレプレナーと社会的ネットワーク
12. アントレプレナーシップと政策
13. アントレプレナーシップと社会
14. まとめ

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

予習、復習等の指示は毎回の講義内において行います。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業貢献度(60%)/発言(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 清水洋、2022、『アントレプレナーシップ』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-16598-4)

参考文献 (Readings)

1. J. A. シュンペーター、1998、『企業家とは何か』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492370896)
2. J. A. シュンペーター、1995、『新装版 資本主義・社会主義・民主主義』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492370797)
3. R. F. ヘバート・A. N. リンク、1984、『企業者論の系譜』、ホルト・サウンダース・ジャパン (ISBN:978-4833750158)
4. 池本正純、2005、『企業家とはなにか』、八千代出版 (ISBN:978-4842913414)
5. 關智一、2017、『イノベーションと内部非効率性』、白桃書房 (ISBN:978-4561267027)
6. 加藤雅俊、2022、『スタートアップの経済学』、有斐閣 (ISBN:978-4641166011)

7. トム ニコラス、2022、『ベンチャーキャピタル全史』、新潮社 (ISBN:978-4105072919)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

オンラインにて講義を行う回を設定する予定です。初回の講義の際にスケジュールを提示します。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA401／会計学特論1 (Special Lecture on Accounting 1)		
担当者名 (Instructor)	米山 正樹(YONEYAMA MASAKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA349 会計学特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

この講義では、企業会計が経済社会で果たしている役割の理解を目指したうえで、利益計算の基本的なしくみ（財務諸表の基本的な作成ルール）の修得に努める。会計基準を単なる知識として学ぶのではなく、諸基準を背後で支えている基本的な前提や原則の解説に重点を置く。

Basic concepts and postulates underlying the system of accounting standards will be provided during the course. The course focuses on the theoretical backgrounds as well as major characteristics of accounting standards.

授業の内容 (Course Contents)

会計学特論1（会計学特殊講義1）では、現行会計の全体像を概観する。会計基準の詳細な規定は会計学特論2（会計学特殊講義2）で扱う。

The course focuses on the overview of current accounting system. Detailed information on each accounting standards will be given in the following course in Fall (Autumn) semester.

授業計画 (Course Schedule)

1. 財務諸表の概要
2. 財務報告制度の概要
3. 財務報告の目的
4. 会計測定の基本構造（貸借対照表と損益計算書との連繋）
5. 収益の認識と測定（事業投資と金融投資）
6. 収益の認識と測定（事業投資と金融投資）
7. 費用の認識と測定：在庫品（棚卸資産）に求められる会計処理
8. 費用の認識と測定：有形固定資産に求められる会計処理
9. 配分と評価：簿価の切り下げ（評価損失の計上）
10. 退職給付・税効果・外貨換算等の基礎
11. 退職給付・税効果・外貨換算等の基礎
12. 企業結合会計の基礎
13. 連結会計の基礎
14. 講義の総括

授業時間外（予習・復習等）の学習 (Study Required Outside of Class)

入手した参考文献を講義の前後に読み解くように求める。『企業会計入門』については、週末の演習問題に積極的に取り組むことを薦める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

講義に対する参加態度等を適宜加点材料として反映することはありうる。

テキスト (Textbooks)

講義資料を配布する。講義は下記の参考文献に沿って進めるので、いずれか参加者自身にとって最適のものを選び、通読することを薦める。

参考文献 (Readings)

1. 斎藤 静樹、『企業会計とディスクロージャー』、東京大学出版会
2. 斎藤 静樹、『企業会計入門』、有斐閣

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA402／会計学特論2 (Special Lecture on Accounting 2)		
担当者名 (Instructor)	米山 正樹(YONEYAMA MASAKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA350 会計学特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

会計基準の体系を支える基礎概念を修得することに努める。

This course focuses on the understanding the basic concepts, principles and postulates underlying financial accounting standards.

授業の内容 (Course Contents)

現行会計基準の概要を理解するとともに、それを支えている基礎概念や基本前提の理解も目指す。前期開講科目と異なり、この科目では主要な会計基準の要点を解説することに努める。もちろん、それはいわゆる築城解説を意味するのではない。企業会計の体系を支えている基礎概念と関連付けて、個別基準が求めている会計処理に合理的な解釈を与えることに努める。

The main purpose of this course is to understand the basic concepts and principles underlying financial accounting standards. In comparison with the lecture in the Spring semester, this course is more focused on the major characteristics of each accounting standards.

授業計画 (Course Schedule)

1. 春学期科目(会計学特論1および会計学特殊講義1)に係る要点の復習
2. 金融商品会計(1)
3. 金融商品会計(2)
4. リース会計
5. 資産除去債務の会計
6. 退職給付会計
7. 税効果会計
8. 外貨換算会計
9. 収益認識会計
10. 合併・買収の会計
11. 事業分離の会計
12. 連結会計
13. その他の論点に関するアドホックな補足
14. 講義の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義の前後に、下記指定参考文献に目を通しておくことを薦める。「企業会計入門」「アドバンス財務会計」については、講義で扱った箇所に関わる章末問題に取り組むことを特に強く薦める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

講義に対する参加態度等を適宜加点材料として反映することはありうる。

テキスト (Textbooks)

講義資料を配布する。特定テキストの講読を一律に求めることは避けるが、下記参考文献から1つを選び、それを講義の前後に読み解くことを薦める。

参考文献 (Readings)

1. 斎藤 静樹、『企業会計とディスクロージャー』、東京大学出版会
2. 斎藤 静樹、『企業会計入門』、有斐閣
3. 大日方 隆、『アドバンス財務会計』、中央経済社

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA403／経営分析特論1 (Special Lecture on Business Analysis 1)		
担当者名 (Instructor)	田村 八十一(TAMURA YASOKAZU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代の企業、すなわち個別資本は、その規模が巨大化すればするほど、我々の生活に様々な影響を与えている。このような巨大企業の実態は、どのように把握すれば良いのだろうか。経営分析特論1では、このような企業の動向と特質を社会経済的な視点から分析する方法を研究する。

Modern corporations, i.e. individual capitals, bring greater impacts on our lives as they grow. How can we approach and understand current states of these mega corporations? In Special Lecture on Business Analysis 1, students will research methods to analyze these corporate trends and characteristics from social economics perspective.

授業の内容(Course Contents)

個別資本は、単体企業だけでなく、連結企業集団として活動している。経営分析特論1では、様々なステークホルダーの立場だけでなく、国民の視点ないし社会経済的な視点から、このような個別資本の基礎的な経営分析の方法を検討するとともに、「有価証券報告書」などの様々なデータを用いて、実際の企業のケースについても研究する。

特に経営分析を考える視点として、現代資本主義や現代産業などの特質などを踏まえて、経営分析の方法とフレームワークを検討する。

また、会計政策やアーニングスマネジメントとのかかわりで会計情報の特質を検討するとともに、巨大企業がいかんして成長してきたのか、収益性と企業の本質とは何か、企業の支払能力や財務構造の安定性などについてディスカッションしながら研究していく。

Individual capitals are active not only in individual corporations but also in consolidated business groups. In Special Lecture on Business Analysis 1, students will look into basic management analysis method in these individual capitals considering perspectives of not only various stakeholders, but also citizens and social economics. At the same time, students will also research the actual corporation cases using various data such as securities reports.

Notably, students will consider characteristics of modern capitalism and industry from business analysis perspective. They will then discuss business analysis methods and frameworks.

Furthermore, students will study how mega corporations have been grown, what is the essence of profitability and corporations, and corporations' paying capability and financial structure stability while discussing characteristics of accounting data from its relationships with accounting policies and earnings management.

授業計画(Course Schedule)

1. 経営分析特論について
2. 何のための経営分析か
3. 現代資本主義の特質と経営分析
4. 現代産業の特質と経営分析
5. 財務データなどの活用と会計政策
6. 経営分析の方法
7. 現代企業の基礎分析
8. タイムシリーズ分析と成長性分析
9. 現代企業の収益性分析
10. 現代企業におけるバランスシートの構造と安全性分析
11. 企業の資金構造と資金分析
12. 経営分析の課題と地平
13. 総合分析と問題点
14. ケーススタディと総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習については、必要に応じて指示するが、以下の点に留意すること。

- (1) 指示した文献の内容を事前に理解して本特論に臨むこと。
- (2) 本特論でマスターした内容についてケース分析を試みること。

上記(1)、(2)の詳細については、別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/学期中の報告(60%)

テキスト(Textbooks)

授業において指示する。

参考文献 (Readings)

大橋英五編著『日本の製造業を分析する』(唯学書房 2010 年)

その他は、随時、講義において紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA404／経営分析特論2 (Special Lecture on Business Analysis 2)		
担当者名 (Instructor)	田村 八十一(TAMURA YASOKAZU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5820	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経営分析特論2では、個別資本の実態を社会経済的に分析する方法を検討していく。現代の巨大企業は、いわゆるリストラクチャリングを推進して、また多角化、多国籍化しながら、内部留保を蓄積している。そこで、このような企業の動向を分析するとともに、混迷する現代社会において企業が国民のために真に向かわなければならない方向を研究する。

In Special Lecture on Business Analysis 2, students will look into methods used to analyze current states of individual capitals from social economics perspective. Modern mega corporations promote restructuring, diversifying, and multi-nationalizing themselves to accumulate retained earnings. Therefore, in addition to analyzing these corporate trends, students will also research the way corporations should go to for people in this chaotic modern society.

授業の内容 (Course Contents)

大企業などの生産性分析などの単体データを用いた分析に加えて、多角化、多国籍化した企業の動向を分析するために、連結データやセグメント情報などの各種のデータを活用する方法を検討する。

また、巨大企業における内部留保の強蓄積をどのように析出して、その実態をどのように分析すれば良いかなどの応用的な研究を行う。

さらに、キャッシュフロー情報で企業の何がわかるのか、従業員の状況と企業の社会的責任、新しい指標とその問題点などを研究する。

In addition to the analysis that uses simple data such as productivity analysis in mega corporations, students will also look into methods that utilize the various data including consolidated data and segment information to analyze diversifying and globalizing corporate trends.

Furthermore, students will conduct applied researches to filter out large reserve of retained earnings in mega corporations and to analyze their current states.

Students will study and research what can be read about corporation from their cash flow data, their employee status and corporate social responsibilities, new indicators and their issues.

授業計画 (Course Schedule)

1. 経営分析特論について
2. 生産性分析と合理化
3. 現代企業の収益構造と損益分岐点分析
4. 内部留保と分析方法
5. 現代ビッグビジネスの内部留保
6. 連結企業集団と連結財務諸表分析
7. 多国籍・多角化するビッグビジネスの動向とセグメント情報
8. M&A&D とセグメント分析
9. 企業活動とキャッシュフロー分析
10. 現代企業の社会的責任と労務分析
11. リストラクチャリングと経営分析
12. その他の指標と課題
13. 経営分析の史的展開
14. ケーススタディと総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習については、必要に応じて指示するが、以下の点に留意すること。

- (1) 指示した文献の内容を事前に理解して本特論に臨むこと。
- (2) 本特論でマスターした内容についてケース分析を試みること。

上記(1)、(2)の詳細については、別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/学期中の報告(60%)

テキスト(Textbooks)

授業において指示する。

参考文献(Readings)

丸山恵也 編著『日本の多国籍企業』(新日本出版社 2012 年)

その他は, 随時, 講義において指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA405／管理会計特論1 (Special Lecture on Management Accounting 1)		
担当者名 (Instructor)	諸藤 裕美(MOROFUJI YUMI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA351 管理会計特殊講義 1 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

経営管理者の意思決定や業績管理に有用な会計手法についての知識を習得し、適切な管理会計システムの設計・利用について自身で考えられるようになる。管理会計が人の行動や心理に与える影響にも焦点を当てる。

The purpose of this course is to understand management accounting systems for managers' decision making and performance evaluation. An additional purpose is to develop the logical thinking ability of students through dealing with managerial problems and the management accounting systems to cope with those problems. It also focuses on the impact of management accounting on human behavior and psychology.

授業の内容 (Course Contents)

管理会計の中級テキストを輪読し、議論する。管理会計の理論体系、業績管理会計・意思決定会計の伝統的な手法ならびに戦略計画・実行のための管理会計手法について、計算手法とその背後にある理論的知識を習得し、企業にとって望ましい管理会計システムのあり方について考える手立てとする。管理会計が人の行動や心理に与える影響にも焦点を当てる。

Students will read and discuss intermediate textbooks, papers, and cases of managerial accounting. Students will learn about calculation methods and theoretical knowledge behind them for management accounting theoretical frameworks, traditional methods used in performance management accounting and decision accounting, management accounting methods used to achieve strategic planning and execution to reflect on management accounting systems desirable for corporations. It also focuses on the impact of management accounting on human behavior and psychology.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 管理会計に関するテキストの輪読(1)
3. 管理会計に関するテキストの輪読(2)
4. 管理会計に関するテキストの輪読(3)
5. 管理会計に関するテキストの輪読(4)
6. 管理会計に関するテキストの輪読(5)
7. 管理会計に関するテキストの輪読(6)
8. 管理会計に関する論文の輪読(1)
9. 管理会計に関する論文の輪読(2)
10. 管理会計に関する論文の輪読(3)
11. 管理会計に関する論文の輪読(4)
12. 管理会計に関する論文の輪読(5)
13. 管理会計に関する論文の輪読(6)
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回の文献をよく読み、議論ができる状態にして授業に臨むこと。自分の報告担当章については、明らかでない点は他の文献等で調べて報告に臨むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席、報告・質疑応答・議論への取り組み(70%)/小テスト・提出課題の質(30%)

テキスト (Textbooks)

論文のリーディングリストを渡す形を取る。

参考文献 (Readings)

1. 山本浩二ほか編著、2015、『スタンダードテキスト管理会計論 第2版』、中央経済社
2. 小林啓孝・伊藤嘉博・清水孝・長谷川恵一、2017、『スタンダード管理会計第2版』、東洋経済新報社

3. 廣本敏郎・挽文子、2015、『原価計算論 第3版』、中央経済社

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

開講時に、学部レベル(日商簿記工業簿記2級レベル)の管理会計の知識を習得していることを前提とする。正当な理由のない欠席は、減点の対象となる。英語論文を扱う場合がある。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA406／管理会計特論2 (Special Lecture on Management Accounting 2)		
担当者名 (Instructor)	諸藤 裕美(MOROFUJI YUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA352 管理会計特殊講義 2 と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

経営管理者や組織成員の意思決定、行動、心理に望ましい影響を与えるための管理会計のあり方について自身で考えられるようになる。

Students will be able to think for themselves about how management accounting should affect the decision-making, behavior, and psychology of managers and organizational members.

授業の内容 (Course Contents)

近年、組織成員の創造性発揮や組織成員間の連携が一層重要になってきている。創造性や連携のための管理会計に関する論文を読み、議論する。多くは英語論文となるため、春学期から英文読解の準備をしておく必要がある。

In recent years, it has become more important for organizational members to exhibit their creativity and to cooperate with each other. Read and discuss papers on management accounting for creativity and collaboration. Since most of the papers are written in English, it is necessary to prepare for English reading comprehension from the spring semester.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 管理会計に関する文献の輪読(1)
3. 管理会計に関する文献の輪読(2)
4. 管理会計に関する文献の輪読(3)
5. 管理会計に関する文献の輪読(4)
6. 管理会計に関する文献の輪読(5)
7. 管理会計に関する文献の輪読(6)
8. 管理会計に関する文献の輪読(7)
9. 管理会計に関する文献の輪読(8)
10. 管理会計に関する文献の輪読(9)
11. 管理会計に関する文献の輪読(10)
12. 管理会計に関する文献の輪読(11)
13. 管理会計に関する文献の輪読(12)
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回の文献を熟読し、議論ができる状態にして授業に臨むこと。自分の報告担当章については、明らかでない点は他の文献等で調べて報告に臨むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席、報告・質疑応答・議論への取り組み(70%) / レポート(30%)

テキスト (Textbooks)

初回授業にて指定。

参考文献 (Readings)

1. 山本浩二ほか編著、2015、『スタンダードテキスト管理会計論第2版』、中央経済社
2. 谷武幸、2022、『エッセンシャル管理会計(第4版)』、中央経済社
3. Amabile, Teresa M., et al., 2018. *Creativity in context: Update to the social psychology of creativity*. Routledge. Routledge
4. 諸藤裕美、2013、『自律的組織の管理会計 原価企画の進化』、中央経済社
5. 横田絵理、1998、『フラット化組織の管理と心理』、慶応義塾大学出版会

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

管理会計特論1を受講していることが望ましい。正当な理由のない欠席は、減点の対象となる。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA407／財務会計特論1 (Special Lecture on Financial Accounting 1)		
担当者名 (Instructor)	米谷 健司(KOMETANI KENJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業では、財務会計が果たすべき役割を理論と実証の両面から考察することを目的とする。財務会計研究に関連する理論を理解し、それらが会計実務や基準設定とどのように関連するのかを実証的証拠をもとに考察する。

In this class, students will analyze roles of financial accounting theoretically and empirically. Students will understand theories related to financial accounting researches. They will also analyze relationships among these theories, accounting tasks and standards setting based on actual evidences.

授業の内容 (Course Contents)

財務会計研究のうち主として資本市場研究に関連する理論と実証を取り扱う。受講者は、各回の授業で取り扱うテキストの内容を授業日までに予習し、必要に応じてレジュメ等を準備する必要がある。各回の授業では、受講者による説明を基礎としながら、教員が補足的に説明を加える予定である。ただし、受講者数に応じて授業の進め方を変更する場合がある。また、各回の授業では、テキストのほかに、関連する論文を取り扱う場合がある。

Among the researches on financial accounting, this class will mainly cover the theories and empirical proof related to the capital market research. Students will study textbooks contents used in each lesson beforehand. When necessary, students will prepare summary of these contents. Each class will focus on students' explanations, with supplementary explanations from professor. Professor may change class structure based on number of students. In addition to textbooks, students may also use related papers in each class.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 理想的状況の会計
3. 財務会計に対する意思決定有用性アプローチ(1)
4. 財務会計に対する意思決定有用性アプローチ(2)
5. 財務会計に対する意思決定有用性アプローチ(3)
6. 効率的証券市場(1)
7. 効率的証券市場(2)
8. 効率的証券市場(3)
9. 会計情報の価値関連性(1)
10. 会計情報の価値関連性(2)
11. 会計情報の価値関連性(3)
12. 意思決定有用性に対する価値評価アプローチ(1)
13. 意思決定有用性に対する価値評価アプローチ(2)
14. 意思決定有用性に対する価値評価アプローチ(3)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

この授業では予習に多くの時間を費やす必要がある。各回の授業で取り扱うテキストの内容をよく読み、事前にその内容や疑問点等を簡潔なレジュメにして整理する必要がある。当該レジュメは各回の講義終了時に提出してもらう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 授業時の報告レジュメ(60%)

テキスト (Textbooks)

1. ウィリアム・R・スコット, パトリシア・C・オブライエン著(太田康広・椎葉淳・西谷順平訳)、2022、『新版 財務会計の理論と実証』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-42761-9)

参考文献 (Readings)

1. Scott, W. R., P. O'Brien. 2020. *Financial Accounting Theory 8th edition*. Pearson (ISBN:978-0137595211)

2. ウィリアム・H・ビーバー著(伊藤 邦雄訳)、2010、『財務報告革命 第3版』、白桃書房 (ISBN:978-4561264224)
3. Beaver, W. H.. 1997. *Financial Reporting: An Accounting Revolution (3rd Edition)*. Pearson (ISBN:978-0137371495)

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

注 1) 各回の授業内容については、授業の進捗等によって変更の可能性がある。また、各回の授業内容に関する資料を配布する場合がある。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA408／財務会計特論2 (Special Lecture on Financial Accounting 2)		
担当者名 (Instructor)	米谷 健司(KOMETANI KENJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業では、財務会計が果たすべき役割を理論と実証の両面から考察することを目的とする。「財務会計特論1」で取り扱わなかった財務会計研究に関連する理論を理解し、それらが会計実務や基準設定とどのように関連するのかを実証的証拠をもとに考察する。

In this class, students will analyze roles of financial accounting theoretically and empirically. Students will understand financial accounting research theories not discussed in Special Lecture on Financial Accounting 1. Students will analyze relationships among these theories, accounting tasks, and standards setting based on actual evidences.

授業の内容 (Course Contents)

財務会計研究のうち主として会計情報の経済的帰結に関連する理論と実証を取り扱う。受講者は、各回の授業で取り扱うテキストの内容を授業日までに予習し、必要に応じてレジュメ等を準備する必要がある。各回の授業では、受講者による説明を基礎としながら、教員が補足的に説明を加える予定である。ただし、受講者数に応じて授業の進め方を変更する場合がある。また、各回の授業では、テキストのほかに、関連する論文を取り扱う場合がある。

Among these financial accounting researches, students will use mostly theories and evidences related to financial conclusions of accounting data. Students will study textbooks contents used in each lesson beforehand. When necessary, students will prepare summary of these contents. Each class will focus on students' explanations, with supplementary explanations from professor. Professor may change class structure based on number of students. In addition to textbooks, students may also use related papers in each class.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 効率的契約理論と会計(1)
3. 効率的契約理論と会計(2)
4. コンフリクトの分析(1)
5. コンフリクトの分析(2)
6. 経営者報酬(1)
7. 経営者報酬(2)
8. 利益マネジメント(1)
9. 利益マネジメント(2)
10. 利益マネジメント(3)
11. 基準設定の経済学(1)
12. 基準設定の経済学(2)
13. 基準設定の政治学(1)
14. 基準設定の政治学(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

この授業では予習に多くの時間を費やす必要がある。各回の授業で取り扱うテキストの内容をよく読み、事前にその内容や疑問点等を簡潔なレジュメにして整理する必要がある。当該レジュメは各回の講義終了時に提出してもらう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 授業時の報告レジュメ(60%)

テキスト (Textbooks)

1. ウィリアム・R・スコット、パトリシア・C・オブライエン著(太田康広・椎葉淳・西谷順平訳)、2022、『新版 財務会計の理論と実証』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-42761-9)

参考文献 (Readings)

1. Scott, W. R., P. O'Brien. 2020. *Financial Accounting Theory 8th edition*. Pearson (ISBN:978-0137595211)
2. ウィリアム・H・ビーバー著(伊藤 邦雄訳)、2010、『財務報告革命 第3版』、白桃書房 (ISBN:978-4561264224)
3. Beaver, W. H.. 1997. *Financial Reporting: An Accounting Revolution (3rd Edition)*. Pearson (ISBN:978-0137371495)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

注 1) 各回の授業内容については、授業の進捗等によって変更の可能性がある。また、各回の授業内容に関する資料を配布する場合がある。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA409／原価計算特論1 (Special Lecture on Cost Accounting 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	原価理論と計算プロセスの批判的研究		
担当者名 (Instructor)	内野 一樹(UCHINO KAZUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA353 原価計算特殊講義1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

原価計算の研究動向について理解し、批判的に検討できるようになる。

To understand and be able to critically examine the research trend on cost accounting.

授業の内容 (Course Contents)

方法論に言及した原価計算の専門文献を輪読し、議論する。外国語文献の場合にも翻訳だけでなくとどまらず、計算手法とその背後にある理論的根拠を理解するようにする。

Students will read and discuss specialized literatures of cost accounting, referring to its methodology. If the literatures are in foreign language, students will not only translate them, but also understand their calculation methods and theoretical bases behind them.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション(文献および担当者の決定)
2. 文献の輪読と内容についての議論(1)
3. 文献の輪読と内容についての議論(2)
4. 文献の輪読と内容についての議論(3)
5. 文献の輪読と内容についての議論(4)
6. 文献の輪読と内容についての議論(5)
7. 文献の輪読と内容についての議論(6)
8. 文献の輪読と内容についての議論(7)
9. 文献の輪読と内容についての議論(8)
10. 文献の輪読と内容についての議論(9)
11. 文献の輪読と内容についての議論(10)
12. 文献の輪読と内容についての議論(11)
13. 文献の輪読と内容についての議論(12)
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

輪読文献および関連文献を熟読し、議論ができる状態にして授業に参加すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内の報告、議論の内容(80%)/提出物(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 小栗崇資・陣内良昭、2022、『会計のオルタナティブ』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-41521-0)
開講時(4月)に履修者と相談の上で具体的な文献を指示する。取り敢えずは上記の文献を予定している。

参考文献 (Readings)

授業の中で随時紹介する。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA410／原価計算特論2 (Special Lecture on Cost Accounting 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	欧米原価計算論の批判的研究		
担当者名 (Instructor)	内野 一樹(UCHINO KAZUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA354 原価計算特殊講義2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

原価計算の研究動向について理解し、批判的に検討できるようになる。

To understand and be able to critically examine the research trend on cost accounting.

授業の内容 (Course Contents)

特論1に引き続き、方法論に言及した原価計算の専門文献を輪読し、議論する。外国語文献の場合にも翻訳だけにとどまらず、計算手法とその背後にある理論的根拠を理解するようにする。

Following Special Lecture 1, students will read and discuss specialized literatures of cost accounting, referring to its methodology. If the literatures are in foreign language, students will not only translate them, but also understand their calculation methods and theoretical bases behind them.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション(文献および担当者の決定)
2. 文献の輪読と内容についての議論(1)
3. 文献の輪読と内容についての議論(2)
4. 文献の輪読と内容についての議論(3)
5. 文献の輪読と内容についての議論(4)
6. 文献の輪読と内容についての議論(5)
7. 文献の輪読と内容についての議論(6)
8. 文献の輪読と内容についての議論(7)
9. 文献の輪読と内容についての議論(8)
10. 文献の輪読と内容についての議論(9)
11. 文献の輪読と内容についての議論(10)
12. 文献の輪読と内容についての議論(11)
13. 文献の輪読と内容についての議論(12)
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

輪読文献および関連文献を熟読し、議論ができる状態にして授業に参加すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内の報告、議論の内容(80%)/提出物(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 小栗崇資・陣内良昭、2022、『会計のオルタナティブ』、中央経済社 (ISBN: ISBN978-4-502-41521-0)
開講時(9月)に履修者と相談の上で具体的な文献を指示する。取り敢えずは、上記の文献を予定している。

参考文献 (Readings)

授業の中で随時紹介する。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA413／国際会計特論1 (Special Lecture on International Accounting 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際会計を考えて学ぶ		
担当者名 (Instructor)	角ヶ谷 典幸(TSUNOGAYA NORIYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

国際会計の基礎知識を前提として、ディスカッションを通じて、応用力を身につける。

Students will acquire applied skills through discussion, given the basic knowledge on international accounting included in academic journals.

授業の内容 (Course Contents)

参加者(全員)は、毎回、参考文献の該当箇所に目を通し、疑問点や討論したい事項をまとめる。報告者(毎回数名)がテキストの該当箇所について報告を行う。司会者(毎回1名)が中心となって、参考文献の疑問点を解決し、全体の討論を進める。参加者(全員)は、学期の最後に、自分の関心のあるテーマでレポートを作成し、報告する。

Participants (all students) will read the relevant parts of the journal and summarize the questions and issues they want to discuss. Presenters (several students) will give presentations on the relevant parts of the journal. The moderator (one student) will take the lead in resolving questions about the journal and facilitating discussion. At the end of the semester, participants (all students) will give a presentation on a topic of their own interest.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 国際会計研究総論(その1)
3. 国際会計研究総論(その2)
4. IFRS適用企業の特性(その1)
5. IFRS適用企業の特性(その2)
6. IFRSの適用が会計数値に与える影響(その1)
7. IFRSの適用が会計数値に与える影響(その2)
8. 日本におけるIFRS適用を巡る議論(その1)
9. 日本におけるIFRS適用を巡る議論(その2)
10. コンバージェンスを巡る現状と課題(その1)
11. コンバージェンスを巡る現状と課題(その2)
12. IFRSの認識と測定(その1)
13. IFRSの認識と測定(その2)
14. 学期末レポートの発表と議論

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

参考文献の該当箇所に目を通し、疑問点や討論したい事項をまとめてくること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(40%)／討論(40%)／最終レポート(20%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 中野貴之編著、2020、『IFRS適用の知見』、同文館
2. 平松一夫・辻山栄子編著、2014、『会計基準のコンバージェンス』(体系現代会計学)、中央経済社

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

本講義は、教員が一方向的に話をしながら進める講義ではなく、受講者がディスカッションをしながら進める講義である。学部上級レベルの財務会計の知識(上記参考文献程度の知識)を前提として進めていく予定である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA414／国際会計特論2 (Special Lecture on International Accounting 2)		
担当者名 (Instructor)	首藤 洋志(SHUTO HIROSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本授業では、国際財務報告基準(IFRS)のうち、具体的な基準の内容と特徴を理解し、他の基準(日本や米国の会計基準)との相違を理解することを目標とします。

Students will understand characteristics and details of the International Financial Reporting Standards (IFRS). Students will also understand its differences from other standards (e.g. Japan and US).

授業の内容 (Course Contents)

IFRSのうち、個別会計基準の内容と特徴について、IFRSの考え方や設定の背景(資産負債アプローチ、公正価値会計、包括利益等)、IFRSにより作成された財務諸表などを取り上げつつ講義します。

本授業では、受講者による事前の発表準備や、積極的なディスカッションへの参加が期待されます。

This class will cover the contents and characteristics of individual accounting standards, including the concept and background of IFRS (asset and liability approach, fair value accounting, comprehensive income, etc.), and financial statements prepared under IFRS.

In this class, students are expected to prepare their presentations in advance and actively participate in discussions.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 第7章 IFRSによる営業活動の会計 (1)
3. 第7章 IFRSによる営業活動の会計 (1)
4. 第8章 IFRSによる営業活動の会計 (2)
5. 第8章 IFRSによる営業活動の会計 (2)
6. 第9章 IFRSによる固定資産の会計 (1)
7. 第9章 IFRSによる固定資産の会計 (1)
8. 第10章 IFRSによる固定資産の会計 (2)
9. 第11章 IFRSによる金融商品の会計 (1)
10. 第12章 IFRSによる金融商品の会計 (2)
11. 第13章 IFRSによる組織再編の会計
12. 第14章 IFRSによる持分投資の会計
13. 第14章 IFRSによる持分投資の会計
14. 授業の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

指定するテキストの、授業計画該当箇所を事前に精読し、授業を受けるようにしてください。

また、授業後には、授業内容を振り返りながら、テキストに立ち返るなどの方法により復習をする必要があります。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(40%)／ディスカッション(40%)／最終レポート(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 秋葉賢一、2022、『エッセンシャル IFRS〈第7版〉』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-43891-2)

参考文献 (Readings)

その他 (HP等) (Others(e.g. HP))

全授業回のうち、2回のみオンライン実施の予定です(オンライン実施回については、「Canvas LMS」で指示します)。

本授業では、受講者によるテキストの分担発表を前提として、Q&Aやディスカッションを実施する予定です。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA417／税法特論1 (Special Lecture on Enterprise Taxation 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	混合配当をめぐる課税問題		
担当者名 (Instructor)	坂本 雅士(SAKAMOTO MASASHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA355 税法特殊講義1と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

資本剰余金を原資とする配当をいかに規律するか。これは 2001 年に資本剰余金からの配当の道が拓かれて以降、その時々
の税制において重要な課題になっている。本講義では、混合配当をめぐる税務論点を整理し、今後の議論の素材を提供する。

The objective of this course is to cultivate the ability for understanding and interpretation of dividend distribution by capital surplus and retained earnings, and to deepen the understanding of recent cases.

授業の内容(Course Contents)

国際興業管理事件(最一小判令和 3 年 3 月 11 日裁時 1763 号 4 頁)における二つの争点(混合配当の取扱い、プロラタ計算を定める政令の違法性)について、いわゆる先後関係問題、資本払戻し部分の食い込み問題という二つの観点から詳細に分析する。また、最高裁判決では触れていない「残された課題」についても検討する。

Students will deepen their understanding by reading textbooks and articles, attending lectures related supreme court judgement on May11,2021:taxation on dividend distribution by capital surplus and retained earnings.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 資本剰余金を原資とする配当の取扱いをめぐる変遷、発行法人と株主(法人)の税務処理
3. 混合配当とは何か、またどのように処理するか ～二つの考え方～
4. 資本剰余金を原資とする配当の取扱い;プロラタ計算について(資本の払戻し部分、みなし配当)
5. 混合配当をめぐる裁判例・裁判例(地裁、高裁、最高裁)
6. 混合配当と「先後関係問題」①
7. 混合配当と「先後関係問題」②
8. 先後関係問題における「恣意性」とは何か(どのように作用するか) ～簿価純資産の状況との関係から～
9. 混合配当と「資本払戻し部分の食い込み問題」①
10. 混合配当と「資本払戻し部分の食い込み問題」②
11. 先後関係問題と資本払戻し部分の食い込み問題の関係 ～両者は併起するか～
12. マイナスの利益積立金を前提とする課税関係をいかに規律するか
13. 納税者の行動と租税回避 ～なぜ納税者は混合配当を別個独立の配当として扱ったのか～
14. 混合配当に係る最高裁判決を受けて ～残された課題～

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加度(40%)／報告と議論(60%)

テキスト(Textbooks)

1. 坂本雅士編、2023、『現代税務会計論 第6版』、中央経済社
初回授業時に指示する。

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA418／税法特論2 (Special Lecture on Enterprise Taxation 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	会計基準の複線化と法人税法の対応		
担当者名 (Instructor)	坂本 雅士(SAKAMOTO MASASHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA356 税法特殊講義2と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

企業会計と法人税法との関係はどのようにあるべきか。わが国において、かねて俎上に載せられてきた議論であるが、近年、企業会計側の変容を背景にあらためて関心をあつめている。ここで企業会計の変容とは国際財務報告基準(IFRS)導入を端緒とする会計基準の複線化に他ならない。本講義では、租税法の観点から会計基準の複線化に係る論点を提示し、今後の方向性を考える。

The objective of this course is to cultivate the ability for understanding and interpretation of recent tendencies of accounting standards and its influence on corporate income tax.

授業の内容(Course Contents)

会計基準の複線化に対して、これまで法人税制は是々非々で対応してきたが、今後、個別財務諸表に適用される会計基準について、さらにコンバージェンスが進むか、あるいはIFRSの適用が認められた場合、どのような問題が生じるのであろうか。本講義では、解釈論と立法論の観点から検討する。

Students will deepen their understanding by reading textbooks and academic papers, attending lectures related diversification of accounting standards and its influence on corporate income tax, interpretation of article 22-4 of the corporation tax act.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 会計基準の複線化の現状と課題
3. 会計基準の複線化が法人税制に及ぼす影響
4. 非上場企業の会計と税務
5. 公正処理基準の判定に係る問題(1) -学説にみる2つの解釈論-
6. 公正処理基準の判定に係る問題(2) -裁判例にみる公正処理基準の解釈-
7. 公正処理基準の判定に係る問題(3) -大竹貿易事件(1993)の影響-
8. 個別規定の解釈に及ぼす影響
9. 公正処理基準の変容と別段の定め -近年の税制改正を俯瞰して-
10. 課税所得計算の基本原則(1)
11. 課税所得計算の基本原則(2)
12. 確定決算主義の再検討
13. 損金経理要件
14. 税制改正の方向

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加度(40%)／報告と議論(60%)

テキスト(Textbooks)

1. 坂本雅士編、2023、『現代税務会計論 第6版』、中央経済社
初回授業時に指示する。

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA419／会計監査特論1 (Advanced Auditing1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Audit judgment and decision making, risk-based approach, case studies		
担当者名 (Instructor)	小澤 康裕(OZAWA MICHIIHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

財務諸表監査の実務および研究の動向について理解し、批判的に検討できるようになること。

To understand and be able to critically examine practical operation of financial statement audit and the research trends.

授業の内容(Course Contents)

本授業では、監査実施上の諸概念、特に、監査人の判断や意思決定について理解するため、英文のケーススタディを用いて議論する。

In this class, students will use English case studies for discussions to help them understand various audit concepts and particularly auditors' decisions.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション及び担当の決定
2. ケーススタディ(1)についての発表・討論
3. ケーススタディ(2)についての発表・討論
4. ケーススタディ(3)についての発表・討論
5. 振り返り
6. ケーススタディ(4)についての発表・討論
7. ケーススタディ(5)についての発表・討論
8. ケーススタディ(6)についての発表・討論
9. 振り返り
10. ケーススタディ(7)についての発表・討論
11. ケーススタディ(8)についての発表・討論
12. ケーススタディ(9)についての発表・討論
13. ケーススタディ(10)についての発表・討論
14. 振り返り・まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の授業の開始時点で、受講生全員が、前回与えられた課題を提出する必要がある。その内容に基づき、受講者同士が積極的に議論を行うことを求める。

課題は、英文のケーススタディを読み、事前に与えられた設問に回答することである。この課題を前提に毎回の議論が行われるので、授業に参加するためには課題の提出が必須となる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

課題(40%) / 討論への貢献(60%)

テキスト(Textbooks)

1. Michael C. Knapp., 2021. *Contemporary Auditing: Real Issues and Cases*. Gengage Learning
その他、開講時に指示する。日本企業に関するケーススタディも検討する。

参考文献(Readings)

1. 山浦久司、『会計監査論』、中央経済社
2. 亀岡恵理子他、2021、『財務諸表監査』、国元書房
3. Peter Roebuck, Nonna Martinov-Bennie., 2010. *Case Studies in Auditing and Assurance*. LexisNexis Butterworths

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA420／会計監査特論2 (Advanced Auditing2)		
担当者名 (Instructor)	小澤 康裕(OZAWA MICHIIHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

財務諸表監査の研究の動向について理解し、批判的に検討できるようになること。

To understand and be able to critically examine the research trends on financial statement audit.

授業の内容(Course Contents)

本授業では、現在の監査研究の動向について理解するために、最新の研究論文(英文)を批判的に検討する。受講者の理解度に応じて進めるが、Auditingだけでなく統計学の基礎的な知識も必要となる。

In this class, students will discuss the latest research papers (in English) to understand current audit research trends. Professor will adapt the class to students' level of understanding. In addition to auditing, students need to have basic statistics knowledge.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション及び担当の決定
2. 監査研究で用いられる統計手法についての解説
3. *Accounting Horizons* 掲載論文の検討
4. *Behavioral Research in Accounting* 掲載論文の検討1
5. *Behavioral Research in Accounting* 掲載論文の検討2
6. 振り返り
7. *Accounting, Organizations and Society* 掲載論文の検討1
8. *Accounting, Organizations and Society* 掲載論文の検討2
9. *Accounting, Organizations and Society* 掲載論文の検討3
10. 振り返り
11. *Auditing: Journal of Practice and Theory*(2020) 掲載論文の検討1
12. *Auditing: Journal of Practice and Theory*(2021) 掲載論文の検討2
13. *Auditing: Journal of Practice and Theory*(2021) 掲載論文の検討3
14. 振り返り・まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の授業の開始時点で、受講生全員が、前回与えられた課題(主に論文内容の要約と設問への回答)を提出する必要がある。その内容に基づき、受講者同士が積極的に議論を行うことを求める。

課題は、監査に関する最新の学術論文を読み、事前に与えられた設問に回答することである。この課題を前提に毎回の議論が行われるので、授業に参加するためには課題の提出が必須となる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

課題(40%) / 討論への貢献(60%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 山浦久司、『会計監査論』、中央経済社
2. 亀岡恵理子他、2021、『財務諸表監査』(改訂版)、国元書房
3. Michael C. Knapp., 2021. *Contemporary Auditing: Real Issues and Cases*. Cengage Learning

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA421／コーポレートファイナンス特論1 (Special Lecture on Corporate Finance 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	コーポレート・ファイナンスの理論と実証		
担当者名 (Instructor)	石田 惣平(ISHIDA SOUHEI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講義の目標は、コーポレート・ファイナンスおよびそれに関連する研究領域に関する修士論文を執筆するための知識を習得することにあります。具体的には、コーポレート・ファイナンスに関する基本的なテキストを輪読することを通じて、基礎的な知識を習得することに焦点をあてます。

This lecture aims to provide students with the knowledge necessary to write a master's thesis on corporate finance and related research areas. Specifically, students acquire basic corporate finance knowledge by reading introductory texts on corporate finance.

授業の内容 (Course Contents)

コーポレート・ファイナンスは、企業の立場から資金調達や投資、利益の分配などの意思決定を扱う学術領域です。本講義では、コーポレート・ファイナンスに関する基本的なテキストを輪読することを通じて、基礎的な知識を習得します。各回の講義では、受講生にテキストの指定箇所を読んできてもらい、レジュメを作成してもらいます。そして、受講生が作成したレジュメをもとに、ディスカッションを行い、コーポレート・ファイナンスに関する知識を深めていきます。

Corporate finance is an academic discipline that deals with financing, investment, and payout from a firm's standpoint. This lecture aims to provide master's students with basic corporate finance knowledge by reading the introductory texts on corporate finance. Students must read the textbook's designated sections and prepare resumes for each lesson. They discuss based on the resumes to deepen their knowledge of corporate finance.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読①
3. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読②
4. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読③
5. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読④
6. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑤
7. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑥
8. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑦
9. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑧
10. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑨
11. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑩
12. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑪
13. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑫
14. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑬

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

- ※1 授業時間外の予習・復習が求められます。
- ※2 課題に取り組むことが求められます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告内容 (Report Content) (40%) / 貢献度 (Contribution) (30%) / 最終レポート (Final Report) (30%)
2/3 以上の出席をしていない場合は、正当な理由がない限り成績評価の対象としません。

テキスト (Textbooks)

初回の講義でリーディング・リストを配布します。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

ホームページ: <https://sites.google.com/view/souhei-ishida/home>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA422／コーポレートファイナンス特論2 (Special Lecture on Corporate Finance 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	コーポレート・ファイナンスの理論と実証		
担当者名 (Instructor)	石田 惣平(ISHIDA SOUHEI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5620	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講義の目標は、コーポレート・ファイナンスおよびそれに関連する研究領域に関する修士論文を執筆するための知識を習得することにあります。具体的には、コーポレート・ファイナンスに関する学術研究を輪読することを通じて、応用的な知識を習得することに焦点をあてます。

This lecture aims to provide students with the knowledge necessary to write a master's thesis on corporate finance and related research areas. Specifically, students acquire advanced corporate finance knowledge by reading academic papers on corporate finance.

授業の内容 (Course Contents)

コーポレート・ファイナンスは、企業の立場から資金調達や投資、利益の分配などの意思決定を扱う学術領域です。本講義では、コーポレート・ファイナンスに関する学術研究を輪読することを通じて、応用的な知識を習得します。各回の講義では、受講生に指定された論文を読んできてもらい、レジュメを作成してもらいます。そして、受講生が作成したレジュメをもとに、ディスカッションを行い、コーポレート・ファイナンスに関する知識を深めていきます。

Corporate finance is an academic discipline that deals with financing, investment, and payout from a firm's standpoint. This lecture aims to provide master's students with advanced corporate finance knowledge by reading academic papers on corporate finance. Students must read the papers designated and prepare resumes for each lesson. They discuss based on the resumes to deepen their knowledge of corporate finance.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読①
3. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読②
4. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読③
5. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読④
6. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑤
7. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑥
8. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑦
9. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑧
10. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑨
11. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑩
12. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑪
13. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑫
14. コーポレート・ファイナンスに関する文献の輪読⑬

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

- ※1 授業時間外の予習・復習が求められます。
- ※2 課題に取り組むことが求められます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告内容 (Report Content) (40%) / 貢献度 (Contribution) (30%) / 最終レポート (Final Report) (30%)
2/3 以上の出席をしていない場合は、正当な理由がない限り成績評価の対象としません。

テキスト (Textbooks)

初回の講義でリーディング・リストを配布します。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

ホームページ: <https://sites.google.com/view/souhei-ishida/home>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA423／税法A特論1 (Special Lecture on Taxation A-1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	地方分権時代の租税制度		
担当者名 (Instructor)	境 勉(SAKAI TSUTOMU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この科目は、税法の規定や租税判例を的確に理解し解釈できる能力を身につけるとともに、地方分権下における我が国の国・地方を通じた租税制度についての理解を深めることを目標とします。

The objective of this course is to cultivate the ability for understanding and interpretation of tax law or tax cases, and to deepen the understanding of Japanese national/local tax system under the decentralization.

授業の内容(Course Contents)

租税の役割、租税法原則を明らかにし、国・地方を通ずる税財政制度と租税体系を概観します。
次いで、国・地方の租税改正過程と税制改正史、税務行政等を概観した上で、
個人所得課税、法人課税、消費課税、資産課税等及び地方分権下における地方税制度を概観します。

The course will clarify the role of tax and the basic principles of tax law, and will outline the national/local finance/tax system. The course will also outline the national/local tax reform process/history, and the tax administration. The course will generally outline personal income tax, corporate tax, consumption tax, property tax and local tax under the decentralization.

授業計画(Course Schedule)

1. 講義内容概説、租税法の位置づけと判例の読み方
2. 租税の役割と租税原則
3. 租税法関係と租税法の基本原則
4. 租税法の法源と解釈・適用原則、租税分類
5. 国・地方の税財政制度
6. 地方財政調整制度
7. 租税政策決定過程と税制改正
8. 戦後主要税制改正史
9. 租税手続と租税争訟
10. 租税実体法(1)(個人所得課税総論)
11. 租税実体法(2)(法人課税総論)
12. 租税実体法(3)(消費課税総論)
13. 租税実体法(4)(資産課税総論)
14. 租税実体法(5)(地方分権と地方税総論)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行いますが、原則として、予習よりは、むしろ、講義の内容を踏まえ、各自、興味・関心を持ったことを自主的に調べ、考える姿勢を求めます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

毎回の講義後に提出するRP(リアクション・ペーパー)(60%)/毎回の講義における参画度合(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 金子宏、2021、『租税法<第24版>』、弘文堂 (ISBN:9784335315558)
2. 神野直彦、2021、『財政学<第3版>』、有斐閣 (ISBN:9784641165816)
3. 中里実他編、2021、『租税判例百選<第7版>』、有斐閣 (ISBN:9784641115538)
4. 中里実他編、2021、『租税法判例六法<第5版>』、有斐閣 (ISBN:9784641001572)

テキストの他、毎回の講義前日にレジュメをアップしますので、各自、ダウンロード・印刷等の上、講義に臨んでください。

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

各回の講義内容については、多少の変更を行うことがあります。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA424／税法A特論2 (Special Lecture on Taxation A-2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	地方分権時代の租税制度		
担当者名 (Instructor)	境 勉(SAKAI TSUTOMU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この講義は、税法の規定や租税判例を的確に理解し解釈できる能力を身につけるとともに、地方分権下における我が国の国・地方を通じた租税制度についての理解を深めることを目標とします。

The objective of this course is to cultivate the ability for understanding and interpretation of tax law or tax cases, and to deepen the understanding of Japanese national/local tax system under the decentralization.

授業の内容(Course Contents)

税法A特論1の講義を前提に、地方税制を含むいくつかの重要な論点について、個人所得課税、法人課税、消費課税、固定資産税に関し、重要な租税判例等を参照しながら概観します。さらに、地方分権改革における地方団体の課税自主権の変化を概観した上で、経済社会の構造変化の中での今後の租税制度を展望します。

Based on Taxation A-1 course, the course will outline some important issues including local tax about personal income tax, corporate tax, consumption tax and property tax, with reference to some important tax cases.

The course will also outline the change of local taxation autonomy under the decentralization reform and finally outlook the future of tax system under the change of economic/social conditions.

授業計画(Course Schedule)

1. 講義内容概説、課税要件総論
2. 個人所得課税(1)(所得概念と課税単位)
3. 個人所得課税(2)(所得分類とその計算(1))
4. 個人所得課税(3)(所得分類とその計算(2)、個人住民税)
5. 法人課税(1)(法人税の意義とあり方)
6. 法人課税(2)(益金と損金)
7. 法人課税(3)(地方法人課税)
8. 消費課税(1)(消費課税と付加価値税、消費税制度(1))
9. 消費課税(2)(消費税制度(2)、消費税の課題)
10. 消費課税(3)(地方消費税)
11. 資産課税等(1)(固定資産税)
12. 資産課税等(2)(自動車関係税、地方譲与税、税交付金)
13. 地方団体の課税権と課税自主権
14. 経済社会の構造変化と租税制度

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行いますが、原則として、予習よりは、むしろ、講義の内容を踏まえ、各自、興味・関心を持ったことを自主的に調べ、考える姿勢を求めます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

毎回の講義後に提出する RP(リアクション・ペーパー)(60%)/毎回の講義における参画度合(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 金子宏、2021、『租税法<第24版>』、弘文堂 (ISBN:9784335315558)
2. 神野直彦、2021、『財政学<第3版>』、有斐閣 (ISBN:9784641165816)
3. 中里実他編、2021、『租税判例百選<第7版>』、有斐閣 (ISBN:9784641115538)
4. 中里実他編、2021、『租税法判例六法<第5版>』、有斐閣 (ISBN:9784641001572)

テキストの他、毎回の講義前日にレジュメをアップしますので、各自、ダウンロード・印刷等の上、講義に臨んでください。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

各回の講義内容については、多少の変更を行うことがあります。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA425／税法B特論1 (Special Lecture on Taxation B-1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	租税法の基礎理論 ― 租税法総論、所得税法		
担当者名 (Instructor)	田中 光史(TANAKA KOSHI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済活動の中での重要な一要素である租税について理解を深めることは、事業者や会計専門家にとって不可欠である。租税 B 特講 1、2 の講義を通じて、学生が、租税法全体の基本原則を理解し、具体的な問題に関して、租税法条文を的確に解釈し、当てはめることができる能力を身につけることを目標とする。

It is essential for business owners and accounting experts to have deep understanding about taxation, which is an important factor in economic activity. In Special Lecture on Taxation B-1 and B-2, students will understand the basic principles of overall tax law, and cultivate the ability to precisely interpret the tax law texts and apply them to specific issues.

授業の内容(Course Contents)

租税法の基本原則、租税法の解釈における考え方等租税法総論、及び所得税法の課税要件に関する基本部分について概説する。

関連する重要判例を素材に、学生の積極的なプレゼンや議論を求めつつ、課税庁と納税者それぞれの主張の違いを整理し、判決の論理を検討することにより、具体的な課税事案において、租税法がどのように解釈され適用されるかについて理解を促す。なお、講義は実際に条文に当たりながら進めるので、条文を参照できる法令集等を持参のこと。

Professor will explain general tax law theories such as how to think when interpret the tax law, and the basic part related to the taxation prerequisite of income tax law.

Professor will use related legal cases as materials to organize differences among tax agency and payers' arguments, and discuss theories of legal decisions. Students must participate actively in presentations and discussion. Through these, students will accelerate their understanding about interpretation and application of tax law in these specific taxation cases.

In addition, students should bring statutes at large for reference as this lecture will proceed by following actual codes.

授業計画(Course Schedule)

1. 租税法総論(租税の意義、機能等)
2. 租税法総論(租税法解釈の基本的な考え方、租税回避行為に対する考え方等)
3. 包括的所得概念、所得税計算の基本構造
4. 利子所得、配当所得
5. 不動産所得、譲渡所得
6. 給与所得、退職所得
7. 給与所得、事業所得、雑所得
8. 給与所得、事業所得、雑所得
9. 給与所得、事業所得、雑所得
10. 給与所得、事業所得、雑所得
11. 収入金額と必要経費、所得の年度帰属と人的帰属
12. 収入金額と必要経費、所得の年度帰属と人的帰属
13. 損益通算、所得控除、損失の取扱い、税額計算
14. 損益通算、所得控除、損失の取扱い、税額計算

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキスト、参考文献等をしっかり予習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 判例等のプレゼンなど授業への参画度合(60%)

テキスト(Textbooks)

1. 金子宏、2021、『租税法』第 24 版、弘文堂 (97843353155581)

2. 中里実他編、2021、『租税判例百選』第 7 版、有斐閣 (9784641115538641115293)
3. 中里実他編、2021、『租税判例六法』第 5 版、有斐閣 (978464100157201541)
4. 佐藤英明、2022、『スタンダード所得税法』第 3 版、弘文堂 (ISBN:9784335359002)

参考文献 (Readings)

1. 金子宏他、2017、『ケースブック租税法』第 5 版、弘文堂 (ISBN:9784335305177)
2. 井田良他、2019、『法を学ぶ人のための文章作法』第2版、有斐閣 (ISBN:9784641126121)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

税制について財務省HPを、通達等の解説や質疑応答事例等について国税庁HPを、判例については裁判所HPを、適宜参考にすること。

全授業回のうち 7 回以下オンライン実施(実施回については Blackboard で指示する)

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA426／税法B特論2 (Special Lecture on Taxation B-2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	租税法の基礎理論 ― 法人税法、国際課税		
担当者名 (Instructor)	田中 光史(TANAKA KOSHI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5920	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

経済活動の中での重要な一要素である租税について理解を深めることは、事業者や会計専門家にとって不可欠である。税法B特論1、2の講義を通じて、学生が、租税法全体の基本原則を理解し、具体的な問題に関して、租税法条文を的確に解釈し、当てはめることができる能力を身につけることを目標とする。

It is essential for business owners and accounting experts to have deep understanding about taxation, which is an important factor in economic activity.

In Special Lecture on Taxation B-1 and B-2, students will understand basic principles of overall tax codes. Students will interpret and apply tax codes accurately in specific problems.

授業の内容 (Course Contents)

法人税法の課税要件に関する基本部分及び国際課税について概説する。
関連する重要判例を素材に、学生の積極的なプレゼンや議論を求めつつ、課税庁と納税者それぞれの主張の違いを整理し、判決の論理を検討することにより、具体的な課税事案において、租税法がどのように解釈され適用されるかについて理解を促す。
なお、講義は実際に条文に当たりながら進めるので、条文を参照できる法令集等を持参のこと。

Professor will outline the basic part of the taxation requirements in corporate tax law and international taxation.

Professor will use related legal cases as materials to organize differences among tax agency and payers' arguments, and discuss theories of legal decisions. Students must participate actively in presentations and discussion. Through these, students will accelerate their understanding about interpretation and application of tax law in these specific taxation cases.

In addition, students should bring statutes at large for reference as this lecture will proceed by following actual codes.

授業計画 (Course Schedule)

1. 法人税法の基本構造と基本的な考え方
2. 納税者の区分
3. 企業会計と法人所得計算
4. 個人所得課税と法人所得課税の調整、受取配当
5. 資産の評価益、評価損、寄附金
6. 交際費
7. 役員賞与
8. 減価償却、繰延資産、圧縮記帳
9. 貸倒れ、欠損金
10. グループ法人税制、連結納税制度
11. 国際課税(ソースルール等)
12. 国際課税(二重課税の排除等)
13. 国際課税(タックスヘイブン対策税制(CFC 税制))
14. 国際課税(移転価格税制)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキスト、参考文献等をしっかり予習すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／判例等のプレゼンなど授業への参画度合(60%)

テキスト (Textbooks)

1. 金子宏、2021、『租税法』第24版、弘文堂 (9784335315558315411)
2. 中里実他編、2021、『租税判例百選』第7版、有斐閣 (978464111553815293)

3. 中里実他編、2021、『租税判例六法』第 5 版、有斐閣 (978464100157201541)
4. 渡辺徹也、2019、『スタンダード法人税法』第 2 版、弘文堂 (ISBN:9784335357671)
5. 増井良啓・宮崎裕子、2019、『国際租税法』第 4 版、東京大学出版会 (97841303239323)

参考文献 (Readings)

1. 金子宏他、2017、『ケースブック租税法』第 5 版、弘文堂 (ISBN:9784335305177)
2. 井田良他、2019、『法を学ぶ人のための文章作法』第2版、有斐閣 (ISBN:9784641126121)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

税制について財務省HPを、通達等の解説について国税庁HPを、判例については裁判所HPを、適宜参考にすること。
全授業回のうち 7 回以下オンライン実施(実施回については Blackboard で指示する)

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA450／リサーチ手法特論 (Special Lecture on Research Methods)		
担当者名 (Instructor)	山崎 由希子(YAMAZAKI YUKIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	QA357 リサーチ手法特殊講義と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

①社会科学分野におけるさまざまな調査・研究の方法について基礎的な知識を身につけ、自身の行う研究にはどのような方法がもっとも適しているかを批判的に評価検討できるようにする。②課題(文献を読み、その要約を作成する。また文献の中の不明な点・疑問点について簡単なリサーチを行う)を通じて、文章のメインポイントを把握し、端的に要約する力をつける、③授業内での他の参加者との議論を通じ、論理的に考え、話すマナーを身につける。

(1) Students will acquire the basic knowledge about various survey/research methods used in the field of social science to evaluate and examine critically the best method for their own research. (2) Through the assignments (Students will read literatures and create summaries, in addition to conducting basic researches on unclear points or questions found in these literatures). Through these assignments, they will be able to correctly summarize main points in these writings. (3) They will discuss with others in the class to acquire theoretical thinking and conversational skills.

授業の内容(Course Contents)

毎週、課題の読み物が指示される。授業はこの読み物について、学生によるプレゼンテーションと議論を交えて輪読形式で進めていく。基本的なリサーチ手法を学びながら、学生は課題の文献について要約を作成、疑問点・不明な点について自分なりに調べた事柄をまとめたうえで授業に出席することが求められる。

Each week, professor will assign reading materials. In this class, students will take turns to read these materials, make presentations based on them, and participate in discussions. Students must acquire basic research methods to summarize assigned literatures and research unclear points or questions. Students are requested to research and summarize these in self-directed manner before attending each class.

授業計画(Course Schedule)

1. 導入(コース概要・自己紹介)
2. 社会科学の歴史的展開
3. 社会科学分野の調査・研究手法 I
4. 社会科学分野の調査・研究手法 II
5. 社会科学分野の調査・研究手法 III
6. 論文計画に関する発表と議論 I
7. 論文計画に関する発表と議論 II
8. 論文計画に関する発表と議論 III
9. 論文計画に関する発表と議論 IV
10. 論文計画に関する発表と議論 V
11. 論文計画に関する発表と議論 VI
12. 論文計画に関する発表と議論 VII
13. 論文計画に関する発表と議論 VIII
14. 論文計画に関する発表と議論 IX

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

受講を希望する学生はあらかじめ自身が関心を持っている研究分野、テーマについて授業内で説明できるように考えておくこと。また基本的に毎週、課題の提出が求められる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席・議論への参加(40%)/課題の提出(30%)/プレゼンテーション(30%)

学生同士の議論を重視する授業であるため、出席は大前提となる(20分以上の遅刻は出席点が半減する)。また、授業を欠席した学生も課題の提出は必須である。

テキスト(Textbooks)

指定の教科書はないが、適宜授業内で課題の読み物について指示する。

参考文献 (Readings)

適宜授業内で指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA455／経済史特論1 (Special Lecture on Economic History 1)		
担当者名 (Instructor)	山本 裕(YAMAMOTO YU)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

近代日本経済の歴史について、基礎的な知識を習得する。
特に、企業の活動に焦点を当てて理解を行なう。

Acquire basic knowledge about the history of the modern Japanese economy.
In particular, focus on corporate activities to gain understanding.

授業の内容 (Course Contents)

近代日本経済の歴史について考察を行なう。
特に、企業の活動に焦点を当てて考察していく。
具体的には、指定したテキストを読解して、議論を行なう。

Consider the history of the modern Japanese economy.
In particular, we will focus on corporate activities.
Specifically, students will read and understand the specified text and have a discussion.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス。指定したテキストの概要紹介
2. テキストの輪読(第1回 報告)
3. テキストの輪読(第1回 質疑応答)
4. テキストの輪読(第2回 報告)
5. テキストの輪読(第2回 質疑応答)
6. テキストの輪読(第3回 報告)
7. テキストの輪読(第3回 質疑応答)
8. テキストの輪読(第4回 報告)
9. テキストの輪読(第4回 質疑応答)
10. テキストの輪読(第5回 報告)
11. テキストの輪読(第5回 質疑応答)
12. テキストの輪読(第6回 報告)
13. テキストの輪読(第6回 質疑応答)
14. 講義のまとめと小括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

【予習】指定されたテキストの内容について、事前に読解し、ノート等を作成してくることを要求する。
毎回の事前学習を踏まえた上で、質疑応答等を行なう上で、必須となるが故である。
【復習】毎回の講義終了後、質疑応答等も含めた議論の内容についても、ノート等にまとめ直すことを要求する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)／最終レポート(Final Report)(40%)
レポート試験の内容は、受講者が複数回作成する報告資料の延長線上に課題を設定する予定である。

テキスト (Textbooks)

1. 武田晴人、2022、『事件から読みとく日本企業史』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-16595-3)

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

担当者のメールアドレスは以下の通りである。
yuyamamoto@dokkyo.ac.jp

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA456／経済史特論2 (Special Lecture on Economic History 2)		
担当者名 (Instructor)	山本 裕(YAMAMOTO YU)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX5720	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

現代日本経済の歴史について、基礎的な知識を習得する。
特に、企業の活動に焦点を当てて理解を行なう。

Acquire basic knowledge about the history of the modern Japanese economy.
In particular, focus on corporate activities to gain understanding.

授業の内容 (Course Contents)

現代日本経済の歴史について考察を行なう。
特に、企業の活動に焦点を当てて考察していく。
具体的には、指定したテキストを読解して、議論を行なう。

Consider the history of the modern Japanese economy.
In particular, we will focus on corporate activities.
Specifically, students will read and understand the specified text and have a discussion.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス。指定したテキストの概要紹介
2. テキストの輪読(第1回 報告)
3. テキストの輪読(第1回 質疑応答)
4. テキストの輪読(第2回 報告)
5. テキストの輪読(第2回 質疑応答)
6. テキストの輪読(第3回 報告)
7. テキストの輪読(第3回 質疑応答)
8. テキストの輪読(第4回 報告)
9. テキストの輪読(第4回 質疑応答)
10. テキストの輪読(第5回 報告)
11. テキストの輪読(第5回 質疑応答)
12. テキストの輪読(第6回 報告)
13. テキストの輪読(第6回 質疑応答)
14. 講義のまとめと小括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

【予習】指定されたテキストの内容について、事前に読解し、ノート等を作成してくることを要求する。
毎回の事前学習を踏まえた上で、質疑応答等を行なう上で、必須となるが故である。
【復習】毎回の講義終了後、質疑応答等も含めた議論の内容についても、ノート等にまとめ直すことを要求する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)／最終レポート(Final Report)(40%)
レポート試験の内容は、受講者が複数回作成する報告資料の延長線上に課題を設定する予定である。

テキスト (Textbooks)

1. 武田晴人、2022、『事件から読みとく日本企業史』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-16595-3)

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

担当者のメールアドレスは以下の通りである。
yuyamamoto@dokkyo.ac.jp

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	KA457／Special Lecture on Conference Presentation (Special Lecture on Conference Presentation)		
担当者名 (Instructor)	西崎 純代(NISHIZAKI SUMIYO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX6011	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	QA359Advanced Lecture on Conference Presentation と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

- Students will be able to identify factors that will increase the effectiveness of a presentation.
- Students will develop their confidence when giving a presentation in English.
- Students will understand the process of creating a strong abstract and preparing a presentation.
- [Mainly Ph.D. students] Students will understand how to form a presentation panel, construct a strong panel application, and prepare for a group presentation.
- [Mainly Ph.D. students] Students will be able to participate in conference sessions as an active audience, a panel chair, and a discussant.

授業の内容 (Course Contents)

Research presentation is an essential part of graduate studies and professional life. This course is designed to help students present their research in English. In addition to lectures by an instructor, students will participate in mock presentations and constructive feedback exchanges in a friendly atmosphere. Upon request, the class will include guidance on the application for various competitions, professional presentations, or tips for other personal communication. The order of topics may be adjusted to maximize learning outcomes.

授業計画 (Course Schedule)

- Introduction
- Participating in an academic conference: From planning to the day of the presentation
- Creating an effective presentation 1
Analyzing public speeches and presentations: Barack Obama's speech
- Creating an effective presentation 2 (This session includes preparation for an online conference)
- Choosing a conference to attend 1: Introduction to academic communities for English speakers in Japan
- Choosing a conference to attend 2
- Sending an abstract & writing a conference paper 1
- Sending an abstract & writing a conference paper 2
- The day of a conference: Asking a question/coordinating a discussion/serving as a discussant/networking
- A mock conference: Student presentations
Ph.D. students will act as a chair/discussant
- A mock conference: Student presentations
Ph.D. students will act as a chair/discussant
- A mock conference: Student presentations
Ph.D. students will act as a chair/discussant
- A mock conference: Student presentations
Ph.D. students will act as a chair/discussant
- After the conference: how to maintain new connections

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

All students are encouraged to observe academic and professional presentations and public speeches to identify the factors that could enhance communications.

[Mainly Ph.D. students] Students are strongly encouraged to apply for a conference and the activity can be replaced with another mini assignment(s).

成績評価方法・基準 (Evaluation)

8-10 mini assignments (a conference abstract, a conference paper, presentation(s), comments on other student presentations).(100%)

The contents of mini assignments will be decided after the class size is finalized. [If applicable] A rubric for a presentation and a short essay will be available for students. Academic Honesty: [If applicable] Students are required to prepare an original presentation and short essay. Severe penalties are in place for students found guilty of plagiarism offenses. The submission of identical pieces of work for different courses is also considered an academic offense.

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. Kevin Carroll & Bob Elliott. 2005. *Make Your Point!: Speak Clearly And Concisely Anyplace, Anytime*. Authorhouse (ISBN:978-1420804409)
2. William R. Steele. 2016. *Presentation Skills 201: How to Take It to the Next Level as a Confident, Engaging Presenter, Second Edition*. Erie Publishing (ISBN:978-0997332629)
3. Kevin Carroll, Bob Elliott 他, 高松綾子訳、2015、『ビジネスは 30 秒で話せ! (短く、魅力的に伝えるプレゼンの技術)』、すばる舎 (ISBN:978-4799104040)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

Seven class meetings: face-to-face on campus. Seven class meetings: online. The schedule will be announced on Blackboard.

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA106／近代経済学1(経済理論) (Field of Economic Theory Modern Economics 1)		
担当者名 (Instructor)	荒川 章義(ARAKAWA AKIYOSHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA108／近代経済学2(経済理論) (Field of Economic Theory Modern Economics 2)		
担当者名 (Instructor)	池田 毅(IKEDA TAKESHI)		
学期 (Semester)	休講	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画 (Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

特に定めない。

参考文献 (Readings)

随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA110／近代経済学3(経済理論) (Field of Economic Theory Modern Economics 3)		
担当者名 (Instructor)	藤原 新(FUJIWARA ARATA)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA115／経済学史(経済理論) (Field of History of Economic Doctrines History of Economic Doctrines)		
担当者名 (Instructor)	佐藤 有史(SATO YUJI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画 (Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

特に定めない。

参考文献 (Readings)

随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA117／景気変動論(経済理論) (Business Cycles)		
担当者名 (Instructor)	二宮 健史郎(NINOMIYA KENSHIRO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA124／日本経済史(経済史) (Field of Economic History Japanese Economic History)		
担当者名 (Instructor)	岡部 桂史(OKABE KEISHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA125／アジア経済史(経済史) (Field of Economic History Asian Economic History)		
担当者名 (Instructor)	湊 照宏(MINATO TERUHIRO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA128／欧州経済史(経済史) (European Economic History)		
担当者名 (Instructor)	菊池 雄太(KIKUCHI YUTA)		
学期 (Semester)	休講	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画 (Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

特に定めない。

参考文献 (Readings)

随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA129／日本経営史(経済史) (History of Japanese Management)		
担当者名 (Instructor)	島西 智輝(SHIMANISHI TOMOKI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画 (Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

特に定めない。

参考文献 (Readings)

随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA135／工業経済論(経済政策論) Field of Applied Economics Industrial Economics)		
担当者名 (Instructor)	菊池 航(KIKUCHI WATARU)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画 (Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

特に定めない。

参考文献 (Readings)

随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA137／日本経済論(経済政策論) (Field of Applied Economics Japanese Economic)		
担当者名 (Instructor)	林 采成(LIM CHAISUNG)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA138／労働経済学(経済政策論) (Field of Applied Economics Industrial Relations)		
担当者名 (Instructor)	首藤 若葉(SHUTO WAKANA)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA139／国際経済論(経済政策論) (Field of Applied Economics International Economics)		
担当者名 (Instructor)	蓮見 雄(HASUMI YU)		
学期 (Semester)	休講	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA140／中国経済論(経済政策論) (Field of Applied Economics Chinese Economy)		
担当者名 (Instructor)	厳 成男(YAN CHENG-NAN)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA141／アメリカ経済論(経済政策論) (Field of Applied Economics American Economy)		
担当者名 (Instructor)	山縣 宏之(YAMAGATA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA171／経済統計論(経済理論) (Field of Statistics Economic Statistics)		
担当者名 (Instructor)	櫻本 健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA172／価値論(経済理論) (Theory of Value)		
担当者名 (Instructor)	佐々木 隆治(SASAKI RYUJI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA181／経済政策論(経済政策論) (Field of Applied Economics Economic Policies)		
担当者名 (Instructor)	櫻井 公人(SAKURAI KIMIHITO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA182／社会政策論(経済政策論) (Field of Applied Economics Social Policies)		
担当者名 (Instructor)	菅沼 隆(SUGANUMA TAKASHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA183／証券経済論(経済政策論) (Economic Theory of Securities)		
担当者名 (Instructor)	三谷 進(MITANI SUSUMU)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA184／アジア経済論(経済政策論) (Asian Economy)		
担当者名 (Instructor)	郭 洋春(KWAK YANGCHOON)		
学期 (Semester)	休講	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画 (Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

特に定めない。

参考文献 (Readings)

随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA186／中小企業論(経済政策論) (Field of Business Management Small Business Problems and Studies)		
担当者名 (Instructor)	遠山 恭司(TOYAMA KYOJI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA187／都市経済学(経済政策論) (Urban Economics)		
担当者名 (Instructor)	田島 夏与(TAJIMA KAYO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA188／現代企業論(経済政策論) (Field of Applied Economics Multinationals Technology & Competitiveness)		
担当者名 (Instructor)	関 智一(SEKI TOMOKAZU)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画 (Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

特に定めない。

参考文献 (Readings)

随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA201／会計学(会計学) (Accounting)		
担当者名 (Instructor)	山田 康裕(YAMADA YASUHIRO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画 (Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

特に定めない。

参考文献 (Readings)

随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA203／管理会計論(会計学) (Management Accounting)		
担当者名 (Instructor)	諸藤 裕美(MOROFUJI YUMI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA207／租税法(会計学) (Tax Law)		
担当者名 (Instructor)	坂本 雅士(SAKAMOTO MASASHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画 (Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

特に定めない。

参考文献 (Readings)

随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA208／原価計算論(会計学) (Cost Accounting)		
担当者名 (Instructor)	内野 一樹(UCHINO KAZUKI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画 (Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

特に定めない。

参考文献 (Readings)

随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA210／財政学1(経済理論) (Public Finance 1)		
担当者名 (Instructor)	池上 岳彦(IKEGAMI TAKEHIKO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA211／財政学2(経済理論) (Public Finance 2)		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画 (Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

特に定めない。

参考文献 (Readings)

随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA212／財政学3(経済理論) (Public Finance 3)		
担当者名 (Instructor)	関口 智(SEKIGUCHI SATOSHI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	1単位(1 Credit)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	2020 年度以前入学者対象		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科博士課程後期課程に在学中に必要な指導を受け、博士学位を取得することを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

指導教員と相談の上、研究計画書を作成し、それに基づき研究指導を受ける。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画書を作成し、報告をもとに指導を行い、ブラッシュアップさせ研究計画を確定させる。
2. 研究リテラシー、研究活動における不正行為への対応、研究活動における不正行為へのガイドライン、研究倫理指導をおこなう。
3. 博士論文中間報告、学会報告準備・指導をおこなう。
4. 博士論文報告・指導、博士論文最終報告・指導、次年度への課題提示をおこなう。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文執筆に必要な文献の渉猟またデータの収集・加工

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。

参考文献(Readings)

随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA303／景気変動特殊講義1 (Advanced Lecture on Business Cycles 1)		
担当者名 (Instructor)	二宮 健史郎(NINOMIYA KENSHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA107 景気変動特論1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

経済の供給面を重視する(新)古典派経済学と需要面を重視するケインズ経済学の相違を理解した上で、ポスト・ケインズ派マクロ動学モデルの分析手法の基礎を修得することを本講義の目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

新古典派、ケインズ派の基本モデルを学習したのち、ポスト・ケインズ派マクロ動学モデルの分析手法等を学習する。さらに、その応用例としてポスト・ケインズ派マクロ動学モデルの一つであるカルドア型循環モデルと数値シミュレーションの方法を学習する。ポスト・ケインズ派のマクロ動学では、Hopf の分岐定理を適用した閉軌道の存在証明など、非線形経済動学が用いられている。

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 現代の経済と経済学の考え方
3. 貨幣数量説モデル(1)
4. 貨幣数量説モデル(2)
5. ケインズ派モデル(1)
6. ケインズ派モデル(2)
7. マクロ動学分析の方法(1)
8. マクロ動学分析の方法(2)
9. マクロ動学分析の方法(3)
10. 新古典派成長モデル
11. 異時点間の最適消費とラムゼイ・モデル
12. 内生的景気循環論(1)
13. 内生的景気循環論(2)
14. ポスト・ケインズ派マクロ動学の展開

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

復習に重点を置くことを勧める。経済数学(特に、微分、微分方程式、線形代数など)を予習しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

小レポート(30%)／出席討論(70%)

授業の性質上、全回出席を前提とする。

テキスト (Textbooks)

1. 二宮健史郎、2018、『金融不安定性のマクロ動学』、大月書店

参考文献 (Readings)

1. 二宮健史郎、2006、『金融恐慌のマクロ経済学』、中央経済社
 2. A.C.チャン・K.ウエイライト、2010、『現代経済学の数学基礎(上)(下)』、シーエーピー出版
 3. 小林幹・吉田博之、2020、『経済数学 15 講義』、新世社
- 二宮健史郎「ポスト・ケインズ派マクロ動学分析の方法と展開」『立教経済学研究』第 74 巻第 2 号、2020 年。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

- ・研究室での対面、Zoom を利用したオンラインを併用して講義を行う。
 - ・景気変動特論 2 も受講することが望ましい。マクロ経済学、ミクロ経済学の基礎は修得済みであることを前提として講義する。
- 本科目では、報告やディスカッションなどの双方向形式で行われることがある。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA304／景気変動特殊講義2 (Advanced Lecture on Business Cycles 2)		
担当者名 (Instructor)	二宮 健史郎(NINOMIYA KENSHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA108 景気変動特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

サブプライム問題に端を発した世界的な金融危機により、異端の経済学者ミンスキーの金融不安定性仮説は注目を集めた。本講義では、金融不安定性仮説を数理モデルに展開した諸研究を概観することにより金融的な景気変動を理解し、モデル分析の素養を身につけることを目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、ミンスキーの金融不安定性仮説、金融不安定性仮説を数理モデルに展開した諸研究を概観し、関連する論文を輪読する。授業計画の「報告」と書かれている部分は、受講者による論文などの報告である。報告してもらう論文等はこちらが指定する。報告者は、レジュメ、スライド(TeX または Power Point)等を作成して報告すること。

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. マンキュー・モデル
3. 金融不安定性仮説の基本的な考え方(1) 報告
4. 負債効果
5. 金融不安定性仮説の基本的な考え方(2) 報告
6. 内生的景気循環論(3)
7. 論文輪読(1) 報告
8. 内生的景気循環論(4)
9. 論文輪読(2) 報告
10. 新古典派成長モデル
11. 論文輪読(3) 報告
12. 異時点間の最適消費
13. 金融不安定性のマクロ動学 報告
14. ラムゼイ・モデル

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

経済数学(特に、微分、微分方程式、線形代数など)を予習しておくことが望ましい。論文を報告する際には、数式の導出まで説明できるようにすること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業の報告・討論(70%)/小レポート、授業内のテスト等(30%)
授業の性質上、全回出席を前提とする。

テキスト (Textbooks)

1. 二宮健史郎、2018、『金融不安定性のマクロ動学』、大月書店

参考文献 (Readings)

1. 二宮健史郎、2006、『金融恐慌のマクロ経済学』、中央経済社
 2. A.C.チャン・K.ウエイナイト、2010、『現代経済学の数学基礎(上)(下)』、シーエーピー出版
 3. 小林幹・吉田博之、2020、『経済数学 15 講義』、新世社
- 二宮健史郎「金融構造とポスト・ケインズ派マクロ動学:展望」『立教経済学研究』第 73 巻第 2 号、2019 年。

その他 (HP 等) (Others(e.g HP))

・研究室での対面と Zoom を利用したオンラインを併用して講義を行う。
・景気変動特論 1 も受講することが非常に望ましい。景気変動特論 1 の内容を理解できていないと、景気変動特論 2 の内容を理解することはほぼ不可能である。本科目では、全授業回数の 50%以上が論文の報告やディスカッションなどの双方向形式の授業によって運営される。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA307／財政学2特殊講義1 (Advanced Lecture on Finance 2-1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	DX や GX の同時推進と持続可能なまちづくり		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA113 財政学2特論1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

政治経済学からみた現代の都市が直面する課題と DX、GX、ESG や SDGs について学習する。

授業の内容 (Course Contents)

コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。1冊にまとまった教科書はないため、DX、GX、ESG や SDGs、クリティカル・ミネラルズ、コンパクトシティ、税制改革などのテーマに応じて、関連する論文等を読んでいく。また、学生には発表や討議を通じて、現代財政や都市統治のあり方についての理解を深め、最新の情報を学ぶことも求められる。

授業計画 (Course Schedule)

1. DX、GX、ESG や SDGs と持続可能なまちづくり
2. DX と持続可能なまちづくり
3. GX と持続可能なまちづくり
4. ESG と持続可能なまちづくり
5. SDGs と持続可能なまちづくり
6. 事例：スマートシティ東京都と官民連携
7. 事例：富山市におけるコンパクトでスマートなまちづくり
8. 事例：浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム
9. 事例：国土強靱化地域計画とその背景
10. 事例：大阪モデルのスマートシティ
11. 事例：福島新エネ社会構想
12. 事例：スマートシティ会津若松
13. 事例：災害に強い地域マイクログリッド
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習については、別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／プレゼンテーション(30%)／ディスカッション(30%)

テキスト (Textbooks)

1. KPMG コンサルティング、2022、『スマートシティ 3.0 (日経ムック)』、日本経済新聞出版 (ISBN:978-4296113934)
 2. 瀬藤澄彦、2022、『グローバル都市革命: コンパクトシティ 田園都市 第3の都市』、文眞堂 (ISBN:978-4830951886)
 3. 富国生命投資顧問、2022、『ESG 投資 持続可能な将来設計』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4478115893)
- スマートシティ官民連携プラットフォーム
<https://www.mlit.go.jp/scpf/>
 地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム
<https://future-city.go.jp/platform/>
 GXを支える地域・くらしの脱炭素
https://www.env.go.jp/council/content/i_05/000096596.pdf

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

国土強靱化
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/
 地域強靱化計画(国土強靱化地域計画)

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/tiiki.html

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA308／財政学2特殊講義2 (Advanced Lecture on Finance 2-2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	DX や GX の同時推進と持続可能なまちづくり		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA114 財政学2特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

政治経済学からみた現代の都市が直面する課題と DX、GX、ESG、SDGs について学習する。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容 (Course Contents)

コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。1冊にまとめた教科書はないため、DX、GX、ESG や SDGs、クリティカル・ミネラルズ、コンパクトシティ、税制改革などのテーマに応じて、関連する論文等を読んでいく。また、学生には発表や討議を通じて、現代財政や都市統治のあり方についての理解を深め、最新の情報を学ぶことも求められる。

授業計画 (Course Schedule)

1. 世界における都市化と DX、GX、ESG、SDGs
2. スマートシティとエネルギー安全保障
3. 実例：日米スマートシティ協力1
4. 実例：日米スマートシティ協力2
5. 実例：日印スマートシティ協力1
6. 実例：日印スマートシティ協力2
7. 実例：日欧スマートシティ協力1
8. 実例：日欧スマートシティ協力2
9. 実例：NEC とスマートシティ
10. 実例：国際協力機構とスマートシティ
11. 実例：日立とスマートシティ
12. 実例：日建設計とスマートシティ
13. 実例：新エネルギー・産業技術総合開発機構とスマートシティ
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習については、別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)／プレゼンテーション(30%)／ディスカッション(30%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

1. 安岡 美佳;ユリアン 森江 原 ニールセン、2022、『北欧のスマートシティ: テクノロジーを活用したウェルビーイングな都市づくり』、学芸出版社 (ISBN:978-4761528386)
 2. ジェフ・スベック、2022、『ウォーカブルシティ入門』、学芸出版社 (ISBN:978-4761528249)
- アジアの脱炭素都市の実現に向けた情報提供サイト
<https://www.env.go.jp/earth/coop/lowcarbon-asia/>
 日米グローバル地方ゼロカーボン促進イニシアティブ
<https://www.env.go.jp/press/110703.html>
 持続可能な開発目標(SDGs) - 2030 アジェンダ | 国連広報センタ
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

参考文献 (Readings)

日系企業の海外進出機会 - 資源エネルギー庁
https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/advanced_systems/smart_community/smartcity_ws/pdf/smartcity_ws2022_01r.pdf

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

全世界 スマートシティアプローチの適用性に係る

<https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/12342507.pdf>

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA309／経済統計特殊講義1 (Advanced Lecture on Economic Statistics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	公的のマイクロデータを利用した分析方法を知る		
担当者名 (Instructor)	櫻本 健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA121 経済統計特論1と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

経済統計の設計を把握しながら、政府の HP や統計アプリを使用しながら統計データを分析できるようになること。公的統計の二次的利用制度を利用したマイクロデータと分析手法を学ぶ。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容(Course Contents)

公的統計全体のフレームと内側の国民経済計算体系のフレームの2つのフレームのうち、主に後者について輪読形式で授業を進める。部分的に PC による演習を行って、概念と実際の数値の利便性の両方を理解する。多くの場合、統計整備は社会問題をきっかけに進む。統計作成と社会問題との関係は授業時に随所に触れることになる。e-Stat や OECD.Stat といったフリーの統計データベースと利用方法を学ぶ。

授業計画(Course Schedule)

1. 輪読・討論 1
2. 輪読・討論 2
3. 輪読・討論 3
4. 輪読・討論 4
5. 輪読・討論 5
6. 輪読・討論 6
7. 輪読・討論 7
8. 輪読・討論 8
9. 輪読・討論 9
10. 輪読・討論 10
11. 輪読・討論 11
12. 輪読・討論 12
13. 輪読・討論 13
14. 輪読・討論 14

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストを事前に読み、関連する著作物を調べてくこと。授業に関連して学課外で社会情報教育研究センターでのセミナーへの参加やコンテンツに基づく自主学習をお願いする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

提出物(50%)／報告(30%)／討論(20%)

すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト(Textbooks)

テキストはいくつかの候補の中から受講者と相談して決める。社会情報教育研究センター『日本の公的統計・統計調査』も利用するが、学内資料のため、教員が印刷して配布する。

参考文献(Readings)

1. 李潔、2018、『入門 GDP 統計と経済波及効果分析 第2版』、大学教育出版 (ISBN:978-4864295369)
 2. ダイアン・コイル、高橋 璃子、2015、『GDP——〈小さくて大きな数字〉の歴史』、みすず書房 (ISBN:4622079119)
 3. アンガス・マディソン、2015、『世界経済史概観 紀元1年～2030年』、岩波書店 (ISBN:4000610333)
 4. 宮川努、2018、『生産性とは何か』、筑摩書房 (ISBN:448007189X)
- テキストは上記の4冊に経済財政白書を加えた5冊から1冊選んで取り組む。授業範囲と統計調査士試験の内容が重複するため、資格取得をお勧めする。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

履修者が統計学を学んできた内容に応じて授業内容を変える。社会情報教育研究センターHP が関連情報となる。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA310／経済統計特殊講義2 (Advanced Lecture on Economic Statistics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	公的統計の体系的理解		
担当者名 (Instructor)	櫻本 健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA122 経済統計特論2と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

経済統計のうち、コアとなるマクロの統計について体系だった理解できるようにする。データの利用方法、分析手法が習得され、国民経済計算に関する理解が深まる。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容(Course Contents)

国民経済計算体系(SNA)は公的統計のコア勘定として位置付けられている。SNAを中心に、国際収支統計・付加価値貿易指標、金融統計、生産性統計、開発指標等、供給使用産業連関表、政府財政統計、マクロの統計を体系的に学ぶ。統計に必要な分類として産業分類、生産物分類も扱う。授業は輪読形式のものと、演習形式も組み合わせたものと2種類ある。Excelを利用した演習や宿題を多く課すと同時に、テキストの報告を定期的に求める。

授業計画(Course Schedule)

1. テキストに基づく輪読・討論 1
2. テキストに基づく輪読・討論 2
3. テキストに基づく輪読・討論 3
4. テキストに基づく輪読・討論 4
5. テキストに基づく輪読・討論 5
6. テキストに基づく輪読・討論 6
7. テキストに基づく輪読・討論 7
8. テキストに基づく輪読・討論 8
9. テキストに基づく輪読・討論 9
10. テキストに基づく輪読・討論 10
11. テキストに基づく輪読・討論 11
12. テキストに基づく輪読・討論 12
13. テキストに基づく輪読・討論 13
14. テキストに基づく輪読・討論 14

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストは事前に読み、テキストに関する周辺の情報も調べてくること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

提出物(50%)/報告(30%)/討論(20%)

すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト(Textbooks)

授業冒頭でテキストを選ぶ。授業では経済財政白書も参考にする。教科書以外に授業に必要な資料・データは、授業時に配布する。

参考文献(Readings)

1. ダイアン・コイル、2015、『GDP——小さくて大きな数字』の歴史』、みすず書房 (ISBN:4622079119)
2. ポール シュライアー、2009、『OECD 生産性測定マニュアル』、慶應義塾大学出版会 (ISBN:4766413555)
3. François Lequiller, Derek Blades. 2014. *Understanding National Accounts 2014*. Oecd Publishing (ISBN:9264214623)
4. 宮川努、2018、『生産性とは何か』、ちくま新書 (ISBN:9784480071897)

授業内容は統計検定統計調査士試験と重複する部分があるため、統計調査士試験を受験してついでに資格取得することもお勧めできる。その場合、本学社会情報教育研究センターが提供している統計検定のHPを参考にする。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

e-Stat HP,社会情報教育研究センターHP と各種指標も活用する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA311／近代経済学1特殊講義1 (Advanced Lecture on Modern Economics1-1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	制度の経済学の発展		
担当者名 (Instructor)	荒川 章義(ARAKAWA AKIYOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA123 近代経済学1特論1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

大学院レベルの制度と進化の経済学の基礎を学び、今後の研究のための土台を作る。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容 (Course Contents)

大学院レベルの制度の経済学の代表的なテキストを用いてその内容を学ぶ。現在では、制度の経済学と呼ばれる学問分野は、コモンズやミッチェルなどの旧制度派経済学からコースやノースの新制度派経済学、青木昌彦の比較制度分析などの幅広い領域に及んでいる。この授業では、参加者の関心に応じて、上記のいずれかの領域における代表的なテキストを取り上げ、その内容を学んでいくことにしたい。

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 参加者による発表と議論
3. 参加者による発表と議論
4. 参加者による発表と議論
5. 参加者による発表と議論
6. 参加者による発表と議論
7. 参加者による発表と議論
8. 参加者による発表と議論
9. 参加者による発表と議論
10. 参加者による発表と議論
11. 参加者による発表と議論
12. 参加者による発表と議論
13. 参加者による発表と議論
14. 参加者による発表と議論

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

大学院修士レベルのミクロ経済学をマスターしておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度並びに授業内での報告(50%)／発表と議論(50%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

詳細は参加者と相談の上決定する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA312／近代経済学1特殊講義2 (Advanced Lecture on Modern Economics1-2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	進化の経済学の発展		
担当者名 (Instructor)	荒川 章義(ARAKAWA AKIYOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA124 近代経済学1特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

大学院レベルの制度と進化の経済学の発展を学び、今後の研究のための土台を作る。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容 (Course Contents)

大学院レベルの進化の経済学の代表的なテキストを用いてその内容を学ぶ。現在では、進化の経済学は、シュンペーターの経済学から、ネルソン・ウィンターのアプローチ、ポールズやギンタスのアプローチなど多岐に及んでいる。また進化心理学も人間行動の非合理性の説明に大いに寄与している。この授業では、参加者の関心に応じて、進化の経済学の代表的なテキストを取り上げ、その内容を学んでいくことにしたい。

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 参加者による発表と議論
3. 参加者による発表と議論
4. 参加者による発表と議論
5. 参加者による発表と議論
6. 参加者による発表と議論
7. 参加者による発表と議論
8. 参加者による発表と議論
9. 参加者による発表と議論
10. 参加者による発表と議論
11. 参加者による発表と議論
12. 参加者による発表と議論
13. 参加者による発表と議論
14. 参加者による発表と議論

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

大学院修士レベルのミクロ経済学をマスターしておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度並びに授業内での報告(50%)／発表と議論(50%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

詳細は参加者と相談の上決定する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA315／近代経済学3特殊講義1 (Advanced Lecture on Modern Economics3-1)		
担当者名 (Instructor)	藤原 新(FUJIWARA ARATA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA127 近代経済学3特論1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

ケインズやポストケインジアンの特徴を理解する。特に方法論にまでさかのぼって議論を展開する最近のポストケインジアン文献を読み、その内容把握に努めるとともに、受講生の研究に新しい視角をもたらすことを目標とする。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容 (Course Contents)

ケインズやポストケインジアンを書いたいくつかの文献を輪読する。英語文献の場合にも翻訳だけにとどまらず、内容の吟味も行い、それぞれの文献の意義と限界を理解するようにする。
学期中に受講生の研究についての中間発表を複数回設定し、受講生間の相互理解を深めるとともに、研究の進展を図る。

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス、扱う文献の具体的な決定
2. 文献の読解と内容についての議論(1)
3. 文献の読解と内容についての議論(2)
4. 文献の読解と内容についての議論(3)
5. 文献の読解と内容についての議論(4)
6. 文献の読解と内容についての議論(5)
7. 研究中間発表と議論(1)
8. 文献の読解と内容についての議論(6)
9. 文献の読解と内容についての議論(7)
10. 文献の読解と内容についての議論(8)
11. 文献の読解と内容についての議論(9)
12. 文献の読解と内容についての議論(10)
13. 研究中間発表と議論(2)
14. まとめ、最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

文献の該当箇所を十分に時間をかけて検討しておく。内容を吟味し、周辺の研究との関連についても検討しておく。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内での報告、議論の内容(60%)／提出物(20%)／最終テスト(Final Test)(20%)
最終テストは口頭で行う。〈BR〉すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

受講者の関心を確認したうえで、初回の授業時に複数の文献を決定する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業方法が変更される可能性がある。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA316／近代経済学3特殊講義2 (Advanced Lecture on Modern Economics3-2)		
担当者名 (Instructor)	藤原 新(FUJIWARA ARATA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA128 近代経済学3特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

ケインズやポストケインジアンの特徴を理解する。特に方法論にまでさかのぼって議論を展開する最近のポストケインジアン文献を読み、その内容把握に努めるとともに、受講生の研究に新しい視角をもたらすことを目標とする。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容 (Course Contents)

特講1に引き続き、ケインズやポストケインジアンを書いたいくつかの文献を輪読する。内容の吟味を十分に行い、それぞれの文献の意義と限界を理解するようにする。
学期中に受講生の研究についての中間発表を複数回設定し、受講生間の相互理解を深めるとともに、研究の進展を図る。

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス、扱う文献の具体的な決定
2. 文献の読解と内容についての議論(1)
3. 文献の読解と内容についての議論(2)
4. 文献の読解と内容についての議論(3)
5. 文献の読解と内容についての議論(4)
6. 文献の読解と内容についての議論(5)
7. 研究中間発表と議論(1)
8. 文献の読解と内容についての議論(6)
9. 文献の読解と内容についての議論(7)
10. 文献の読解と内容についての議論(8)
11. 文献の読解と内容についての議論(9)
12. 文献の読解と内容についての議論(10)
13. 研究中間発表と議論(2)
14. まとめ、最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

文献の該当箇所を十分に時間をかけて検討しておく。その内容を吟味し、周辺の研究との関連についても検討しておく。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内での報告、議論の内容(60%)／提出物(20%)／最終テスト(Final Test)(20%)
最終テストは口頭で行う。〈BR〉すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

受講者の関心を確認したうえで、初回の授業時に複数の文献を決定する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業方法が変更される可能性がある。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA317／財政学3特殊講義1 (Advanced Lecture on Finance 3-1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	財政・租税政策の国際比較		
担当者名 (Instructor)	関口 智(SEKIGUCHI SATOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA129 財政学3特論1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

各国の財政・租税制度及び社会保障制度等の動向を理解する。特に後期課程においては、財政学研究における代表的なアプローチを理解し、自身の研究に応用できるようにする。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、財政・租税論や社会保障論等を念頭に置きつつ、各国の財政・租税制度及び社会保障制度等の国際比較を行う。
講義は担当者による簡単な解説の後、受講者によるレジュメ報告、全体での議論、担当者による論点整理により進めることを想定している。
講義開始時に具体的な題材を例示するが、前半は最新の日本語文献を、後半は最新の外国語文献を取り上げる。

授業計画 (Course Schedule)

1. 財政学3 特講1のガイダンスとテキスト選定
2. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
3. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
4. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
5. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
6. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
7. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
8. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
9. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
10. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
11. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
12. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
13. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
14. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

財政学に隣接する多様な領域に関心のある学生の参加も歓迎する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業中の発言、課題、出席の総合評価(80%)／最終レポート(Final Report)(20%)
後期課程においては、前期課程の評価方法に加えて課題を課して評価する。

テキスト (Textbooks)

特定・単一のテキストは用いない。受講者と相談しながら決定する。

参考文献 (Readings)

1. 関口 智、2015 年、『現代アメリカ連邦税制-付加価値税なき国家の租税構造』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130461146)
その他は、輪読の際に適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA318／財政学3特殊講義2 (Advanced Lecture on Finance 3-2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	財政・金融政策と公会計制度の国際比較		
担当者名 (Instructor)	関口 智(SEKIGUCHI SATOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA130 財政学3特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

財政学や金融論等の視点から、公会計制度論の動向と予算・決算論との関連を理解する。特に後期課程においては、財政学研究における代表的なアプローチを理解し、自身の研究に応用できるようにする。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、現代日本における財政・金融政策上の諸問題を念頭に置きつつ、近年盛んに議論されている公会計制度について、国際比較の観点からその意義と問題点について議論する。
講義は担当者による簡単な解説の後、受講者によるレジュメ報告、全体での議論、担当者による論点整理を行うことを想定している。
講義開始時に具体的な題材を例示するが、前半は最新の日本語文献を、後半は最新の外国語文献を取り上げる。

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス: 財政学3特講2の内容とテキスト選定
2. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
3. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
4. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
5. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
6. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
7. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
8. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
9. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
10. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
11. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
12. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
13. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)
14. 輪読(レジュメ報告, 全体議論, 論点整理)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

財政学に隣接する多様な領域に関心のある学生も歓迎する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業中の発言、課題、出席の総合評価(80%)／最終レポート(Final Report)(20%)
後期課程においては、前期課程の評価方法に加えて課題を課して評価する。

テキスト (Textbooks)

特定・単一のテキストは用いない。受講者と相談しながら決定する。

参考文献 (Readings)

1. 関口 智、2017 年、『イギリス及びスウェーデンの国家財政における予算・公会計制度と会計検査院—ミクロ予算編成とマクロ予算編成の視点から—』、会計検査院
2. 関口 智編、2016 年、『地方財政・公会計制度の国際比較』、日本経済評論社
その他は、輪読の際に適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA319／アジア経済史特殊講義1 (Advanced Lecture on Asian Economic History 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アジアの経済史		
担当者名 (Instructor)	湊 照宏(MINATO TERUHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA207 アジア経済史特論1と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

アジア経済史に関する基礎的な文献を読んで理解し、自身の研究課題および問題意識を明確化していく。また、研究報告における受講者同士の議論を通じて、論理的思考を修得することを目標にする。
なお、前期課程よりも高度な知識、技術を身につけることを目標とする。

授業の内容(Course Contents)

近代アジア経済史についての基本的な文献・論文を輪読する。輪読する文献・論文については、英語文献も含めて受講生と相談して決定する。その他、随時に受講者の研究報告を実施する。

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. アジア経済史に関する文献輪読(1)
3. アジア経済史に関する文献輪読(2)
4. アジア経済史に関する文献輪読(3)
5. アジア経済史に関する文献輪読(4)
6. アジア経済史に関する文献輪読(5)
7. アジア経済史に関する文献輪読(6)
8. アジア経済史に関する文献輪読(7)
9. アジア経済史に関する文献輪読(8)
10. アジア経済史に関する文献輪読(9)
11. アジア経済史に関する文献輪読(10)
12. アジア経済史に関する文献輪読(11)
13. アジア経済史に関する文献輪読(12)
14. アジア経済史に関する文献輪読(13)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

課題文献を精読し、論点をまとめる。
難解な論点については教員に質問し、理解するように努める。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加度(50%)／研究報告(50%)
全ての評価方法において前期課程より高度な達成基準を求める。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

授業計画に変更がある場合は授業中にお知らせします。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA320／アジア経済史特殊講義2 (Advanced Lecture on Asian Economic History 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アジアの経済史		
担当者名 (Instructor)	湊 照宏(MINATO TERUHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA208 アジア経済史特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

アジア経済史の基礎的な文献を読んで理解し、自身の研究課題および問題意識を明確化していく。また、研究報告における受講者同士の議論を通じて、論理的思考を修得することを目標にする。
なお、前期課程よりも高度な知識、技術を身につけることを目標とする。

授業の内容 (Course Contents)

近代アジア経済史についての基本的な文献・論文を輪読する。輪読する文献・論文については、英語文献も含めて受講生と相談して決定する。その他、随時に受講者の研究報告を実施する。

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. アジア経済史に関する文献輪読(1)
3. アジア経済史に関する文献輪読(2)
4. アジア経済史に関する文献輪読(3)
5. アジア経済史に関する文献輪読(4)
6. アジア経済史に関する文献輪読(5)
7. アジア経済史に関する文献輪読(6)
8. アジア経済史に関する文献輪読(7)
9. アジア経済史に関する文献輪読(8)
10. アジア経済史に関する文献輪読(9)
11. アジア経済史に関する文献輪読(10)
12. アジア経済史に関する文献輪読(11)
13. アジア経済史に関する文献輪読(12)
14. アジア経済史に関する文献輪読(13)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

課題文献を精読し、論点をまとめる。
難解な論点については教員に質問し、理解するように努める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(50%)／研究報告(50%)
全ての評価方法において前期課程より高度な達成基準を求める。

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

授業計画に変更がある場合は授業中にお知らせします。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA321／日本経済史特殊講義1 (Advanced Lecture on Japanese Economic History 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近現代日本の経済と経営		
担当者名 (Instructor)	岡部 桂史(OKABE KEISHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA211 日本経済史特論1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「一般的ならびに専門的教養の上に、経済、経済政策、会計、経営を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、次の3点を目標とします。

1. 日本経済史・経営史の基礎的な文献を理解する。
2. 日本経済史・経営史の研究方法を獲得する。
3. 日本経済史・経営史に基づくプレゼンテーション能力を獲得する。

尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けます。

授業の内容 (Course Contents)

近現代日本経済史の基本文献である沢井実・谷本雅之編『日本経済史』有斐閣(2016年)を輪読(音読)します。授業では、輪読している内容について、随時、担当教員と受講者でディスカッションを行い、理解を深めていきます。その他、随時に受講者の研究報告を実施する場合もあります。

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(1)
3. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(2)
4. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(3)
5. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(4)
6. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(5)
7. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(6)
8. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(7)
9. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(8)
10. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(9)
11. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(10)
12. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(11)
13. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(12)
14. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(13)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

課題文献を精読し、論点をまとめる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(90%)/研究報告(10%)

すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

1. 沢井実・谷本雅之、2016、『日本経済史』、有斐閣 (ISBN:9784641164888)

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA322／日本経済史特殊講義2 (Advanced Lecture on Japanese Economic History 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近現代日本の経済と経営		
担当者名 (Instructor)	岡部 桂史(OKABE KEISHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA212 日本経済史特論2と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「一般的ならびに専門的教養の上に、経済、経済政策、会計、経営を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、次の3点を目標とします。

1. 日本経済史・経営史の基礎的な文献を理解する。
2. 日本経済史・経営史の研究方法を獲得する。
3. 日本経済史・経営史に基づくプレゼンテーション能力を獲得する。

授業の内容(Course Contents)

近現代日本経済史の基本文献である沢井実・谷本雅之編『日本経済史』有斐閣(2016年)を輪読(音読)します。授業では、輪読している内容について、随時、担当教員と受講者でディスカッションを行い、理解を深めていきます。その他、随時に受講者の研究報告を実施する場合もあります。

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(1)
3. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(2)
4. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(3)
5. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(4)
6. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(5)
7. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(6)
8. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(7)
9. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(8)
10. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(9)
11. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(10)
12. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(11)
13. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(12)
14. 日本経済史・経営史に関する文献輪読(13)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

課題文献を精読し、論点をまとめる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加度(90%)/研究報告(10%)

テキスト(Textbooks)

1. 沢井実・谷本雅之、2016、『日本経済史』、有斐閣 (ISBN:9784641164888)

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。
【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA323／経営史特殊講義1 (Advanced Lecture on Business History 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近現代日本経営史の探究		
担当者名 (Instructor)	島西 智輝(SHIMANISHI TOMOKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA217 経営史特論1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

近現代日本経営史研究の方法と研究の現状を理解し、論評と討論に加え、自らの問題意識に基づいた研究報告ができる。

授業の内容 (Course Contents)

近現代日本経営史の研究文献・論文を検討し、専門的知識と文章作成能力を身につけた上で、自らの問題意識について研究を実施し、研究報告を行う。

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読(1)
3. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読(2)
4. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読(3)
5. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読(4)
6. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読(5)
7. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読(6)
8. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読(7)
9. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読(8)
10. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読(総括と討論)
11. 研究報告と討論(1)
12. 研究報告と討論(2)
13. 研究報告と討論(3)
14. 講義のまとめと夏期休暇に向けた研究指導

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

輪読の際は、事前に文献・論文を精読し、報告資料を準備する必要がある。
授業外の時間を利用して、先行研究を踏まえて文献・論文を検討したり、自らの研究を実施したりする必要がある。
平均して毎日 120 分以上を事前・事後学習時間とすることを目安とする。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(50%)/研究報告(50%)

テキスト (Textbooks)

履修者と相談の上、決定する。

参考文献 (Readings)

授業中に適宜提示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA324／経営史特殊講義2 (Advanced Lecture on Business History 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近現代日本経営史の探究		
担当者名 (Instructor)	島西 智輝(SHIMANISHI TOMOKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA218 経営史特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

近現代日本経営史研究の方法と研究の現状を理解し、論評と討論に加え、自らの問題意識に基づいた研究報告ができる。

授業の内容 (Course Contents)

近現代日本経営史の研究文献・論文を検討し、専門的知識と文章作成能力を身につけた上で、自らの問題意識について研究を実施し、研究報告を行う。

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (1)
3. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (2)
4. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (3)
5. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (4)
6. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (5)
7. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (6)
8. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (7)
9. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (8)
10. 近現代日本経営史に関する文献・論文の輪読 (総括と討論)
11. 研究報告と討論 (1)
12. 研究報告と討論 (2)
13. 研究報告と討論 (3)
14. 講義のまとめと春期休暇に向けた研究指導

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

輪読の際は、事前に文献・論文を精読し、報告資料を準備する必要がある。
授業外の時間を利用して、先行研究を踏まえて文献・論文を検討したり、自らの研究を実施したりする必要がある。
平均して毎日 120 分以上を事前・事後学習時間とすることを目安とする。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(50%)/研究報告(50%)

テキスト (Textbooks)

履修者と相談の上、決定する。

参考文献 (Readings)

授業中に適宜提示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA325／経済政策特殊講義1 (Advanced Lecture on Economic Policies 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル資本主義の持続可能性と反グローバリズムに関する研究 On sustainability of global capitalism and anti-globalism		
担当者名 (Instructor)	櫻井 公人(SAKURAI KIMIHITO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA301 経済政策特論1と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

転機にある 21 世紀に資本主義が生き延びるために必要な政策課題は何か。定義、歴史、多様性、グローバル資本主義とその危機について理解する。

Can global capitalism survive? What policy issues does it need to cope with?

To understand multi dimensions of globalization such as its definition, history and diversity.

授業の内容(Course Contents)

21 世紀の資本主義は転機にある。グローバル金融危機、情報技術革新、さらには資源・エネルギーにおける持続可能性が、今後のゆくえを左右するだろう。

金融化とカジノ資本主義化、マッド・マネー化のもたらした危機に、非伝統的な政策とグローバル金融規制で対処できるのか。「インダストリアル・インターネット」や「IoT」などのデジタル技術や AI が産業と雇用の構造を変え、失業・格差・貧困の構図をどう変えるのか。人口増加と水・食糧の需要など、資源・エネルギー面は持続可能か。今日のグローバル資本主義の抱える多くの政策課題を、その起源にさかのぼって検討する(秋学期内容とどちらを先に行うか受講者と相談する)。

Globalization led by money and finance caused global financial crises which countries had to cope with.

Anti-globalism is also rising. Can we have a system of economic policy? Explanations will be given to policy responses to currency crises and global financial crisis.

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに
2. What is capitalism?
3. 資本主義とは何か
4. Where did capitalism come from?
5. 資本主義はどこで発生したか
6. How did we get here?
7. 資本主義、ここに至る道のり
8. Is capitalism everywhere the same?
9. 資本主義の多様性?
10. Has capitalism gone global?
11. グローバル資本主義の形成か
12. Crisis? What crisis?
13. 何が資本主義の危機なのか
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義前の事前準備は必須である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

講義内での発表(50%)/講義への貢献(30%)/最終レポート(Final Report)(20%)

テキスト(Textbooks)

1. James Fulcher. 2015. *Capitalism 2nd ed.: A very Short Introduction*. Oxford U.P. (ISBN:9780198726074)

参考文献(Readings)

1. 斎藤修・古川純子編、2020 年、『分水嶺にたつ市場と社会』、文眞堂 (ISBN:9784830950766)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA326／経済政策特殊講義2 (Advanced Lecture on Economic Policies 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル資本主義の持続可能性と反グローバリズム政策の背景を探る sustainability of global capitalism and the background of anti-globalism		
担当者名 (Instructor)	櫻井 公人(SAKURAI KIMIHIITO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA302 経済政策特論2と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

転機にあるグローバル資本主義は生き延びることができるのか。そのために必要な政策課題は何か。定義、歴史、多様性など、グローバリゼーションについて多角的に理解する。また、反グローバリズムの政策背景を理解する。

Can global capitalism survive? What policy issues does it need to cope with?

To understand multi dimensions of globalization such as its definition, history and diversity.

To understand the background of anti-globalist economic policies.

授業の内容(Course Contents)

21 世紀の資本主義は転機にある。グローバル金融危機、情報技術革新、さらには資源・エネルギーにおける持続可能性が、反グローバリズムとポピュリズムのゆくえを左右するだろう。

金融化とカジノ資本主義化、マッド・マネー化のもたらした危機に、非伝統的な政策とグローバル金融規制で対処できるのか。「インダストリアル・インターネット」や「IoT」などのデジタル技術や AI が産業と雇用の構造を変え、失業・格差・貧困の構図をどう変えるのか。人口増加と水・食糧の需要など、資源・エネルギー面は持続可能か。今日の資本主義が抱えるグローバルな政策課題への対処のため、グローバリゼーションの起源にさかのぼって検討する。なお、テキストは 2020 年刊行の 5th edition を用いる。

21 century capitalism is now at the turning point. Global financial crisis, IT, sustainability of resource and energy will be at stake. We have also antiglobalism and populism. Can we cope with crises caused by financialization, casino capitalism, and 'mad money'? How do digital technologies such as industrial internet and IoT transform the structure of industry and labor? Can we deal with population, water and food issues? Explanations will be given from historical view with the origin of globalization to correspond to the global capitalism today.

授業計画(Course Schedule)

- はじめに
Introduction
- グローバリゼーションー論争と定義
Globalization: a contested concept and its definition
- 歴史の中のグローバリゼーション
Globalization in history
- グローバリゼーションの経済的次元ーリベラル国際秩序、金融危機、多国籍企業
The economic dimension of globalization
- グローバリゼーションの政治的次元ー国民国家のゆくえ、移民、EU
The political dimension of globalization
- グローバリゼーションの文化的次元ーマクドナルド化、メディア、言語
The cultural dimension of globalization
- グローバリゼーションのエコロジー的次元
The ecological dimension of globalization
- グローバリゼーションをめぐるイデオロギー対立
Ideological confrontations over globalization
- ー市場派グローバリズム
market globalism
- ー正義派グローバリズム
justice globalism
- ー宗教派グローバリズム
religious globalism
- 反グローバリズム、ポピュリズム、ドトランプ
antiglobalist populism and D. Trump
- グローバリゼーションの未来
The future of globalization
- グローバリゼーションと政策対応

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義前の事前準備は必須である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

毎回の講義での報告(50%)/講義への貢献度(30%)/最終レポート(Final Report)(20%)

テキスト(Textbooks)

1. Manfred B. Steger. 2020. *Globalization 5th ed.: A Very Short Introduction*. Oxford U. P. (ISBN:9780198849452)

参考文献(Readings)

1. S. ストレンジ、2011、『国家の退場』、岩波書店 (ISBN:9784000285155)
2. 斎藤修・古川純子編、2020、『分水嶺にたつ市場と社会』、文眞堂 (ISBN:9784830950766)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA329／中国経済特殊講義1 (Special Lecture on Chinese Economy 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	中国の経済発展と制度変化 (Economic Development and Institutional Changes in China)		
担当者名 (Instructor)	厳 成男(YAN CHENG NAN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA309 中国経済特論1と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

中国における経済発展と制度変化の間の相互関係を考察し、激変する中国の社会経済システムのさまざまな側面を把握することによって、中国経済に対する正しい理解ができる。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容(Course Contents)

主に、テキストの輪読とその内容に関する議論を通じて、高度経済成長から中成長へ転換しつつある中国経済が直面しているさまざまな課題—市場競争、成長、分配、格差、環境、就労等—の発生メカニズム、実態、変容、および政策的対応について考え、中国経済発展の本質を把握する。

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス—中国経済は如何に調整されているか？（テキスト1 概括）
2. 中国の経済発展戦略（テキスト1 の第1章）
3. 中国の雇用制度と低賃金労働（テキスト1 の第2章）
4. 中国の輸出主導型成長体制（テキスト1 の第3章、第4章）
5. 中国の産業発展と輸出主導型成長のインパクト①（テキスト1 の第5章）
6. 中国の産業発展と輸出主導型成長のインパクト②（テキスト1 の第6章、第7章）
7. 中国の労働市場制度改革（テキスト1 の第8章）
8. 中国経済の成長体制転換と調整様式（テキスト1 の第9章、終章）
9. 中国における経済制度の特質とその形成（テキスト2 の第1章、第2章）
10. 中国における経済制度の進化（テキスト2 の第3章、第4章）
11. 中国における企業経営と技術革新（テキスト2 の第5章、第6章）
12. 中国経済の対外拡張（テキスト2 の第7章）
13. 中国における腐敗と格差（テキスト2 の第8章、第9章）
14. 総括—「中国経済学」の誕生？（テキスト2 概括）

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

日頃より、日本経済新聞における中国経済関連記事をチェックすることが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レジュメの発表(70%)/全体議論への参加度合い(30%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト(Textbooks)

1. 厳成男、2011、『中国の経済発展と制度変化』、京都大学学術出版会
2. 加藤弘之、2016、『中国経済学入門』、名古屋大学出版会

参考文献(Readings)

1. 加藤弘之、2013、『「曖昧な制度」としての中国型資本主義』、NTT 出版
2. 丸川知雄・梶谷懐、2015、『超大国・中国のゆくえ』、東京大学出版会
3. 大西広、2016、『中成長を模索する中国』、慶応義塾大学出版会
4. 丸川和雄、2021、『現代中国経済』(新版)、有斐閣

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA330／中国経済特殊講義2 (Special Lecture on Chinese Economy 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	中国の経済発展と制度変化 (Economic Development and Institutional Changes in China)		
担当者名 (Instructor)	厳 成男(YAN CHENG NAN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA310 中国経済特論2と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

中国における経済発展と制度変化の間の相互関係を考察し、激変する中国の社会経済システムのさまざまな側面を把握することにより、中国経済に対する正しい理解ができる。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容(Course Contents)

主に、テキストの輪読とその内容に関する議論を通じて、高度経済成長から中成長へ転換しつつある中国経済が直面しているさまざまな課題—市場競争、成長、分配、格差、環境、就労等—の発生メカニズム、実態、変容、および政策的対応について考え、中国経済発展の本質を把握する。

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション—中国経済が直面する二つの罫（テキストの序章）
2. 中国の戸籍制度と農民工（テキストの第1章）
3. 中国の農村、都市化（テキストの第2章）
4. 中国の地方政府間競争（テキストの第3章）
5. 中国の産業構造の高度化（テキストの第4章）
6. 中国の産業集積（テキストの第5章）
7. 中国の技術開発（テキストの第6章）
8. 中国の民営化、市場化（テキストの第7章）
9. 中国の労働分配（テキストの第8章）
10. 中国の国有企業制度改革（テキストの第9章）
11. 中国の企業間競争（テキストの第10章）
12. 中国企業の海外進出（テキストの第11章）
13. 中国における格差（テキストの第12章、第13章）
14. 中国国家資本主義のゆくえ（テキストの終章）

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

日頃より、日本経済新聞における中国経済関連記事をチェックすることが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レジュメ発表(70%)/全体議論への参加度合い(30%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト(Textbooks)

1. 加藤弘之・梶谷懐、2016、『二重の罫を超えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房

参考文献(Readings)

1. 厳成男、2011、『中国の経済発展と制度変化』、京都大学学術出版会
2. 加藤弘之、2016、『中国経済学入門』、名古屋大学出版会
3. 丸川知雄・梶谷懐、2015、『超大国・中国のゆくえ』、東京大学出版会
4. 大西広、2016、『中成長を模索する中国』、慶応義塾大学出版会
5. 丸川和雄、2021、『現代中国経済』(新版)、有斐閣

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA331／社会政策特殊講義1 (Advanced Lecture on Social Policies 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	イノベティブ福祉国家としてのデンマークの社会経済構造分析 (Analysis on socio-economic structure of Denmark as an innovative welfare state)		
担当者名 (Instructor)	菅沼 隆(SUGANUMA TAKASHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA313 社会政策特論1と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

イノベティブ福祉国家としてのデンマークの社会経済構造を分析し、福祉国家の持続可能性の条件を考察する能力を身につける。

授業の内容(Course Contents)

イノベティブ福祉国家とは「イノベティブ福祉国家とは、福祉国家の諸制度・諸価値によりイノベティブな人材や組織が促進され、イノベーションが誘発されやすい国家」と定義できる。今年度は、デンマークのイノベーション・システムを概観した後、公共部門のイノベーションと労働者主導のイノベーションに関する研究論文を読む。

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. デンマークのナショナル・イノベーション・システム概観
3. デンマークのナショナル・イノベーション・システム概観
4. デンマークのナショナル・イノベーション・システム概観
5. デンマークのナショナル・イノベーション・システム概観
6. 公共部門のイノベーション
7. 公共部門のイノベーション
8. 公共部門のイノベーション
9. 公共部門のイノベーション
10. 公共部門のイノベーション
11. 労働者主導のイノベーション
12. 労働者主導のイノベーション
13. 労働者主導のイノベーション
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

指定した論文を予め読み、関係情報を収集した上で、授業に参加していただく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

テキスト(Textbooks)

1. Bengt-Aake Lundvall. 2002. *Innovation, Growth and Social Cohesion*. Elger (ISBN:1840647434)
2. Steen Hoeyrup. 2012. *Employee-Driven Innovation*. Palgrave Macmillan (ISBN:9781349326457)
3. Peter R.A. Oeji et.al.. 2017. *Workplace Innovation*. Springer (ISBN:9783319858876)
4. Cristina Chaminade et.al.. 2018. *National Innovation Systems*. Elger (ISBN:9781785362019)
5. Lars Mjoeste.ed.. 2011. *The Nordic Varieties of Capitalism*. Emerald (ISBN:9780857247773)

上記はテキストの例である。日本語の論文を取り上げることもある。受講者の問題意識に基づいて選定する。

参考文献(Readings)

1. クラウス・ペーターセン他、2017、『北欧福祉国家は持続可能か』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623075355)
2. 斉藤弥生、石黒暢、2019、『北欧』、旬報社 (ISBN:9784845115976)
3. 佐野利男、2017、『女神フライアが愛した国』、東海大学出版社 (ISBN:9784486021629)
4. Torben M.Andersen.et.al.. 2017. *The Danish Economy in a Global Context*. Djoeif Publishing (ISBN:9788757436358)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA332／社会政策特殊講義2 (Advanced Lecture on Social Policies 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	イノベティブ福祉国家としてのデンマークの社会経済構造分析 (Analysis on socio-economic structure of Denmark as an innovative welfare state)		
担当者名 (Instructor)	菅沼 隆(SUGANUMA TAKASHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA314 社会政策特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

イノベティブ福祉国家としてのデンマークの社会経済構造を分析し、福祉国家の持続可能性の条件を考察する能力を身につける。

授業の内容 (Course Contents)

デンマークのイノベーションシステムの最先端の研究動向を扱う。政府の政策に着目し、イノベーション全般、デジタル政策、グリーン政策について研究する。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. イノベーション政策
3. イノベーション政策
4. イノベーション政策
5. イノベーション政策
6. デジタル政策
7. デジタル政策
8. デジタル政策
9. デジタル政策
10. グリーン政策
11. グリーン政策
12. グリーン政策
13. グリーン政策
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

指定した論文を予め読み、関係情報を収集した上で、授業に参加していただく。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

平常点(100%)

テキスト (Textbooks)

1. C.H.Joergensen. 2018. *Vocational Education in the Nordic Countries*. Routledge (ISBN:9781138219809)
2. J.L.Christensen et.al.. 2021. *Globalisation, New and Emerging Technologies, and Sustainable Development—the Danish Innovation System in Transition*. Routledge (ISBN:9780367480479)
3. Cecilia Rikap et.al.. 2021. *The Digital Innovation Race*. Palgrave (978303089442)
4. Cristina Chaminade et.al.. 2018. *National Innovation Systems*. Elger (ISBN:9781785362019)
5. Linda L.Andersen et.al.. 2016. *Social Entrepreneurship and Social Enterprises— Nordic Perspectives*. Routledge (ISBN:9781138656260)

上記はテキストの例である。日本語の論文を取り上げることもある。受講者の問題意識に基づいて選定する。

参考文献 (Readings)

1. Bent Greve. 2015. *Den sociale og innovative velfærdsstat*. Hans Reitzel (ISBN:9788741261065)
2. Mazzucato. 2013. *The entrepreneurial state : debunking public vs. private sector myths*. Anthem (ISBN:9780857282521)
3. Augustin K. Fosu. 2013. *Development success : historical accounts from more advanced countries*. Oxford Univ. (ISBN:9780199660704)
4. 豊泉周治, 2021, 『幸福のための社会学—日本とデンマークの間』, 星雲社 (ISBN:9784434292644)
5. Francis Fukuyama. 2014. *Political order and political decay : from the industrial revolution to the globalization of democracy*. Farrar, Straus and Giroux (ISBN:9780374227357)

6. Ove Kaj Pedersen. 2011. *Konkurrencestaten*. Hans Reitzel (ISBN:9788741251561)

7. he Observatory of Public Sector Innovation in OECD Directorate for Public Governance. 2021. *Public Sector Innovation Scan of Denmark*. OECD

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA333／労働経済特殊講義1 (Advanced Lecture on Labor Economics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本の労使関係・雇用慣行		
担当者名 (Instructor)	首藤 若葉(SHUTO WAKANA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA315 労働経済特論1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

日本の労使関係・雇用慣行について、その特質、形成過程を理解したうえで、今日の変化を議論する。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容 (Course Contents)

かつて日本の国際競争力を牽引してきたとされる日本型雇用慣行は、今日、大きく揺らいでいる。有期雇用者や短時間労働者の増加、職務給や成果・業績給制度の導入がすすむなか、長期に安定した雇用や年功型の賃金体系は、過去の産物として語られることが多い。本講義では、まず日本的雇用システムとは何であったのかについて、その形成過程から論じ、そこに内包されてきた問題を検討する。同時に、賃金制度、技能育成のあり方、労使関係について、先進諸外国の実態と比較することで、日本の特質を明らかにする。そのうえで、今日、日本型雇用慣行が質的にどう変わりつつあるのかを議論し、今後の労使関係、雇用慣行を展望する。

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 参加者による報告、議論(1)
3. 参加者による報告、議論(2)
4. 参加者による報告、議論(3)
5. 参加者による報告、議論(4)
6. 参加者による報告、議論(5)
7. 参加者による報告、議論(6)
8. 参加者による報告、議論(7)
9. 参加者による報告、議論(8)
10. 参加者による報告、議論(9)
11. 参加者による報告、議論(10)
12. 参加者による報告、議論(11)
13. 参加者による報告、議論(12)
14. 全体総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義のなかで適宜指示する

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告および発言を総合的に評価する(100%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

テキストは参加者と相談して決める。

参考文献 (Readings)

講義のなかで適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA334／労働経済特殊講義2 (Advanced Lecture on Labor Economics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル化と労使関係の変化		
担当者名 (Instructor)	首藤 若菜(SHUTO WAKANA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA316 労働経済特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

グローバル化に対応した労使関係の枠組みについて議論し、理解を深める。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容 (Course Contents)

経営のグローバル化が進展する一方で、労働組合による国際連帯の強化が叫ばれて久しいが、日本の多くの労働組合は、未だ一国的な活動にとどまっている。本講義では、企業のグローバル化と労働組合の一国的運動という労使間のズレが何をもたらすのか、議論する。そのうえで、欧州を中心に、多国籍企業に対する社会的規制や労働組合のネットワークの拡大のケースを考察し、グローバル化に対応した労使関係のあり方を検討したい。

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 参加者による報告、議論(1)
3. 参加者による報告、議論(2)
4. 参加者による報告、議論(3)
5. 参加者による報告、議論(4)
6. 参加者による報告、議論(5)
7. 参加者による報告、議論(6)
8. 参加者による報告、議論(7)
9. 参加者による報告、議論(8)
10. 参加者による報告、議論(9)
11. 参加者による報告、議論(10)
12. 参加者による報告、議論(11)
13. 参加者による報告、議論(12)
14. 全体総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業のなかで適宜指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告および発言を総合的に評価する(100%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

テキストは参加者と相談して決める。

参考文献 (Readings)

授業のなかで適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA335／中小企業特殊講義1 (Advanced Lecture on Small Business Problems and Studies 1)		
担当者名 (Instructor)	遠山 恭司(TOYAMA KYOJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA317 中小企業特論1と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

日本経済におけるものづくり中小企業の理論・実態を踏まえて、グローバル化する経済構造と分業体制、研究開発や知財連携、市場創造など、産業競争力基盤を体系的に理解し、政策的含意を抽出する能力を身につける。

授業の内容(Course Contents)

日本産業の国際競争力が問われて久しい。全国の企業数、事業所数は減少傾向にあるが、付加価値を増大させ、あるいは海外とのネットワーク形成で雇用を維持している分野や地域も存在する。本講では、港徹雄著『日本のものづくり 競争力基盤の変遷』日本経済新聞出版社を取り上げ、各章ごとに輪読形式で日本のものづくり産業の競争力基盤を考察していく。

受講者は、各章を読むだけでなく、そこで示されている参考文献や関連する複数の論文をあわせて読み込んで、毎回、レジュメ形式にて報告と討論を行う。ものづくりの思想と方法に日本企業の競争力を見いだす議論が多いが、ここでは分業の効率化からR&D型プロダクトイノベーションへの競争要因シフトを提示している。こうした論理を複眼的で多角的に検討し、中小企業・ベンチャー企業の存立基盤と役割、政策課題を考察する。

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 競争力基盤と国際分業
3. 分業システム転換と国際競争力
4. 分業システム転換と世界不況
5. 日本産業の競争力要因
6. 国際競争環境の変化と海外投資
7. 競争力基盤と国際移転性
8. 研究開発投資と知的生産性
9. 起業選択とベンチャーのリスク耐性
10. 大企業と中小企業との知的連携
11. 中小企業の共同技術開発
12. 21世紀の知的競争力基盤
13. 下請システムの源流と進化
14. パワーと信頼形成による分業システム進化

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は、履修登録完了後に Blackboard 上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告と討論の参加・貢献度(60%)／授業参加度(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 港徹雄、2011、『日本のものづくり 競争力基盤の変遷』、日本経済新聞出版社 (ISBN:9784532134082)

参考文献(Readings)

1. 藤本隆宏、2004、『日本のもの造り哲学』、日本経済新聞出版社 (ISBN:9784532311391)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

授業に関する連絡は、立教 G メールを利用します。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA336／中小企業特殊講義2 (Advanced Lecture on Small Business Problems and Studies 2)		
担当者名 (Instructor)	遠山 恭司(TOYAMA KYOJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA318 中小企業特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

日本の中小企業とグローバル経済を有機的に考察し、「東アジア」における現代的諸問題を切り口に複眼的な思考をもった研究推進能力の形成を目指す。

授業の内容 (Course Contents)

本授業では、中小企業の事業活動範囲・ビジネスモデル・存立構造を東アジア大の経済社会構造の中でとらえ、主体的な姿勢で考察することが肝要である。経済大国の中国・日本、韓国・台湾、東南アジアの間には、産業、企業、技術、生産、組織、分業といった複雑な「競争と協調」、「成長・発展」のメカニズムが存在する。これらを俯瞰的かつ複眼的に検討し、日本中小企業の諸問題と可能性を考察する。授業は受講生によるテキストの輪読と報告、それに対するディスカッションによって進められる。

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 新興アジア経済論の視角
3. 歴史の中のアジア・世界の中のアジア
4. アジア化するアジア
5. キャッチアップ型工業論再考
6. 「鼎構造」論
7. 中所得国の罠
8. 社会大変動の時代
9. 社会発展なき成長
10. 経済と社会のバランス 日本の役割
11. 東アジアと中小企業1
12. 東アジアと中小企業2
13. 東アジアと中小企業3
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は、初回授業時(ガイダンス)にて、履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告とディスカッション(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 末廣 昭、2014、『新興アジア経済論』、岩波書店 (978-4-00-028742-5 C0333)
- そのほか、必要に応じて指示する。

参考文献 (Readings)

1. 遠藤 環他、2018、『現代アジア経済論』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-18442-8)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

授業に関する連絡は、立教 G メールを利用します。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA337／アジア経済特殊講義1 (Advanced Lecture on Structure of Asian Economy 1)		
担当者名 (Instructor)	郭 洋春(KWAK YANGCHOON)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

アジア各国の経済構造の分析を通し、アジア地域が抱えている諸問題の解明とその解決方法について考察する。

Through the analysis of the economic structure of Asian countries, we will consider the elucidation of various problems in the Asian region and their solutions.

授業の内容 (Course Contents)

テキストの輪読を通して、アジア地域が抱えている諸問題－所得格差、環境破壊、ジェンダー問題、地域紛争等－の発生の背景、課題などを考える。

授業の進め方は、履修者による報告と議論を通して上記問題を履修者自らの頭で考える力を養う。

Through reading the textbook, we will consider the background and issues of various problems (income disparity, environmental destruction, gender problems, regional conflicts, etc.) that the Asian region has.

As for how to proceed with the lessons, students will develop the ability to think about the above problems by themselves through reports and discussions by the students.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 経済開発の今日的課題
3. 萌芽期の経済開発 1
4. 萌芽期の経済開発 2
5. 分岐する経済開発 1
6. 分岐する経済開発 2
7. 今日の経済開発のメインストリーム
8. 量から質へと転換する経済開発 1
9. 量から質へと転換する経済開発 2
10. 持続可能な経済開発 1
11. 持続可能な経済開発 2
12. 平和のための経済開発
13. 21 世紀の経済開発
14. まとめ

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストは事前に読んでくること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業中での発表(50%)/授業での発言(30%)/授業への貢献(20%)

テキスト (Textbooks)

最初の授業で案内する

参考文献 (Readings)

1. 郭洋春編著、2013、『開発リスクの政治経済学』、文眞堂 (ISBN:483094806X)
2. 郭洋春著、2016、『国家戦略特区の正体』、集英社
3. 郭洋春、2022、『100 均資本主義～脱成長社会「幸せな暮らし」のつかみ方』、プレジデント社 (ISBN:978-4-8334-2465-3)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA338／アジア経済特殊講義2 (Advanced Lecture on Structure of Asian Economy 2)		
担当者名 (Instructor)	郭 洋春(KWAK YANGCHOON)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

アジアで起きている諸問題を学ぶことで、21世紀のアジア、日本とアジアとの関係などを理解する。アジアのダイナミズムの理解を通して、日本経済の抱えている課題を振り返る。最終的には世界経済の中で、アジア経済の占める位置・意義について理解する。

By studying various problems occurring in Asia, we will understand Asia in the 21st century and the relationship between Japan and Asia. Through understanding the dynamism of Asia, we will look back on the challenges facing the Japanese economy. Finally, understand the position and significance of the Asian economy in the world economy.

授業の内容 (Course Contents)

アジアで起きている諸問題を解説しながら、その発生要因、解決方法等を理解する。また、アジアの一員である日本が、今後アジア諸国とどのように付き合っていくのかを解説することで、アジアの中の日本の果たすべき役割について考える契機とする。授業の後半にはバズセッション(グループディスカッション)を行い、受講生自らが上記問題について考える力を養えるようにする。

While explaining various problems that are currently occurring in Asia, understand the causes and solutions. In addition, by explaining how Japan, which is a member of Asia, will deal with Asian countries in the future, it will be an opportunity to think about the role that Japan should play in Asia. Buzz sessions (group discussions) will be held in the latter half of the class so that students can develop their own ability to think about the above problems.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 世界が注目するアジア
3. なぜアジアは経済成長したのか 1
4. なぜアジアは経済成長したのか 2
5. 巨大サプライチェーンの拠点・アジア
6. 本物を凌駕する？アジアのコピー商品
7. アジアのコピー商品とどう向き合うべきか
8. 成長戦略と化したアジアのエンタメ 1
9. 成長戦略と化したアジアのエンタメ 2
10. 新たな成長戦略としてのインバウンド
11. 日本のインバウンド戦略
12. 増える人口・減る食糧
13. アジアの領土問題
14. アジアの環境問題

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストは事前に読んできて、持参すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業での報告(50%)/授業中の発言(30%)/授業への貢献(20%)

テキスト (Textbooks)

第1回授業で提示

参考文献 (Readings)

1. 郭洋春、2013、『TPP すぐそこに迫る亡国の罟』、三交社 (ISBN:4879197122)
2. 郭洋春、2022、『100 均資本主義～脱成長社会「幸せな暮らし」のつかみ方』、プレジデント社 (ISBN:978-4-8334-2465-3)
3. 郭洋春、2016、『国家戦略特区の正体』、集英新書

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA339／証券経済特殊講義1 (Advanced Lecture on Economic Theory of Securities 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代の資本主義システムを「金融化(ファイナンス化)」という観点から分析し、金融システムや金融市場の歴史的な発展を理論的・実証的に解明していく。 Students will analyze modern capitalism system from financialization perspective. Students will clarify theoretically and empirically historical development of financial system and market.		
担当者名 (Instructor)	三谷 進(MITANI SUSUMU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA321 証券経済特論1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

現代の資本主義システムを「金融化(ファイナンス化)」という観点から分析し、金融システムや金融市場の歴史的な発展を理論的・実証的に解明していく。

尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

Students will analyze modern capitalism system from financialization perspective. Students will clarify theoretically and empirically historical development of financial system and market.

授業の内容 (Course Contents)

この授業では、コスタス・ラパヴィツァスの『金融化資本主義』(2018年、日本経済評論社)をテキストにしながら、現代の金融市場の基本的な仕組みや、金融機関における証券投資や資産運用のあり方について学んでいく。また、授業の進め方としては、テキストを輪読しながら、報告者による発表とその内容に関する討論を行っていく。

In this class, students will use Financialised Capitalism by Costas Lapavistas (2018, published by Nihon Keizai Hyoronsha) as textbook. Students will learn about basic framework of modern financial market, securities investment, and asset management in financial institutions. This class will proceed with textbook reading, reporters' presentations, and discussion about these contents.

授業計画 (Course Schedule)

1. 授業のガイダンス
2. 金融化の分析視角について
3. 金融化の文献および理論
4. 金融化についてのアプローチ
5. 金融の優位の第一波動
6. 資本主義の変化についてのヒルファディングの分析
7. 株式市場と金融資本
8. 金融化資本主義の貨幣的基礎
9. 現代貨幣に関する理論
10. 金融化資本主義における新たな形態の貨幣
11. 金融化の流動領域：金融と資本主義経済
12. 資本主義的な社会的条件が要求する金融システム
13. 資本市場、投資銀行、機関投資家および金融システムのデザイン
14. 授業の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの事前学習と、発表時のレジュメ等の準備が必要となる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(50%)／報告および討論(25%)／レポート(25%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

1. コスタス・ラパヴィツァス、2018、『金融化資本主義』、日本経済評論社 (ISBN:9784818825000)

参考文献(Readings)

参考文献については、授業の際に、適宜、指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA340／証券経済特殊講義2 (Advanced Lecture on Economic Theory of Securities 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代の資本主義システムを「金融化(ファイナンス化)」という観点から分析し、金融システムや金融市場の歴史的な発展を理論的・実証的に解明していく。 Students will analyze modern capitalism system from financialization perspective. Students will clarify theoretically and empirically historical development of financial system and market.		
担当者名 (Instructor)	三谷 進(MITANI SUSUMU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA322 証券経済特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

現代の資本主義システムを「金融化(ファイナンス化)」という観点から分析し、金融システムや金融市場の歴史的な発展を理論的・実証的に解明していく。

尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

Students will analyze modern capitalism system from financialization perspective. Students will clarify theoretically and empirically historical development of financial system and market.

授業の内容 (Course Contents)

この授業では、コスタス・ラパヴィツァスの『金融化資本主義』(2018年、日本経済評論社)をテキストにしながら、現代の金融市場の基本的な仕組みや、金融機関における証券投資や資産運用のあり方について学んでいく。また、授業の進め方としては、テキストを輪読しながら、報告者による発表とその内容に関する討論を行っていく。

In this class, students will use Financialised Capitalism by Costas Lapavistas (2018, published by Nihon Keizai Hyoronsha) as textbook. Students will learn about basic framework of modern financial market, securities investment, and asset management in financial institutions. This class will proceed with textbook reading, reporters' presentations, and discussion about these contents.

授業計画 (Course Schedule)

1. 授業のガイダンス
2. 金融利潤の難問
3. 株式保有から生じる金融利潤
4. 金融化的蓄積の背景
5. 国家が形作る金融化的蓄積の「チャネル」
6. 成熟した金融化と従属的金融化
7. 実物的蓄積と金融的蓄積の間の区分
8. バブルの崩壊と金融危機の発生
9. 国家の介入と危機の財政化
10. 金融のコントロール
11. 第二次世界大戦後の金融規制の軌跡
12. 金融化の条件下における規制
13. 金融化への対抗:いくつかの結論
14. 授業の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの事前学習と、発表時のレジュメ等の準備が必要となる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(50%)／報告および討論(25%)／レポート(25%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

1. コスタス・ラパヴィツァス、2018、『金融化資本主義』、日本経済評論社 (ISBN:9784818825000)

参考文献(Readings)

参考文献については、授業の際に、適宜、指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA341／日本経済特殊講義1 (Advanced Lecture on Japanese Economic 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	学位論文執筆に向けた準備プロセス		
担当者名 (Instructor)	林 采成(LIM CHAISUNG)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA325 日本経済特論1と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する基本的な知識を修得し、修士論文構想をまとめ、発表できる力を身につける。

尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

The Graduate School of Economics' curriculum objective is that "students will receive a general yet specialized education in the College of Economics, researching economics and accounting, mastering their intricacies, while cultivating character based in Christian virtues and contributing to cultural progress." In order to stay true to this objective, students will acquire fundamental knowledge on economics and accounting. They will finalize their plans for their master's thesis, sharpening their presentation abilities.

授業の内容(Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文執筆を準備するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文構想発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。構想発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。

なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少ないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis concept presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the concept presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画(Course Schedule)

1. 受講の準備。1 指導教員を決定し、2 研究科ガイダンスを受け、3 初回受講の確認を経て、4 初回指導にのぞむこと。
2. 論文仮テーマ(仮タイトル)設定。そのために「スケルトンシート」を作成する。
3. キーワードの列挙。関心ある領域の、関心あるテーマに関連したキーワードを列挙することで、自身の関心を明示し洗い出す補助作業とする。
4. 問題意識の確認。その課題に取り組もうと思った動機やきっかけを書き出すことで、テーマを意識化する。
5. 目標と成果の絞り込み。その研究によって何を明らかにできるのか、何が得られるのかを明示する。「目標規定文」にまで絞り込むための第一歩とする。
6. 問いをたてる。疑問や好奇心を出発点にし、気になることがらについて、「なぜ～なのか」という疑問の形で課題をつかむ。「なぜ、おもしろいと思ったのか」「本当に、そうなのか」「それだけだと言い切れるか」など、多様な手がかりがある。
7. 仮説をたてる。テーマによっては、仮説の形で課題設定できる場合がある。論証(反証)可能な命題として示す。
8. 主張を明示する。テーマによっては仮説の形で課題設定しにくい場合もある。「～ではないか」「～のはずだ」という主張として、課題を設定してもよい。
9. アプローチ(研究手法)を選ぶ。研究領域によって中心となる手法が異なる。「先行研究のサーベイと考察」は、ほぼすべての領域に共通する基本的な手法といえる。
10. その他のアプローチとして、「史料サーベイと考察」、「アンケート調査と統計処理」、「インタビューと整理」、「実験と考察」、「モデル化とシミュレーション」なども。
11. スクリーニング。関連しそうな文献・資料・史料・データ・材料などを収集し、ざっと読む。
12. 図書や雑誌記事等の検索。Webcat Plus1, OPAC, CiNii Books, GeNii, Google Scholar, CiNii Articles, magazineplus, WorldCatなどを目的に応じて用いる。
13. 主要参考文献リストの作成。文献リスト作成のきまりに従って書き出していく。その後も追加・修正等を行う。
14. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員

や専門家のアドバイスも受ける。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 林采成、2005、『戦時経済と鉄道運営―「植民地」朝鮮から「分断」韓国への歴史的経路を探る』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130460842)
 2. 林采成、2016、『華北交通の日中戦争史』、日本経済評論社 (ISBN:978-4818824317)
 3. 林采成、2019、『鉄道員と身体: 帝国の労働衛生』、京都大学学術出版会 (ISBN:978-4814001842)
 4. 林采成、2019、『飲食朝鮮―帝国の中の「食」経済史』、名古屋大学出版会 (ISBN:978-4815809409)
 5. 武田晴人・林采成、2019、『歴史としての高成長: 東アジアの経験』、京都大学学術出版会 (ISBN:978-4814002474)
 6. 林采成、2021、『東アジアのなかの満鉄―鉄道帝国のフロンティア』、名古屋大学出版会 (ISBN:978-4815810139)
 7. 林采成・武田晴人、2022、『企業類型と産業育成: 東アジアの高成長史』、京都大学学術出版会 (ISBN:978-4814004485)
- 論文執筆に関わる参考文献は各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA342／日本経済特殊講義2 (Advanced Lecture on Japanese Economic 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	論文執筆に向けたプロセス		
担当者名 (Instructor)	林 采成(LIM CHAISUNG)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA326 日本経済特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「経済学部における一般的ならびに専門的教養の上に、経済学、会計学を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」が実現するように、経済学、会計学に関する応用的な知識を修得し、修士論文について中間発表、草稿発表を行ったうえで、論文を作成し、提出する。尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

Students will study universal and specialized subjects found in curriculum of Graduate School of Economics, “researching and understanding in depth general and specialized studies in College of Economics as well as economics, accountancy, and train one's personality based on the Christian teaching and to contribute to cultural development”. Students will acquire practical knowledge on economy and accounting. They will make interim and draft presentations before creating and submitting their theses.

授業の内容 (Course Contents)

論文執筆に向けた「スケルトンシート」の作成を通じ、論文を執筆するための方法を身につける。自分の研究のオリジナリティを意識しながら、先行研究の検討を行う。修士論文中間発表会に向けて、論点を確認し論文の構成を考える。中間発表会における検討をうけて、スケルトンシートを再確認し、論文構想の推敲を行う。修士論文草稿発表会を経て、論文を作成し提出する。なお、下記はあくまで理念的、平均的な進行計画を例示したものである。専修領域ごとに異なる指導となったり、個別指導となったりする部分が少なくないこと、同時並行して進めたり相前後して進めたりすべき部分を含むこと、立ち返って繰り返すべき部分を含むことなどに留意されたい。

Students will learn how to prepare for their thesis writing by creating skeleton sheets. Students will bear in mind their research originalities while discussing about prior researches. To prepare for their master's thesis interim presentation, students will check their arguments and think about their thesis structures. After discussion at the interim presentation, students will recheck their skeleton sheets and polish their thesis concepts. After master's thesis draft presentation, students will create and submit their theses.

The following is a conceptual, average progress plan. Students should be aware that they may receive different instructions depending on their specializations. In addition, there will be frequent private instructions, simultaneous progresses, and repetition of certain parts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 先行研究の整理。スクリーニングによって重要なものを絞り込み、精読・検討すべき基本的な先行研究を定める。指導教員や専門家のアドバイスも受ける。
2. 先行研究の精読・検討。必要に応じてメモをとり、レジュメ化する。疑問点を書き出す。疑問解決への努力の中から新たな課題発見やオリジナリティ獲得につながることもある。
3. キーワードのマッピング。すでに書き出し、必要に応じて追加しておいたキーワードを見直す。相互に関連するいくつかのキーワードをまとめ、論点としてとらえなおす。
4. 論点の列挙。研究目標(成果)を「問い」「仮説」や「目標規定文」などの形で明示できたら、論証のために必要な論点を列挙してみる。
5. 論文の構成。列挙された論点を取捨し、最適な叙述の順序(論証の順序)を模索する。すなわち論文の構成(章立て)を考える。
6. オリジナリティの確認。広く認められた学術成果を引用しつつ、従来なかった(すなわちオリジナリティのある)考えや主張、資料などを追加できているかどうか確認する。
7. 注の付け方の確認。他人の学術成果を引用してよいが、出所(出典)を明示し、引用していることを注記しなければ、「盗用」「剽窃」となり、厳しく罰せられる。
8. 注の付け方のルール。注の付け方のきまりを身につける。
9. 参考文献リスト作成のルール。参考文献の表示のしかたのきまりを身につける。
10. 論文草稿発表会(11-12月)での報告。演習特別指導や特論での発表となる場合もある。
11. 論文草稿発表会における反省、コメント等をふまえて、再検討、再構成しながら、論文執筆。
12. 論文の再確認。スケルトンシートにも立ち返りながら、論文を見直すこと。

13. 論文の再確認。
14. 論文の推敲。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Master of Writing(立教大学 大学教育開発・支援センター)を入手し、論文執筆に必要な準備を進めておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

平常点(100%)

すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 林采成、2005、『戦時経済と鉄道運営―「植民地」朝鮮から「分断」韓国への歴史的経路を探る』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130460842)
 2. 林采成、2016、『華北交通の日に戦争史』、日本経済評論社 (ISBN:978-4818824317)
 3. 林采成、2019、『鉄道員と身体: 帝国の労働衛生』、京都大学学術出版会 (ISBN:978-4814001842)
 4. 林采成、2019、『飲食朝鮮―帝国の中の「食」経済史』、名古屋大学出版会 (ISBN:978-4815809409)
 5. 武田晴人・林采成、2019、『歴史としての高成長: 東アジアの経験』、京都大学学術出版会 (ISBN:978-4814002474)
 6. 林采成、2021、『東アジアのなかの満鉄―鉄道帝国のフロンティア』、名古屋大学出版会 (ISBN:978-4815810139)
 7. 林采成・武田晴人、2022、『企業類型と産業育成: 東アジアの高成長史』、京都大学学術出版会 (ISBN:978-4814004485)
- 論文執筆に関わる参考文献は各研究指導教員の指示・助言に従うこと。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

【課題に対するフィードバック】最終授業時に、全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA343／都市政策特殊講義1 (Advanced Lecture on Urban Policy 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	都市と地域の経済学		
担当者名 (Instructor)	香川 涼亮(KAGAWA RYOSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA327 都市政策特論1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

- ・経済学の理論的枠組みに沿って、都市と地域に関する諸問題を分析できるようになる。
- ・大学教員や実務家となることを念頭に、都市と地域の経済学に関する考え方を、論理的に説明できるようになる。また受講者間の議論を主導することができるようになる。なお、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容 (Course Contents)

都市経済学の基本概念と理論的枠組みをカバーしたテキストを演習形式で学ぶ。導入として経済活動の分布は空間的に不均一であることを確認する。前半では都市経済学の枠組みにおいて、都市内構造および複数都市間の規模の関係を考察する。後半では空間経済学を用いて、経済活動の分布(集積が起きる理由)をヒト・モノの流れを内生化して説明できることを理解する。授業においては、受講者によるプレゼンテーションおよび、活発な議論を重視する。使用するテキストや授業の内容は、受講者の理解度や関心領域によって変更することがある。

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: A Spiky World
2. Geo-Human Interaction (1)
3. Geo-Human Interaction (2)
4. Space Within Cities (1)
5. Space Within Cities (2)
6. Space Within Cities (3)
7. City Systems (1)
8. City Systems (2)
9. The Core Model (1)
10. The Core Model (2)
11. The Core Model (3)
12. Extensions of the Core Model (1)
13. Extensions of the Core Model (2)
14. Extensions of the Core Model (3)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・予習として毎回テキストを精読し、授業内での議論に備えること。
- ・復習として授業内で課す練習問題を解き、説明できるようにすること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内での報告や議論への貢献(70%)／最終レポート(Final Report)(30%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

1. Steven Brakman, Harry Garretsen and Charles van Marrewijk. 2019. *An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World* 3rd. edition. Cambridge University Press (ISBN:9781108407366)
- 英文のテキストを利用するが、適宜和文の資料を紹介して受講者の理解に資する。
初回授業時までには用意する必要はない。

参考文献 (Readings)

1. 門川和男、2020、『例題で学ぶ 地域経済学入門』、学術研究出版 (ISBN:9784865844436)
2. 神取道宏、2014、『ミクロ経済学の力』、日本評論社 (ISBN:9784535557567)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

履修の前提として、中級レベルのミクロ経済学を習得していることが望ましい。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA344／都市政策特殊講義2 (Advanced Lecture on Urban Policy 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	都市・地域の実証経済分析		
担当者名 (Instructor)	香川 涼亮(KAGAWA RYOSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA328 都市政策特論2と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

- ・経済学の理論的枠組みに沿って、都市と地域に関する諸問題を分析できるようになる。
- ・計量経済学の手法を用いた実証分析や政策評価の方法を理解し、研究能力を身につける。
- ・大学教員や実務家となることを念頭に、実証分析・政策評価手法についての確に説明できるようになる。また受講者間の議論を主導することができるようになる。なお、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容(Course Contents)

都市・地域の実証経済分析をカバーしたテキストを演習形式で学ぶ。導入として空間固有の指標である不平等指標および経済集積指標に触れるとともに、因果推論や自然実験の手法について確認する。前半では都市経済学のうち、集積の経済の実証分析を扱う。後半では経済地理学の実証分析を扱い、自国市場効果、空間的賃金構造、交易費用といったトピックの実証分析を理解する。

また分析手法にとどまらず実際の分析事例を取り上げて検討し、受講者自身の研究ができるように統計ソフトや GIS の活用についての演習を行う。

授業においては、受講者によるプレゼンテーションおよび、活発な議論を重視する。使用するテキストや授業の内容は、受講者の理解度や関心領域によって変更することがある。

授業計画(Course Schedule)

1. Introduction: Empirical Methods
2. Inequality and Economic Concentration Measures
3. Spatial Concentration and Productivity
4. The Empirics of Agglomeration (1)
5. The Empirics of Agglomeration (2)
6. The Empirics of Agglomeration (3)
7. Exercises in The Empirics of Agglomeration
8. Empirics of Economic Geography (1)
9. Empirics of Economic Geography (2)
10. Empirics of Economic Geography (3)
11. Empirics of Economic Geography (4)
12. Exercises in Empirics of Economic Geography
13. Policy Implications (1)
14. Policy Implications (2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・予習として毎回テキストを精読し、授業内での議論に備えること。
- ・復習として授業内で課す練習問題を解き、説明できるようにすること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内での報告や議論への貢献(70%)／最終レポート(Final Report)(30%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト(Textbooks)

1. Steven Brakman, Harry Garretsen and Charles van Marrewijk. 2019. *An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World* 3rd. edition. Cambridge University Press (ISBN:9781108407366)
- 英文のテキストを利用するが、適宜和文の資料を紹介して受講者の理解に資する。

参考文献(Readings)

1. 鹿野繁樹、2015、『新しい計量経済学 データで因果関係に迫る』、日本評論社 (ISBN:9784535557710)
2. 加藤久和、2019、『やさしい計量経済学: プログラミングなしで身につける実証分析』、オーム社 (ISBN:9784274224539)

3. 河端瑞貴、2022、『事例で学ぶ経済・政策分析のための GIS 入門: QGIS,R,GeoDa 対応』、古今書院 (ISBN:9784772242301)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

履修の前提として、大学院前期課程レベルのミクロ経済学・計量経済学を習得していることが望ましい。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA345／アメリカ経済特殊講義1 (Advanced Lecture on American Economy 1)		
担当者名 (Instructor)	山縣 宏之(YAMAGATA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA329 アメリカ経済特論1と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

アメリカ経済に関連する内外の研究論文を講読する。あわせて参加者の研究テーマ設定の一助となるよう研究指導を行う。尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容(Course Contents)

博士後期課程学生向けに、アメリカ経済に関連する論文や文献を精読する。2022年度は河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康編著(2021)『現代アメリカ政治経済入門』ミネルヴァ書房などを検討対象として想定している。学会報告や博士論文執筆に向けた、受講者の研究報告を行う。研究テーマの設定に際して重要となるのは当該分野のすぐれた研究者を特定し、その著作や論文を熟読理解し未だ説明されていない論点を見出すことである。受講者には早期にこの課題に取り組むことを推奨している。

授業計画(Course Schedule)

1. 開講ガイダンス
2. テキスト検討(1)
3. テキスト検討(2)
4. テキスト検討(3)
5. 受講者の研究報告およびディスカッション(1)
6. テキスト検討(4)
7. テキスト検討(5)
8. テキスト検討(6)
9. 受講者の研究報告およびディスカッション(2)
10. 博士後期院生に必要なアカデミックスキル(学術論文読解法および先行研究評価法)教授(英語論文読解を含む)(1)
11. 博士後期院生に必要なアカデミックスキル(学術論文読解法および先行研究評価法)教授(英語論文読解を含む)(2)
12. 博士後期院生に必要なアカデミックスキル(学術論文読解法および先行研究評価法)教授(英語論文読解を含む)(3)
13. 受講者の研究報告およびディスカッション(3)
14. 総括 受講者の研究成果報告およびディスカッション、今後の研究計画作成のアドバイス

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。大学院生は自立した研究者を目指し、指定文献や自らの研究報告に関する十分な予習を行うこと。講義内容やテキスト読解に関する復習も継続することが望まれる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告、ディスカッション、その他研究に関わる成果(100%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト(Textbooks)

1. 藤木剛康編、2012、『アメリカ政治経済論』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623062102)
 2. 河音琢郎・藤木剛康編、2016、『オバマ政権の経済政策』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623077939)
 3. 河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康(編著)、2021、『現代アメリカ政治経済入門』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623092673)
- 「授業の内容」に記載した文献を含め受講生と相談して決定する。

参考文献(Readings)

講義中に適宜指示する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA346／アメリカ経済特殊講義2 (Advanced Lecture on American Economy 2)		
担当者名 (Instructor)	山縣 宏之(YAMAGATA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA330 アメリカ経済特論2と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

博士後期課程院生の研究に資する、最新の政策資料や政策論争に関する研究文献の読み込みを進め、アメリカ経済政策の最新の展開を理解する。あわせて参加者に研究指導を行う。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容(Course Contents)

アメリカ経済特殊講義1に続き、「現代アメリカ政治・経済の新展開」を検討テーマとする。この講義ではアメリカ経済政策の基本線を巡る最新の政策論争を検討する。博士後期課程院生の参加者の希望があれば、種々の文献の輪読を行うことも可能である。多様なジャンルに対応している。

博士後期課程院生の研究に役立つよう、受講者の研究報告を行う。研究テーマの設定に際して重要となるのは当該分野のすぐれた研究者を特定し、その著作や論文を熟読理解し未だ解明されていない論点を見出すことである。博士論文執筆を想定し、受講者には早期にこの課題に取り組むことをお願いしたい。

授業計画(Course Schedule)

1. 開講ガイダンス
2. テキスト検討(1)
3. テキスト検討(2)
4. テキスト検討(3)
5. テキスト検討(4)
6. 受講者の研究報告およびディスカッション(1)
7. 政策資料・政策論争に関する論文・資料読解(1)
8. 政策資料・政策論争に関する論文・資料読解(2)
9. 政策資料・政策論争に関する論文・資料読解(3)
10. 政策資料・政策論争に関する論文・資料読解(4)
11. 受講者の研究報告およびディスカッション(2)
12. 政策資料・政策論争に関する論文・資料読解(5)
13. 政策資料・政策論争に関する論文・資料読解(6)
14. 総括 受講者の研究成果のまとめとディスカッション 博士論文執筆に向けた研究アドバイス等

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。大学院生は自立した研究者を目指し、指定文献や自らの研究報告に関する十分な予習を行うこと。講義内容やテキスト読解に関する復習も継続することが望まれる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容、ディスカッション内容、その他研究に関わる成果(100%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト(Textbooks)

1. 河音琢郎・藤木剛康(編著)、2008、『G・W・ブッシュ政権の経済政策』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623052295)
 2. 河音琢郎・藤木剛康(編著)、2016、『オバマ政権の経済政策』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623077939)
 3. 河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康(編著)、2021、『現代アメリカ政治経済入門』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623092673)
- 受講生と相談して決定する。

参考文献(Readings)

講義中に適宜指示する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA347／現代企業特殊講義1 (Advanced Lecture on the Contemporary Firm 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	イノベーションと経済的価値		
担当者名 (Instructor)	坂本 義和(SAKAMOTO YOSHIKAZU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA343 現代企業特論1と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

本講義の目標は、現代社会、特に市場経済の観点において重要な概念となっているイノベーションについて理解することにあります。特にイノベーションとは何かを理解する目的から、イノベーションの概念に論者によって違いはあるのか、イノベーションが経済状況や経済体制に対してどのような影響を与えるのか、イノベーションはどのように実現されるのか、といった問題を検討することにあります。

授業の内容(Course Contents)

様々なトピックを通じてイノベーションの概観を理解する目的から、指定のテキスト『イノベーション』の各章を読解することから始めます。読解した内容をベースに関連する諸問題について議論を行います。ただし参加者の関心に応じて取り上げるトピックを柔軟に変更したいと思います。

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. イノベーションとは何か
3. イノベーションの測定
4. イノベーションのパターン
5. イノベーションを持続的に生み出す要因
6. 国によるイノベーションの違い
7. 産業によるイノベーションの違い
8. 企業によるイノベーションの違い
9. イノベーションと企業: 企業の特徴
10. イノベーションと企業: 企業の戦略
11. イノベーションと企業: 企業間関係
12. イノベーションと政策
13. イノベーションと社会
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習、復習等の指示は毎回の講義内において行います。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業貢献度(60%)／報告(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 清水洋、2022、『イノベーション』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-16602-8)

参考文献(Readings)

1. J. A. シュムペーター、1977、『経済発展の理論 上・下』、岩波書店 (978-4003414712・978-4003414729)
2. ブノワ ゴダン、2021、『イノベーション概念の現代史』、名古屋大学出版会 (ISBN:978-4815810467)
3. フリッツ アギヨン・セリヌ アントニン・サイモン ブネル、2022、『創造的破壊の力』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492396711)
4. ウィリアム J. ボーモル、2010、『自由市場とイノベーション』、勁草書房 (ISBN:978-4326503421)
5. 岡田羊祐、2019、『イノベーションと技術変化の経済学』、日本評論社 (ISBN:978-4535559141)
6. 鈴木潤・安田聡子・後藤晃 (編)、2021、『変貌する日本のイノベーション・システム』、有斐閣 (ISBN:978-4641165786)
7. 一橋大学イノベーション研究センター (編)、2001、『イノベーション・マネジメント入門』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4532134747)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

オンラインにて講義を行う回を設定する予定です。初回の講義の際にスケジュールを提示します。

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA348／現代企業特殊講義2 (Advanced Lecture on the Contemporary Firm 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	イノベーションとアントレプレナーシップ		
担当者名 (Instructor)	坂本 義和(SAKAMOTO YOSHIKAZU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA344 現代企業特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

本講義の目標は、現代社会、特に市場経済の観点において重要な概念となっているイノベーションについて理解することにあります。特にイノベーションの担い手とされるアントレプレナー（企業家）とそのあり方としてのアントレプレナーシップ（企業家精神）について理解することにあります。

授業の内容 (Course Contents)

様々なトピックを通じてイノベーションの概観を理解する目的から、指定のテキスト『アントレプレナーシップ』の各章を読解することから始めます。読解した内容をベースに関連する諸問題について議論を行います。ただし参加者の関心に応じて取り上げるトピックを柔軟に変更したいと思います。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. アントレプレナーシップとは何か
3. 新しいビジネスの機会
4. アントレプレナーシップの測定
5. 起業の方法
6. 資金調達の方法
7. 生存率を上げる方法
8. 撤退の決定
9. 組織とアントレプレナーシップ
10. アントレプレナーの特性
11. アントレプレナーと社会的ネットワーク
12. アントレプレナーシップと政策
13. アントレプレナーシップと社会
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

予習、復習等の指示は毎回の講義内において行います。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業貢献度(60%)/発言(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 清水洋、2022、『アントレプレナーシップ』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-16598-4)

参考文献 (Readings)

1. J. A. シュンペーター、1998、『企業家とは何か』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492370896)
2. J. A. シュンペーター、1995、『新装版 資本主義・社会主義・民主主義』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492370797)
3. R. F. ヘバート・A. N. リンク、1984、『企業者論の系譜』、ホルト・サウンダース・ジャパン (ISBN:978-4833750158)
4. 池本正純、2005、『企業家とはなにか』、八千代出版 (ISBN:978-4842913414)
5. 關智一、2017、『イノベーションと内部非効率性』、白桃書房 (ISBN:978-4561267027)
6. 加藤雅俊、2022、『スタートアップの経済学』、有斐閣 (ISBN:978-4641166011)
7. トム ニコラス、2022、『ベンチャーキャピタル全史』、新潮社 (ISBN:978-4105072919)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

オンラインにて講義を行う回を設定する予定です。初回の講義の際にスケジュールを提示します。

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期

課程より高度な達成水準を要求する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA349／会計学特殊講義1 (Advanced Lecture on Accounting 1)		
担当者名 (Instructor)	米山 正樹(YONEYAMA MASAKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA401 会計学特論1と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

この講義では、企業会計が経済社会で果たしている役割の理解を目指したうえで、利益計算の基本的なしくみ(財務諸表の基本的な作成ルール)の修得に努める。会計基準を単なる知識として学ぶのではなく、諸基準を背後で支えている基本的な前提や原則の解説に重点を置く。

授業の内容(Course Contents)

会計学特殊講義1(会計学特論1)では、現行会計の全体像を概観する。会計基準の詳細な規定は会計学特殊講義2(会計学特論2)で扱う。

授業計画(Course Schedule)

1. 財務諸表の概要
2. 財務報告制度の概要
3. 財務報告の目的
4. 会計測定の基本構造(貸借対照表と損益計算書との連繋)
5. 収益の認識と測定(事業投資と金融投資)
6. 収益の認識と測定(事業投資と金融投資)
7. 費用の認識と測定:在庫品(棚卸資産)に求められる会計処理
8. 費用の認識と測定:有形固定資産に求められる会計処理
9. 配分と評価:簿価の切り下げ(評価損失の計上)
10. 退職給付・税効果・外貨換算等の基礎
11. 退職給付・税効果・外貨換算等の基礎
12. 企業結合会計の基礎
13. 連結会計の基礎
14. 講義の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

入手した参考文献を講義の前後に読み解くように求める。『企業会計入門』については、週末の演習問題に積極的に取り組むことを薦める。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

講義に対する参加態度等を適宜加点材料として反映することありうる。

テキスト(Textbooks)

講義資料を配布する。講義は下記の参考文献に沿って進めるので、いずれか参加者自身にとって最適のものを選び、通読することを薦める。

参考文献(Readings)

1. 斎藤 静樹、『企業会計とディスクロージャー』、東京大学出版会
2. 斎藤 静樹、『企業会計入門』、有斐閣

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA350／会計学特殊講義2 (Advanced Lecture on Accounting 2)		
担当者名 (Instructor)	米山 正樹(YONEYAMA MASAKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA402 会計学特論2と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

会計基準の体系を支える基礎概念を修得することに努める。

授業の内容(Course Contents)

現行会計基準の概要を理解するとともに、それを支えている基礎概念や基本前提の理解も目指す。前期開講科目と異なり、この科目では主要な会計基準の要点を解説することに努める。もちろん、それはいわゆる築城解説を意味するのではない。企業会計の体系を支えている基礎概念と関連付けて、個別基準が求めている会計処理に合理的な解釈を与えることに努める。

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期科目(会計学特論1および会計学特殊講義1)に係る要点の復習
2. 金融商品会計(1)
3. 金融商品会計(2)
4. リース会計
5. 資産除去債務の会計
6. 退職給付会計
7. 税効果会計
8. 外貨換算会計
9. 収益認識会計
10. 合併・買収の会計
11. 事業分離の会計
12. 連結会計
13. その他の論点に関するアドホックな補足
14. 講義の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義の前後に、下記指定参考文献に目を通しておくことを薦める。「企業会計入門」「アドバンス財務会計」については、講義で扱った箇所に関わる章末問題に取り組むことを特に強く薦める。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

講義に対する参加態度等を適宜加点材料として反映することはありうる。

テキスト(Textbooks)

講義資料を配布する。特定テキストの講読を一律に求めることは避けるが、下記参考文献から1つを選び、それを講義の前後に読み解くことを薦める。

参考文献(Readings)

1. 斎藤 静樹、『企業会計とディスクロージャー』、東京大学出版会
2. 斎藤 静樹、『企業会計入門』、有斐閣
3. 大日方 隆、『アドバンス財務会計』、中央経済社

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA351／管理会計特殊講義1 (Advanced Lecture on Management Accounting 1)		
担当者名 (Instructor)	諸藤 裕美(MOROFUJI YUMI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA405 管理会計特論1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

経営管理者の意思決定や業績管理に有用な会計手法についての知識を習得し、適切な管理会計システムの設計・利用について自身で考えられるようになる。管理会計が人の行動や心理に与える影響にも焦点を当てる。

授業の内容 (Course Contents)

管理会計の中級テキストを輪読し、議論する。管理会計の理論体系、業績管理会計・意思決定会計の伝統的な手法ならびに戦略計画・実行のための管理会計手法について、計算手法とその背後にある理論的知識を習得し、企業にとって望ましい管理会計システムのあり方について考える手立てとする。管理会計が人の行動や心理に与える影響にも焦点を当てる。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 管理会計に関するテキストの輪読(1)
3. 管理会計に関するテキストの輪読(2)
4. 管理会計に関するテキストの輪読(3)
5. 管理会計に関するテキストの輪読(4)
6. 管理会計に関するテキストの輪読(5)
7. 管理会計に関するテキストの輪読(6)
8. 管理会計に関する論文の輪読(1)
9. 管理会計に関する論文の輪読(2)
10. 管理会計に関する論文の輪読(3)
11. 管理会計に関する論文の輪読(4)
12. 管理会計に関する論文の輪読(5)
13. 管理会計に関する論文の輪読(6)
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回の文献をよく読み、議論ができる状態にして授業に臨むこと。自分の報告担当章については、明らかでない点は他の文献等で調べて報告に臨むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席、報告・質疑応答・議論への取り組み(70%) / 小テスト・提出課題の質(30%)

テキスト (Textbooks)

論文のリーディングリストを渡す形を取る。

参考文献 (Readings)

1. 山本浩二ほか編著、2015、『スタンダードテキスト管理会計論 第2版』、中央経済社
2. 小林啓孝・伊藤嘉博・清水孝・長谷川恵一、2017、『スタンダード管理会計第2版』、東洋経済新報社
3. 廣本敏郎・挽文子、2015、『原価計算論 第3版』、中央経済社

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

開講時に、学部レベル(日商簿記工業簿記2級レベル)の管理会計の知識を習得していることを前提とする。正当な理由のない欠席は、減点の対象となる。英語論文を扱う場合がある。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA352／管理会計特殊講義2 (Advanced Lecture on Management Accounting 2)		
担当者名 (Instructor)	諸藤 裕美(MOROFUJI YUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA406 管理会計特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

経営管理者や組織成員の意思決定、行動、心理に望ましい影響を与えるための管理会計のあり方について自身で考えられるようになる。

授業の内容 (Course Contents)

近年、組織成員の創造性発揮や組織成員間の連携が一層重要になってきている。創造性や連携のための管理会計に関する論文を読み、議論する。多くは英語論文となるため、春学期から英文読解の準備をしておく必要がある。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 管理会計に関する文献の輪読(1)
3. 管理会計に関する文献の輪読(2)
4. 管理会計に関する文献の輪読(3)
5. 管理会計に関する文献の輪読(4)
6. 管理会計に関する文献の輪読(5)
7. 管理会計に関する文献の輪読(6)
8. 管理会計に関する文献の輪読(7)
9. 管理会計に関する文献の輪読(8)
10. 管理会計に関する文献の輪読(9)
11. 管理会計に関する文献の輪読(10)
12. 管理会計に関する文献の輪読(11)
13. 管理会計に関する文献の輪読(12)
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回の文献を熟読し、議論ができる状態にして授業に臨むこと。自分の報告担当章については、明らかでない点は他の文献等で調べて報告に臨むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席、報告・質疑応答・議論への取り組み(70%)/レポート(30%)

テキスト (Textbooks)

初回授業にて指定。

参考文献 (Readings)

1. 山本浩二ほか編著、2015、『スタンダードテキスト管理会計論第2版』、中央経済社
2. 谷武幸、2022、『エッセンシャル管理会計(第4版)』、中央経済社
3. Amabile, Teresa M., et al., 2018, *Creativity in context: Update to the social psychology of creativity*. Routledge. Routledge
4. 諸藤裕美、2013、『自律的組織の管理会計 原価企画の進化』、中央経済社
5. 横田絵理、1998、『フラット化組織の管理と心理』、慶応義塾大学出版会

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

管理会計特論1を受講していることが望ましい。正当な理由のない欠席は、減点の対象となる。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA353／原価計算特殊講義1 (Advanced Lecture on Cost Accounting 1)		
担当者名 (Instructor)	内野 一樹(UCHINO KAZUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA409 原価計算特論1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

博士論文作成の準備として、原価計算の研究動向について理解し、批判的に検討できるようになる。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容 (Course Contents)

方法論に言及した原価計算の専門文献を輪読し、議論する。外国語文献の場合にも翻訳だけにとどまらず、計算手法とその背後にある理論的根拠を理解するようにする。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション(文献および担当者の決定)
2. 文献の輪読と内容についての議論(1)
3. 文献の輪読と内容についての議論(2)
4. 文献の輪読と内容についての議論(3)
5. 文献の輪読と内容についての議論(4)
6. 文献の輪読と内容についての議論(5)
7. 文献の輪読と内容についての議論(6)
8. 文献の輪読と内容についての議論(7)
9. 文献の輪読と内容についての議論(8)
10. 文献の輪読と内容についての議論(9)
11. 文献の輪読と内容についての議論(10)
12. 文献の輪読と内容についての議論(11)
13. 文献の輪読と内容についての議論(12)
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

輪読文献および関連文献を熟読し、議論ができる状態にして授業に参加すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内の報告、議論の内容(80%)／提出物(20%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

1. 小栗崇資・陣内良昭、2022、『会計のオルタナティブ』、中央経済社 (ISBN:ISBN978-4-502-41521-0)
- 開講時(4月)に履修者と相談の上具体的な文献を指示する。前半は日本語文献を、後半は外国語文献を取り上げる。

参考文献 (Readings)

授業の中で随時紹介する。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA354／原価計算特殊講義2 (Advanced Lecture on Cost Accounting 2)		
担当者名 (Instructor)	内野 一樹(UCHINO KAZUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA410 原価計算特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

博士論文作成の準備として、原価計算の研究動向について理解し、批判的に検討できるようになる。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容 (Course Contents)

特殊講義1に引き続き、方法論に言及した原価計算の専門文献を輪読し、議論する。外国語文献の場合にも翻訳だけにとどまらず、計算手法とその背後にある理論的根拠を理解するようにする。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション(文献および担当者の決定)
2. 文献の輪読と内容についての議論(1)
3. 文献の輪読と内容についての議論(2)
4. 文献の輪読と内容についての議論(3)
5. 文献の輪読と内容についての議論(4)
6. 文献の輪読と内容についての議論(5)
7. 文献の輪読と内容についての議論(6)
8. 文献の輪読と内容についての議論(7)
9. 文献の輪読と内容についての議論(8)
10. 文献の輪読と内容についての議論(9)
11. 文献の輪読と内容についての議論(10)
12. 文献の輪読と内容についての議論(11)
13. 文献の輪読と内容についての議論(12)
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

輪読文献および関連文献を熟読し、議論ができる状態にして授業に参加すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業内の報告、議論の内容(80%)/提出物(20%)
すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

1. 小栗崇資・陣内良昭、2022、『会計のオルタナティブ』、中央経済社 (ISBN:ISBN978-4-502-41521-0)
開講時(9月)に履修者と相談の上具体的な文献を指示する。前半は日本語文献を、後半は外国語文献を取り上げる。

参考文献 (Readings)

授業の中で随時紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA355／税法特殊講義1 (Advanced Lecture on Enterprise Taxation 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	混合配当をめぐる課税問題		
担当者名 (Instructor)	坂本 雅士(SAKAMOTO MASASHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA417 税法特論1と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

資本剰余金を原資とする配当をいかに規律するか。これは 2001 年に資本剰余金からの配当の道が拓かれて以降、その時々
の税制において重要な課題になっている。本講義では、混合配当をめぐる税務論点を整理し、今後の議論の素材を提供する。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容(Course Contents)

国際興業管理事件(最一小判令和 3 年 3 月 11 日裁時 1763 号 4 頁)における二つの争点(混合配当の取扱い、プロラタ計算を
定める政令の違法性)について、いわゆる先後関係問題、資本払戻し部分の食い込み問題という二つの観点から詳細に分析す
る。また、最高裁判決では触れていない「残された課題」についても検討する。

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 資本剰余金を原資とする配当の取扱いをめぐる変遷、発行法人と株主(法人)の税務処理
3. 混合配当とは何か、またどのように処理するか ～二つの考え方～
4. 資本剰余金を原資とする配当の取扱い;プロラタ計算について(資本の払戻し部分、みなし配当)
5. 混合配当をめぐる裁判例・裁判例(地裁、高裁、最高裁)
6. 混合配当と「先後関係問題」①
7. 混合配当と「先後関係問題」②
8. 先後関係問題における「恣意性」とは何か(どのように作用するか) ～簿価純資産の状況との関係から～
9. 混合配当と「資本払戻し部分の食い込み問題」①
10. 混合配当と「資本払戻し部分の食い込み問題」②
11. 先後関係問題と資本払戻し部分の食い込み問題の関係 ～両者は併起するか～
12. マイナスの利益積立金を前提とする課税関係をいかに規律するか
13. 納税者の行動と租税回避 ～なぜ納税者は混合配当を別個独立の配当として扱ったのか～
14. 混合配当に係る最高裁判決を受けて ～残された課題～

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加度(40%)/報告と議論(60%)

すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト(Textbooks)

1. 坂本雅士編、2023、『現代税務会計論 第6版』、中央経済社
初回授業時に指示する。

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA356／税法特殊講義2 (Advanced Lecture on Enterprise Taxation 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	会計基準の複線化と法人税法の対応		
担当者名 (Instructor)	坂本 雅士(SAKAMOTO MASASHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA418 税法特論2と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

企業会計と法人税法との関係はどのようにあるべきか。わが国において、かねて俎上に載せられてきた議論であるが、近年、企業会計側の変容を背景にあらためて関心をあつめている。ここで企業会計の変容とは国際財務報告基準(IFRS)導入を端緒とする会計基準の複線化に他ならない。本講義では、租税法の観点から会計基準の複線化に係る論点を提示し、今後の方向性を考える。

尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容(Course Contents)

会計基準の複線化に対して、これまで法人税制は是々非々で対応してきたが、今後、個別財務諸表に適用される会計基準について、さらにコンバージェンスが進むか、あるいはIFRSの適用が認められた場合、どのような問題が生じるのであろうか。本講義では、解釈論と立法論の観点から検討する。

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 会計基準の複線化の現状と課題
3. 会計基準の複線化が法人税制に及ぼす影響
4. 非上場企業の会計と税務
5. 公正処理基準の判定に係る問題(1) -学説にみる2つの解釈論-
6. 公正処理基準の判定に係る問題(2) -裁判例にみる公正処理基準の解釈-
7. 公正処理基準の判定に係る問題(3) -大竹貿易事件(1993)の影響-
8. 個別規定の解釈に及ぼす影響
9. 公正処理基準の変容と別段の定め -近年の税制改正を俯瞰して-
10. 課税所得計算の基本原則(1)
11. 課税所得計算の基本原則(2)
12. 確定決算主義の再検討
13. 損金経理要件
14. 税制改正の方向

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加度(40%)／報告と議論(60%)

すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト(Textbooks)

1. 坂本雅士編、2023、『現代税務会計論 第6版』、中央経済社
初回授業時に指示する。

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA357／リサーチ手法特殊講義 (Advanced Lecture on Research Methods)		
担当者名 (Instructor)	山崎 由希子(YAMAZAKI YUKIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA450 リサーチ手法特論と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

①社会科学分野におけるさまざまな調査・研究の方法について基礎的な知識を身につけ、自身の行う研究にはどのような方法がもっとも適しているかを批判的に評価検討できるようにする。②課題(文献を読み、その要約を作成する。また文献の中の不明な点・疑問点について簡単なリサーチを行う)を通じて、文章のメインポイントを把握し、端的に要約する力をつける、③授業内での他の参加者との議論を通じ、論理的に考え、話すマナーを身につける。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標にする。

授業の内容(Course Contents)

毎週、課題の読み物が指示される。授業はこの読み物について、学生によるプレゼンテーションと議論を交えて輪読形式で進めていく。基本的なリサーチ手法を学びながら、学生は課題の文献について要約を作成、疑問点・不明な点について自分なりに調べた事柄をまとめたうえで授業に出席することが求められる。

授業計画(Course Schedule)

1. 導入(コース概要・自己紹介)
2. 社会科学の歴史的展開
3. 社会科学分野の調査・研究手法Ⅰ
4. 社会科学分野の調査・研究手法Ⅱ
5. 社会科学分野の調査・研究手法Ⅲ
6. 論文計画に関する発表と議論Ⅰ
7. 論文計画に関する発表と議論Ⅱ
8. 論文計画に関する発表と議論Ⅲ
9. 論文計画に関する発表と議論Ⅳ
10. 論文計画に関する発表と議論Ⅴ
11. 論文計画に関する発表と議論Ⅵ
12. 論文計画に関する発表と議論Ⅶ
13. 論文計画に関する発表と議論Ⅷ
14. 論文計画に関する発表と議論Ⅸ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

受講を希望する学生はあらかじめ自身が関心を持っている研究分野、テーマについて授業内で説明できるように考えておくこと。また基本的に毎週、課題の提出が求められる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席・議論への参加(40%)／課題の提出(30%)／プレゼンテーション(30%)

学生同士の議論を重視する授業であるため、出席は大前提となる(20分以上の遅刻は出席点が半減する)。また、授業を欠席した学生も課題の提出は必須である。＜BR＞すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト(Textbooks)

指定の教科書はないが、適宜授業内で課題の読み物について指示する。

参考文献(Readings)

適宜授業内で指示する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA359／Advanced Lecture on Conference Presentation (Advanced Lecture on Conference Presentation)		
担当者名 (Instructor)	西崎 純代(NISHIZAKI SUMIYO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA457Special Lecture on Conference Presentation と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

- Students will be able to identify factors that will increase the effectiveness of a presentation.
- Students will develop their confidence when giving a presentation in English.
- Students will understand the process of creating a strong abstract and preparing a presentation.
- [Mainly Ph.D. students] Students will understand how to form a presentation panel, construct a strong panel application, and prepare for a group presentation.
- [Mainly Ph.D. students] Students will be able to participate in conference sessions as an active audience, a panel chair, and a discussant.

授業の内容 (Course Contents)

Research presentation is an essential part of graduate studies and professional life. This course is designed to help students present their research in English. In addition to lectures by an instructor, students will participate in mock presentations and constructive feedback exchanges in a friendly atmosphere. Upon request, the class will include guidance on the application for various competitions, professional presentations, or tips for other personal communication. The order of topics may be adjusted to maximize learning outcomes.

授業計画 (Course Schedule)

- Introduction
- Participating in an academic conference: From planning to the day of the presentation
- Creating an effective presentation 1
Analyzing public speeches and presentations: Barack Obama's speech
- Creating an effective presentation 2 (This session includes preparation for an online conference)
- Choosing a conference to attend 1: Introduction to academic communities for English speakers in Japan
- Choosing a conference to attend 2
- Sending an abstract & writing a conference paper 1
- Sending an abstract & writing a conference paper 2
- The day of a conference: Asking a question/coordinating a discussion/serving as a discussant/networking
- A mock conference: Student presentations
Ph.D. students will act as a chair/discussant
- A mock conference: Student presentations
Ph.D. students will act as a chair/discussant
- A mock conference: Student presentations
Ph.D. students will act as a chair/discussant
- A mock conference: Student presentations
Ph.D. students will act as a chair/discussant
- After the conference: how to maintain new connections

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

All students are encouraged to observe academic and professional presentations and public speeches to identify the factors that could enhance communications.

[Mainly Ph.D. students] Students are strongly encouraged to apply for a conference and the activity can be replaced with another mini assignment(s).

成績評価方法・基準 (Evaluation)

8-10 mini assignments (a conference abstract, a conference paper, presentation(s), comments on other student presentations).(100%)

The contents of mini assignments will be decided after the class size is finalized. [If applicable] A rubric for a presentation and a short essay will be available for students. Academic Honesty: [If applicable] Students are required to prepare an original presentation and short essay. Severe penalties are in place for students found guilty of plagiarism offenses. The submission of identical pieces of work for different courses is also considered an academic offense.

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. Kevin Carroll & Bob Elliott. 2005. *Make Your Point!: Speak Clearly And Concisely Anyplace, Anytime*. Authorhouse (ISBN:978-1420804409)
2. William R. Steele. 2016. *Presentation Skills 201: How to Take It to the Next Level as a Confident, Engaging Presenter, Second Edition*. Erie Publishing (ISBN:978-0997332629)
3. Kevin Carroll, Bob Elliott 他, 高松綾子訳、2015、『ビジネスは 30 秒で話せ! (短く、魅力的に伝えるプレゼンの技術)』、すばる舎 (ISBN:978-4799104040)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

Seven class meetings: face-to-face on campus. Seven class meetings: online. The schedule will be announced on Blackboard.

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA361／価値論特殊講義1 (Advanced Lecture on Theory of Value 1)		
担当者名 (Instructor)	佐々木 隆治(SASAKI RYUJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA105 価値論特論1と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

『資本論』および『資本論草稿』をドイツ語の原典で読解し、内容を正確に理解する。また、それをつうじて、マルクスの経済学批判体系の現代的意義についての理解を深めるとともに、関連する論争や学説についての理解も深める。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを付けることを目標にする。

授業の内容 (Course Contents)

『資本論』および関連草稿を輪読する。詳細は参加院生の研究テーマを踏まえて決定する。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(1)
3. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(2)
4. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(3)
5. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(4)
6. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(5)
7. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(6)
8. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(7)
9. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(8)
10. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(9)
11. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(10)
12. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(11)
13. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(12)
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの予習。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(100%)

すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

1. Karl Marx. *Marx Engels Gesamtausgabe, Zweite Abteilung*. Akademie Verlag

参考文献 (Readings)

適宜授業中に指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA362／価値論特殊講義2 (Advanced Lecture on Theory of Value 2)		
担当者名 (Instructor)	佐々木 隆治(SASAKI RYUJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA106 価値論特論2と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

『資本論』および『資本論草稿』をドイツ語の原典で読解し、内容を正確に理解する。また、それをつうじて、マルクスの経済学批判体系の現代的意義についての理解を深めるとともに、関連する論争や学説についての理解も深める。
尚、前期課程よりも高度な知識・スキルを付けることを目標にする。

授業の内容 (Course Contents)

『資本論』および関連草稿を輪読する。詳細は参加院生の研究テーマを踏まえて決定する。

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(1)
3. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(2)
4. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(3)
5. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(4)
6. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(5)
7. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(6)
8. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(7)
9. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(8)
10. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(9)
11. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(10)
12. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(11)
13. 『資本論』および関連草稿のテキストないし関連論文の輪読(12)
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの予習。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(100%)

すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト (Textbooks)

1. Karl Marx. *Marx Engels Gesamtausgabe, Zweite Abteilung*. Akademie Verlag

参考文献 (Readings)

適宜授業中に指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA365／工業経済特殊講義1 (Advanced lecture on Industrial Economics1)		
担当者名 (Instructor)	菊池 航(KIKUCHI WATARU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA303 工業経済特論1と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「一般的ならびに専門的教養の上に、経済、経済政策、会計、経営を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」を実現できるように、産業の理論・歴史・実態を学びます。

産業を分析対象とした研究は、重厚な蓄積を有しています。産業とは、個別企業と経済全体の間位置する広い概念であるため、積み重ねられた研究は多様です。工業経済特殊講義1では、膨大であり多様な蓄積を有する産業研究のなかでも、主に、日本企業が強い国際競争力を有する自動車産業を対象とした実証研究を輪読します。

工業経済特殊講義1では、次の2点を目標とします。

1. 工業経済に関する基礎的な知識を獲得する。
2. 工業経済の研究方法に関する基礎的な知識を獲得する。

なお、前期課程よりも高度な知識やスキルを獲得することを目標とします。

授業の内容(Course Contents)

輪読する論文の意義を理解するため、まず、Academy of Management Journal, Academy of Management Review などに掲載された定性的研究方法に関する論文を輪読します。その後、Enterprise & Society, Industrial and Corporate Change などに掲載された自動車産業を分析対象とした論文を輪読します。

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション: 工業経済特殊講義1の課題
2. 輪読: 産業や企業を対象とした定性的研究の方法(1)
: Building Theories from Case Study Research
3. 輪読: 産業や企業を対象とした定性的研究の方法(2)
: Building Theories from Case Study Research
4. 輪読: 産業や企業を対象とした定性的研究の方法(3)
: Eisenhardt Method
5. 輪読: 産業や企業を対象とした定性的研究の方法(4)
: Eisenhardt Method
6. 輪読: 産業や企業を対象とした定性的研究の方法(5)
: Oral History and Business History
7. 輪読: 産業や企業を対象とした定性的研究の方法(6)
: Oral History and Business History
8. 輪読: 自動車産業研究(1)
: Chinese government and automobile industry
9. 輪読: 自動車産業研究(2)
: Chinese government and automobile industry
10. 輪読: 自動車産業研究(3)
: Hierarchical Clusters
11. 輪読: 自動車産業研究(4)
: Hierarchical Clusters
12. 輪読: 自動車産業研究(5)
: Mirroring in production
13. 輪読: 自動車産業研究(6)
: Mirroring in production
14. まとめ: 現代自動車産業の競争力とは

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義は、主に、英語論文の内容に関するディスカッションです。ディスカッションは日本語で行います。

十分な予習をしてから講義に臨んでください。

そのほか、授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

輪読の報告(40%)/ディスカッションへの貢献(60%)
前期課程よりも高度な達成水準を要求します。

テキスト (Textbooks)

初回講義に文献リストを配布します。

参考文献 (Readings)

適宜, 講義中に提示します。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

全授業回のうち6回はオンラインでの実施を予定しています。実施回については「Canvas LMS」で指示する予定です。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	QA366／工業経済特殊講義2 (Advanced lecture on Industrial Economics2)		
担当者名 (Instructor)	菊池 航(KIKUCHI WATARU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX7023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	KA304 工業経済特論2と合同授業		

授業の目標(Course Objectives)

経済学研究科の教育課程編成方針に掲げる「一般的ならびに専門的教養の上に、経済、経済政策、会計、経営を研究し、その深奥を究め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与する」を実現できるように、産業の理論・歴史・実態を学びます。

産業を分析対象とした研究は、重厚な蓄積を有しています。産業とは、個別企業と経済全体の間位置する広い概念であるため、積み重ねられた研究は多様です。工業経済特殊講義2では、膨大であり多様な蓄積を有する産業研究のなかでも、デザインやブランドに着目した実証研究を輪読します。

工業経済特殊講義2では、次の2点を目標とします。

1. 工業経済に関する基礎的な知識を獲得する。
2. 工業経済の研究方法に関する基礎的な知識を獲得する。

なお、前期課程よりも高度な知識やスキルを獲得することを目標とします。

授業の内容(Course Contents)

輪読する論文の意義を理解するため、まず、Research Policy, Journal of Business Researchなどに掲載されたデザインマネジメントやブランドマネジメントに関する論文を輪読します。その後、Business History, Business Horizonsなどに掲載された特定の産業を分析対象とした論文を輪読します。

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション: 工業経済特殊講義2の課題
2. 輪読: デザインマネジメント(1)
: Design, innovation, boundaries of the firm
3. 輪読: デザインマネジメント(2)
: Design, innovation, boundaries of the firm
4. 輪読: ブランドマネジメント(3)
: What is a luxury brand?
5. 輪読: ブランドマネジメント(4)
: What is a luxury brand?
6. 輪読: 産業研究(1)
: European luxury big business
7. 輪読: 産業研究(2)
: European luxury big business
8. 輪読: 産業研究(3)
: Transformation of global luxury brands
9. 輪読: 産業研究(4)
: Transformation of global luxury brands
10. 輪読: 産業研究(5)
: Role of history in corporate brand strategy
11. 輪読: 産業研究(6)
: Role of history in corporate brand strategy
12. 輪読: 産業研究(7)
: Governance of Global Value Chains
13. 輪読: 産業研究(8)
: Governance of Global Value Chains
14. まとめ: 産業の競争力とは

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義は、主に、英語論文の内容に関するディスカッションです。ディスカッションは日本語で行います。

十分な予習をしてから講義に臨んでください。

そのほか、授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

輪読の報告(40%)/ディスカッションへの貢献(60%)
前期課程よりも高度な達成水準を要求します。

テキスト (Textbooks)

初回講義に文献リストを配布します。

参考文献 (Readings)

適宜, 講義中に提示します。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

全授業回のうち6回はオンラインでの実施を予定しています。実施回については「Canvas LMS」で指示する予定です。

注意事項 (Notice)

